

2 0 0 3

# 授業概要

【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAYUME GAKUEN COLLEGE



## 目次(保育科)

<b>教養教育科目(1年)</b>	1
ヒューマニズム論	3
総合科目・人間	4
総合科目・生命	5
現代とヒューマニズムⅠ(近代国家と戦争)	6
現代とヒューマニズムⅡ(消費社会と欲望)	7
現代とヒューマニズムⅢ(科学技術と生命)	8
人物研究Ⅰ[和泉式部]	9
人物研究Ⅱ[柳田国男]	10
人物研究Ⅲ[有島武郎]	11
心理学入門Ⅰ[心のしくみ]	12
心理学入門Ⅱ[性格と人間関係]	13
体の不思議	14
生物の世界と人間	15
人間と環境	16
生と死を考える	17
人間の生と性	18
生活と健康	19
教養体育(実技)	20~22
教養体育(講義)	23
外国語Ⅰ	24~31
外国語Ⅱ	32~39
海外語学研修	40
情報処理入門	41~42
選択外国語 英会話(基礎)	43
選択外国語 ビジネス英語	44
選択外国語 時事英語	45
選択外国語 異文化コミュニケーション	46
言語とコミュニケーション	47
手話入門	48
文学芸術・フィクションと人間	49
造形美術とイメージーション	50
話し言葉の伝承	51
絵本・絵巻と物語表現	52
源氏物語の世界	53
近現代の日本文学	54
庶民の生活文化	55
現代の文化と風俗	56
現代英米の文学	57
世界の児童文学	58
比較文化論・近代文明と日本人	59
国境を越える民俗学	60
現代社会と人権	61
憲法と私たち(日本国憲法)	62
日本とアジアの近現代史	63
現代社会と教育	64

社会福祉の考え方	65
男と女・ジェンダーを考える	66
現代世界とマイノリティー	67
女性労働の問題	68
地域生活と家族	69

## 専門教育科目(1年) 71

社会福祉	73
地域の福祉	74
児童福祉	75
保育原理Ⅰ	76
保育原理Ⅱ	77
保育者論	78
教育原理	79
教育の思想と歴史	80
発達心理学	81
遊びの発達心理学	82
教育心理学	83
家族援助論	84
小児保健Ⅰ	85
小児保健Ⅱ	86
小児栄養Ⅰ	87
教育課程総論	88
保育内容総論	89
保育内容 健康	90
保育内容 言葉	91
乳児保育Ⅰ	92
音楽Ⅰ	93~95
図画工作	96
ゼミナールⅠ	97
幼稚園実習	98
実習指導	99
保育所実習Ⅰ	100

## 教養教育科目(2年) 101

海外語学研修	103
選択外国語 英会話(応用)	104
選択外国語 フランス語会話	105
選択外国語 ドイツ語会話	106
選択外国語 英文購読	107

## 専門教育科目(2年) 109

社会福祉援助技術	111
現代保育の課題	112

養護原理	113
小児保健実習	114
小児栄養Ⅱ	115
精神保健	116
保育内容 人間関係	117
保育内容 環境	118
保育内容 表現	119~121
幼児の運動遊び	122
子どもの活動と自然	123
お話しの世界	124
子どもの音楽の世界	125
子どもの造形と遊び	126
遊びと身体表現	127
乳児の遊び	128
保育計画法	129
幼児教育の方法	130
乳児保育Ⅱ	131
養護内容	132
障害児保育	133
保育臨床相談	134
音楽Ⅱ	135~136
体育	137
ゼミナールⅡ	138~156
幼稚園実習	157
実習指導	158~159
保育所実習Ⅱ	160
施設実習Ⅰ	161
施設実習Ⅱ	162



教養教育科目（1年）





【授業科目】 ヒューマニズム論	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">「ヒューマニズムは間違っている！」と言う人は多くはないが、 では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のか。</p> <p>「人間を大切にするのはアタリマエだ」では、「自分の思想」にも「学問」にもならない。そういう発想は、「世間的通念」に流されているだけなのではないか。「人間中心主義」こそが地球を危機に陥れた、とさえ言われている現在、「ヒューマニズム」は、本当に我々の「支え」になりうるのか。つまり、「現代におけるヒューマニズム」は、可能なのか。</p> <p>「ヒューマニズムの精神」は、白梅学園「建学の理念」ともされているが、その「理念」自体も、自由な学問的立場で検証されなければならない。</p> <p>本講では、上記のような問題意識のもと、「近代以後の人間のあり方」を考えることを出発点として、現在、<u>何によって人間が圧迫されているか、何に抗って「人間を大切にする」のか</u>、というアクティブな問題に迫っていきたいと思っている。大学生になった諸君が、知的に、根源的に「自分自身と世界」を考えるための、一つのキッカケになれば、と願っている。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
----- 【参考書】 必要に応じ、講義中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「根源的（ラディカル）に考える」態度について       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「根源的に問う」こと</li> <li>② 「自己」と「世界」</li> <li>③ 何が「人間」を価値づけるか——「神のある世界」と「神の無い世界」</li> </ol> </li> <li>2 我々の状況——近代における「人間」の問題       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 近代と前近代——「人間」の問題として</li> <li>② 「神・超越性」と近代人</li> <li>③ 近代的「人間」観と、その問題点</li> <li>④ 「近代ヒューマニズム思想」について</li> <li>⑤ 何に抗って「人間を大切に」するのか</li> </ol> </li> <li>3 現代の状況と人間       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「国家」と人間</li> <li>② 「資本」と人間</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば、（予備知識が全く無くても）分かるはずである。大学での講義ノート・メモの取り方には慣れていないと思われるので、最初はメモの要点も指示しながら進める。大切なことは「知識」や「結論」ではない。疑問を持つこと、考えること。諸君の中に「問題意識」を喚起することを最大の目標にしたい。</p>	
【評価方法】 学期末に、ノート（そのほか何でも）持ち込み可の、記述式テストを行う。それと、出席点を加味して評価する。ノートをしっかり取っていることが大切だ。	

【授業科目】総合科目・人間「言語活動と人間」	【担当者】東・中島・佐々
【開講期】一年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>東：人間とことば。</p> <p>中島：文学作品を通して、言語が人と人との関係をどのように作り出しているかを見る。</p> <p>佐々：生活の中で生きていく言語を扱い、その方向を探れるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>東・中島：プリントを使用　佐々：使用しない。適宜プリントを配布する</p>	
<p>【参考書】東・中島：授業中に紹介する</p> <p>佐々：筆者の著書『コミュニケーション能力弱者のQOL援助』ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>東→中島→佐々 の順で授業する。</p> <p>東：次の順で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人類の起源と言葉の創造</li> <li>(2) ことばの役割</li> <li>(3) ことばの功罪</li> <li>(4) 「場」の民主性と言語表現</li> </ol> <p>中島：次の順で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 『ジョイ・ラック・クラブ』に見る、世代間の言語と言語間の強弱</li> <li>(2) 欲望と権力：『ソフィーの選択』（アウシュヴィッツ）</li> <li>(3) 沈黙と歴史：『ピラヴド』（アメリカ黒人奴隷制）</li> <li>(4) まとめとして：作家の言語（『月と六ペンス』）</li> </ol> <p>佐々：計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ことばの正体を探る</li> <li>(2) 見えないことばを読む</li> <li>(3) ことばを育てる筋道を考える</li> <li>(4) ことばを育むプログラムの検討</li> </ol>	
<p>【評価方法】東：ペーパーテスト（60分）実施（参照可）。</p> <p>中島：出席点とレポート</p> <p>佐々：平常点の重視、レポートによる評価</p>	

【授業科目】総合科目 生命	【担当者】柳下登・近藤正樹・明渡陽子
【開講期】後期	
<p>【授業目標】半年間に3人の教員が担当するオムニバス形式の総合科目である。</p> <p>20世紀後半に発展した分子生物学は、従来の生物学・農学・医学を包括した形で生命現象を分子レベルで理解する生命科学を成立させた。この生命科学に、物理・化学的アプローチが加わることで、21世紀に入り、「生命」の概念が大きく変貌しつつある。30数億年前に生まれた生命、その由来から高度科学技術文明が作り出した生命操作に至るまで、地球上に生存してきた「生命」に対する理解を通して、地球に生きる多様な生命の中の一つにすぎない人類の位置づけを考察する。さらに農学・生物学・医学をbackgroundにもつ3人がそれぞれの視点で、21世紀の生命科学の課題を学生諸君と共に考えたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>柳下登：プリントを使用  近藤正樹  明渡陽子：プリントを使用</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>柳下登：どこまで描ける生物進化 宇佐美正一郎（新日本出版社）生命の塵 植田充美訳（翔泳社）自然の恩恵をひきだすために 柳下登（たたら書房）遺伝子組み換え作物に未来はあるか 柳下登（本の泉社）</p> <p>近藤正樹  明渡陽子：生命とは何か（岩波新書）</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のスケジュールに沿って行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命とはなにか：明渡陽子</li> <li>2. 生命の由来（物質の由来・太陽系・地球・生命体）：柳下登</li> <li>3. 地球生物と進化：柳下登</li> <li>4. 地球生物と環境：近藤正樹</li> <li>5. 地球生物と種の保存（自己保存・自己増殖・自動制御）：近藤正樹</li> <li>6. 生命科学の誕生と生命：明渡陽子</li> <li>7. 21世紀の課題：生命はどこへゆくのか。（それぞれの専門分野から）  柳下登  近藤正樹  明渡陽子</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>柳下登：出席状況と筆記テスト  近藤正樹  明渡陽子：出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 現代とヒューマニズムⅠ	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>戦争と平和の問題を通じてヒューマニズムについて考える。平和という言葉の定義も含め、平和であるということとはどのような状態を言うのか、また、そうなるためにはどういった取り組みが必要であるかを検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>平和の定義と意味を考える上で、まずは、平和的でない状態、平和の対局にあると考えられる戦争の問題を通して検討してみたい。その際、一昨年9月11日の同時多発テロ以降の動きを素材に、何故あのような事態が起こったのか、その解決に向けての方法は適切であったのかを検討してみることは重要なてがかりとなるだろう。また、現在緊張が高まっているイラクや朝鮮民主主義人民共和國情勢（2003年1月時点）についても、そのような事態に立ち至った原因と今後の行方について検証することも有効だろう。</p> <p>そうした時、現代の戦争や地域紛争の発生原因として民族や宗教の問題、あるいは「文明の対立」といった形で説明されることがあるが、果たしてそのようなとらえ方は妥当であろうか。近代における国民国家の成立やナショナリズム形成の問題としてとらえる視点は有効ではないだろうか。これらを具体的に検討してみたい。</p> <p>戦争のない状態＝平和とは言えず、それ以外にも平和的でない状態を生み出す諸要因がある点も見逃してはならないだろう。</p> <p>戦争を回避し、平和を求める取り組みはこれまでも蓄積され、また今現在も続けられている。近代の平和思想の歴史をふりかえりながら、その足跡を辿り、有効性を検証することも試みたい。</p> <p>以下のような柱立てを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇同時多発テロは何故起きたか－歴史的経過を探る意味</li> <li>◇報復戦争の意味するもの－テロへの対応は「戦争」か</li> <li>◇「悪の枢軸」というレッテルが意味するもの－アメリカの世界戦略</li> <li>◇現代の戦争、地域紛争とその原因－民族、宗教、「文明の対立」を検討する</li> <li>◇国民国家形成とナショナリズム－フランス、イギリス、ドイツ、そして後発国日本の場合</li> <li>◇近代の平和思想の歴史－『永遠平和のために』、パリ不戦条約の系譜</li> <li>◇不戦への挑戦、その可能性は－日本国憲法、コスタリカの挑戦、国連改革、国家を超える</li> <li>◇構造的暴力の問題－貧困、飢餓、差別、人権侵害を生み出す社会構造</li> <li>◇平和への課題－人権・福祉そして平和</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に適宜小レポートの提出を求めることがある。</p>	

<p>【授業科目】現代とヒューマニズムⅡ (消費社会と欲望)</p>	<p>【担当者】 大岡 聡</p>
<p>【開講期】1年前期</p>	
<p>【授業目標】 「最新のファッションに身を包むととても気分がいい!」「人が持っていないバッグをもっているとなんだか鼻が高いなあ」「ちょっと食べ過ぎちゃった、ダイエットしなきゃ」「バーゲンで洋服買い過ぎちゃったので、お昼はマクドの59円バーガーで我慢しよう」・・・これらは「豊かな」日本社会に暮らす私たちの日常の一コマ。でも「何だか変だ」と思うことはないですか? 「豊かな」モノとひきかえに何か失っていませんか? モノに振り回されていませんか? 「豊かな」私たちの一方で、飢えた人もいるのはなぜ? 「地球にやさしい」暮らし方ってなんだろう? この講義を通じて消費社会といわれる現代の、私たちのくらしと社会を反省的に考察してみましよう。</p>	
<p>【テキスト】 テキストは用いません。毎回プリントを配ります。</p>	
<p>【参考書】 とりあえず、辻信一『スロー・イズ・ビューティフル』(平凡社)、大平健『豊かさの精神病理』(岩波書店)、エリック・シュローサー『ファーストフードが世界を食い尽くす』(草思社)、島村志津『スローフードな人生』(新潮社)は入門書としてオススメです。手にとって気に入ったものを1冊以上読んでみて下さい。 もっと深く勉強したいひとは、上野千鶴子『&lt;私&gt;探しゲーム』(筑摩書房)、見田宗介『現代社会の理論』(岩波新書)、ナオミ・クライン『ブランドなんか、いらない』(はまの出版)、ジュリエット・B・シヨア『浪費するアメリカ人—なぜ要らないものまで欲しがるか』(岩波書店)、スーザン・ジョージ『なぜ世界の半分が飢えるのか』(朝日新聞社)、山本武利・西沢保編『百貨店の文化史』(世界思想社)をお薦めしておきます。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>講義では、まず日本における消費社会の形成過程(消費社会化の歴史)をたどるなかで、現代消費社会を相対化する歴史的視点と、消費社会を考察する基本的視点の獲得を目指します。それに続き現代消費社会の問題点を考察し、あるべき消費社会とかしこい消費者像を展望します。 構成は以下の通り。</p> <p>オリエンテーション・イントロダクション (1)リサイクル社会としての江戸 (2)身分制の解体と文明開化 (3)百貨店の誕生①—小売業の革新 (4)百貨店の誕生②—消費社会の演出者 (5)近代家族と文化生活—消費の主体 (6)生存から生活へ (7)美と健康—消費と身体 (8)戦争と生活 (9)高度成長と大衆消費社会の確立 (10)現代消費社会と人間—さまざまな問題点 (11)消費社会と世界—なぜ世界の半分は飢えるのか? (12)かしこい消費者になろう!—消費社会の彼方へ</p> <p>プリントのほかビデオモニターなども使用します。 毎回コメントカードに、講義の感想や自分の意見を書いてを提出してください。その一部は次の講義で紹介することがあります。</p>	
<p>【評価方法】 毎回コメントカードを提出してください(出欠を兼ねます)。 学期末にレポートを提出してもらいます。出欠状況とレポートの成績により総合的に評価します。</p>	

【授業科目】現代とヒューマニズム III (科学技術と生命)	【担当者】柳下登・明渡陽子
【開講期】前期	
<p>【授業目標】</p> <p>高度科学技術文明といわれる現代文明の基盤となっている科学技術は、人間の自然を理解する「科学」という営みから生まれ、その成果を日常の経験世界から広大な宇宙・微細な物質の世界にまで応用しつつ進歩をとげ、それらから人類は多くの恩恵を受けた。しかし同時に、それは地球規模でより多大な問題を引き起こしてきた。この授業では、物理学、生物学、医学などの近代科学と技術が相互に影響し合いながら創り上げた科学技術の過程を知ること、現代文明の一つの横顔の理解を計る。さらに、クローン人間という言葉に代表されるように、人間生命が科学技術の対象となる「生命の技術化」を可能にした現代文明の問題点を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>柳下登 : プリントを使用 明渡陽子 : プリントを使用</p>	
<p>【参考書】</p> <p>柳下登 : 新編自然科学入門 甲斐義幸 (学術図書) 科学の考え方・学び方 池内了 (岩波書店) 世界のたね E. ニュート (NHK 出版) 未来のたね 左に同じ 遺伝子組み換えに未来はあるか 柳下登ら (本の泉社)</p> <p>明渡陽子 : 上記の参考書類の中のどれか。</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のテーマに沿って行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私達が生きている高度科学技術文明とはいかなる文明か</li> <li>2. 科学技術はどのように生まれたか (発想・思考の原点)</li> <li>3. 道具や方法はどのように科学技術の発展に寄与したか (発想・思考の作用ベクトル方向)</li> <li>4. 近代科学 (天文学・力学などの物理学・数学・生物学・医学など) と科学技術の発展との相互作用</li> <li>5. 近代科学の発展と先端技術—その光と影—</li> <li>6. 人間生命と科学技術のゆくえ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>柳下登 : 出席状況と筆記テスト 明渡陽子 : 出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 人物研究Ⅰ（和泉式部）	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】紫式部に「けしからぬ」所があると評された、和泉式部をとりあげる。  和泉は「あらざらむ此の世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな」（百人一首）や「黒髪の乱れも知らずうち伏せば先ずかき遣りし人ぞ恋ひしき」などの歌で知られ、情熱の歌人とか恋多き歌人と言われる平安時代の女性であるが、その和歌の世界は、「恋」にのみ止まらないスケールを持っている。和歌という短詩が持つ可能性や彼女の創作方法について考えたい。またそのテーマと実人生との関わりを問題にしていく。  時代のモラルと苦闘しながらも、冷徹なまなざしで自己の思いを和歌に結晶させていった一人の女性芸術家の軌跡を追い、その現代的な意味を明らかにしていきたい。</p>	
【テキスト】 プリントを配布	
<p>-----</p> <p>【参考書】 山中裕 著 人物叢書『和泉式部』吉川弘文館  増田繁夫著 『冥き途一和泉式部伝一』世界文化社  清水好子著 王朝の歌人6『和泉式部 恋歌まんだら』集英社  久保木 著 日本の作家13『実存を見つめる 和泉式部』新典社 ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のようなことをテーマに、講義をしたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 悪女の評判さまざま  すでに彼女が生きていた頃から、その評判は宜しくはないが、平安以降はどうだったのか。様々な文献から、各時代の人々が思い描いた和泉式部の人物像を見ていく。</li> <li>2, 実人生を辿る  少女期の環境  最初の結婚と破綻  冷泉皇子兄弟との恋愛と死別  後宮出仕  再婚  娘との死別</li> <li>3, 実体験から和歌表現へ</li> <li>4, 恋歌と死の歌のあわい  恋歌を超える眼差し</li> <li>5, 実存のテーマと方法・  和歌の時空  「自己客体視」の方法  連作の方法</li> <li>6, 歌集と日記</li> <li>7, 仏教的心性の問題</li> <li>8, 和泉式部和歌の評価をめぐる問題</li> </ol> <p>* 古文が読めなくても、大丈夫です。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】人物研究Ⅱ・「柳田国男」

【担当者】東 喜 望

【開講期】1・2年後期

【授業目標】柳田(旧姓・松岡)国男<明治8年—昭和37年>は、貧しい医師の子として兵庫県神崎郡福山崎町で生まれた。大学を卒業してのち彼は、それまで問題にもされなかった民衆の生活とその文化を調査・研究し日本民俗学の基礎礎を築いた。この授業では、柳田の生涯の行跡をたどりながら、激動の「近代」における彼の学問の成果と思想の意義を明らかにしていきたい。

【テキスト】資料プリント集を配布する。スライド・ビデオ上映。

【参考書】牧田茂『柳田国男』(中公新書)・中村哲『柳田国男の思想』(法政大学出版局)  
谷川健一『柳田国男の民俗学』(岩波新書)・鹿野政直『近代日本の民間学』(岩波新書)

### 授 業 計 画

#### 講義の概要

##### 1. 生いたち

- ・「日本一小さい家」-----松岡家の一つの不幸。
- ・利根川畔・布川徳満寺絵馬の衝撃。-----濟世救民の志。

##### 2. 就学と詩人松岡国男

- ・伊良湖山甲への旅と島崎藤村「椰子の実」

##### 3. 民俗学の夜明け

- ・農政学から民俗学へ——『後狩詞記』・『遠野物語』

##### 4. 官界から言論界へ

- ・旅と学問——大正デモクラシーと民衆文化の発掘

##### 5. 日本民俗学の石確立

- ・『海上の道』——壮大なる仮説-----日本民族の南方起源説

##### 6. まとめ——柳田の学問と思想は「近代」を超えることができるか。

【評価方法】定期試験時の筆記試験による。(配布プリント集・ノート・参考書等参照可)



【授業科目】 人物研究Ⅲ（有島武郎）	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】 「時代の中で、誠実に生きようとする」とは、どういうことか。 有島武郎（ありしまたけお、1878-1923）という人物は、「情熱の芸術家」でもあり、「革命的思想家」でもあるが、それ以前に、時代の現実を深く見詰め、「人間」を圧迫するものと闘い続けようとした「一人の人間」だ。</p> <p>資産家・大農場主の家に生まれながら、やがて、小作人に、無償で農場を解放した有島。自殺未遂の果てにクリスチャンになりながら、やがて「信仰」と訣別した有島。アメリカ留学中も「近代文明」の歪みを見詰め「新たな人間らしい文明」を求めつづけた有島。ロシア革命を擁護しながら、同時に、革命政権の独裁制を厳しく批判し、闘おうとした有島。日露戦争に反対し、朝鮮の植民地化に反対し、諸民族の自由と連帯を希求した有島。</p> <p>こうした闘いの中で孤立し、やがて、夫のある女性との激しい恋愛に命を燃やし、二人で共に自殺すること——「心中」に追い込まれていった有島。</p> <p>有島武郎の遺した日記や手紙、彼が生きた当時の札幌やアメリカ、ヨーロッパの資料、作品や評論を紹介しながら、「誠実に時代の歪みと闘い続けた人間」としての有島武郎を語りたい。</p> <p>我々は、有島の「自殺（心中）＝挫折（玉砕）」を、どうしたら乗り越えることが出来るか、いかにしたら、有島の遺志を継いで「人間を圧迫するもの」と闘うことが出来るか、という問題を考えていければ、と願っている。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
<p>【参考書】 高原二郎著『人と作品・有島武郎』清水書院 刊 栗田廣美著『死と飛躍・有島武郎の青春』右文（ゆうぶん）書院 刊 栗田廣美著『亡命・有島武郎のアメリカ』右文（ゆうぶん）書院 刊 ——本学図書館に何冊か置いてもらう予定。近所の公立図書館にも、どしどし「リクエスト」しよう！</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生き立ちと、札幌での青春 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「特権階級の優等生息子」から、いかに「脱出」するか。</li> <li>② 「神」と「人間」——自殺未遂とキリスト教入信</li> <li>③ 「家」と「国家」——反抗と訣別</li> </ol> </li> <li>2 アメリカ・ヨーロッパでの思想形成 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「アメリカ＝巨大な近代文明」と「日露戦争」の重圧</li> <li>② キリスト教からの離脱と、個性的な思想の形成</li> <li>③ 中世ヨーロッパと「自由なコンミュン」への憧れ</li> </ol> </li> <li>3 日本での闘いと挫折 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 芸術・思想・革命・自由</li> <li>② 農場解放の理想と現実</li> <li>③ 恋愛と死</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば、（予備知識が全く無くても）分かるはずである。大切なことは「知識」や「結論」ではない。興味を持つこと、考えること。有島を通して、諸君の中に「人間」への問題意識を喚起することを、最大の目標にしたい。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて書く形式。しっかりノートをとって、講義を聴いていけば大丈夫。出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 心理学入門Ⅰ[心のしくみ]	【担当者】 心理学科専任教員
【開講期】 1年前期	
<b>【授業目標】</b> 心理学という学問の歩みやそれぞれの分野でのトピックを通して、人間を心理学的な視点から見る態度を養います。	
<b>【テキスト】</b> <b>【参考書】</b> 個々の授業の中で紹介します。	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の歴史と基本的立場-----金子</li> <li>2. 知覚心理学-----金子</li> <li>3. 実験心理学-----多喜乃</li> <li>4. 学習心理学-----荻野</li> <li>5. 発達心理学(青年心理学)-----林</li> <li>6. 人格心理学-----金</li> <li>7. 臨床心理学-----林</li> <li>8. 健康心理学-----金</li> <li>9. 生理心理学-----多喜乃</li> <li>10. 社会心理学-----倉澤</li> <li>11. 心理学の研究法-----荻野</li> <li>12. 心理学と社会-----倉澤</li> </ol> <p>※授業の順序は多少入れ替えられることがあります。</p>	
<b>【評価方法】</b> 出欠席と期末試験(マークシートによる客観テストを予定)により評価します。	

【授業科目】 心理学入門Ⅱ [性格と人間関係]	【担当者】 林 潔
【開講期】 教養教育1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>サブタイトル &lt;性格について&gt;</p> <p>併せて今日の心理学の基本的な考え方について紹介します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>いろいろなタイプの人がありますね。  同じ事についても受け取り方は、人によってさまざまです。  どうしてなのでしょう。  なぜ人は、その人なりのやり方で行動するようになるのでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動についての心理学の見方 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経験を重視する</li> <li>(2) ものの見方を重視する</li> <li>(3) 過去の経験、特に幼児期の経験を重視する</li> </ol> </li> <li>2. 「血液型と性格」は？</li> <li>3. 今日の性格についての考え方</li> <li>4. 人間関係について考える</li> </ol> <p>質問歓迎です。Mailも使ってください。  hayashi@shiraume.ac.jp</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、指定図書レポート、期末試験で評価します。</p>	

【授業科目】 体の不思議	【担当者】 村田 務				
【開講期】 1年後期					
<p>【授業目標】</p> <p>1) 人間の身体と生命活動に対する知的探求心を喚起し、身体の特徴的なしくみと働き、外界との繋がりに関する基礎知識について理解させる。</p> <p>2) 自らの体の不思議さと巧みさを知ることによって、「生命活動の主体」として自分自身を認識する基盤を形成させる。</p>					
【テキスト】 使用せず					
<p>【参考書】</p> <p>菊池俊英：人間の生物学、理工学社、1976年。  香原姿勢：人類生物学入門、中公新書、1975年。  佐藤方彦：人間と気候、中公新書、1987年。  藤田紘一郎：共生の意味論、講談社ブルーバックス、1997年。  宮城重二：女性はなぜ長生きか、講談社ブルーバックス、1996年。ほか</p>					
授 業 計 画					
<p>今日、いじめや児童虐待、自殺、薬物使用、買春、売春など、他人や自分自身の生命及び健康、人権に関わる諸問題が社会的問題としてクローズアップされてきている。これら背景には様々な事柄が考えられている。その1つとして「自他の体に対する尊厳の念が希薄で、自他の体や命を大切にするという意識が薄れているのではないか」という指摘もされている。</p> <p>教科目「体の不思議」では、人間の体の仕組みと働きの理解を通して、「ヒトの体の不思議さ」や「人間のからだのすばらしさ」に触れる。そして、人間の、自分自身や他人の生命や健康、人権の大切さについて考える契機とする。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>1 温度に対する恒常性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜゾウは水浴びをするか</li> <li>・なぜヒトは汗をかくか</li> <li>・なぜヒトは鳥肌が立つか</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>2 気候と人類の適応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜラクダは砂漠で強いのか</li> <li>・なぜヒトの体温は37℃か</li> <li>・なぜヒトは人種によって体型が違うか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>3 外敵から体を守るしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜヒトはばい菌の中で生きていけるか</li> <li>・なぜ寄生虫が減るとアレルギーが増えるか</li> <li>・なぜ心配事があると胃が痛むのか</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>4 男女の不思議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ女性は長生きか</li> <li>・なぜ男と女がいるの</li> <li>・なぜヒトは異性を求めるか</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p>1 温度に対する恒常性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜゾウは水浴びをするか</li> <li>・なぜヒトは汗をかくか</li> <li>・なぜヒトは鳥肌が立つか</li> </ul>	<p>2 気候と人類の適応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜラクダは砂漠で強いのか</li> <li>・なぜヒトの体温は37℃か</li> <li>・なぜヒトは人種によって体型が違うか</li> </ul>	<p>3 外敵から体を守るしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜヒトはばい菌の中で生きていけるか</li> <li>・なぜ寄生虫が減るとアレルギーが増えるか</li> <li>・なぜ心配事があると胃が痛むのか</li> </ul>	<p>4 男女の不思議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ女性は長生きか</li> <li>・なぜ男と女がいるの</li> <li>・なぜヒトは異性を求めるか</li> </ul>
<p>1 温度に対する恒常性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜゾウは水浴びをするか</li> <li>・なぜヒトは汗をかくか</li> <li>・なぜヒトは鳥肌が立つか</li> </ul>	<p>2 気候と人類の適応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜラクダは砂漠で強いのか</li> <li>・なぜヒトの体温は37℃か</li> <li>・なぜヒトは人種によって体型が違うか</li> </ul>				
<p>3 外敵から体を守るしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜヒトはばい菌の中で生きていけるか</li> <li>・なぜ寄生虫が減るとアレルギーが増えるか</li> <li>・なぜ心配事があると胃が痛むのか</li> </ul>	<p>4 男女の不思議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ女性は長生きか</li> <li>・なぜ男と女がいるの</li> <li>・なぜヒトは異性を求めるか</li> </ul>				
<p>【評価方法】 平常試験（レポート又はペーパーテスト。学習意欲と出席を重視する。）</p>					

【授業科目】 生物の世界と人間	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間は生き物（生物）の一種にすぎません。パスカル（哲学者）が言ったように「考える」ことのできる生物です。生物としての共通点とヒト（生物の一種）としての特異点を再確認した上で私たち「人間」の生き方を見直していくことを主な目標としています。その中で科学的な考え方、態度にふれて頭の使い方の練習（思考訓練）も上達するようにします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>	
<p>【参考書】</p> <p>なし</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 生物と無生物</p> <p>    気体の世界、流体の世界、流体という考え方、固体と結晶、ポーリング説を展開して</p> <p>2. 生物の紀元</p> <p>    ①流体の中での変性、高分子化への道、solとgel、表面膜の特化</p> <p>    ②単純から複雑へ、未分化から分化へ、発達と退化</p> <p>3. 生物の種類と分類</p> <p>    分類すること、系統分類法、世界共通の名称（学名）世界で繁栄した生物とその原因</p> <p>4. 個体維持と種族維持</p> <p>5. 集団（個体群）としての人間集団</p> <p>6. 集団（群集）の中の人間の位置と役割</p> <p>7. 昆虫の社会と高等動物の社会</p> <p>8. 動物の社会と人間の社会</p> <p>9. 「考える」動物としての長所と限界</p> <p>10. 人間はこれから何を努力しなければならないか</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと定期試験</p>	

<b>【授業科目】</b> 人間と環境	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b>	
<b>【授業目標】</b> 35億年前の海の中で最初の原始生物が誕生したといわれている。以後、地球環境の全体システムは、様々な生物と密接に関係しながらいく度かの大変革を経て現在の姿を作りあげてきた。私たち人間を含めた地球上のあらゆる生物は、周囲の大気や水や土壌といった環境と微妙な均衡を保ちながら生活しているのである。 様々な環境汚染、自然破壊、種の消滅などは、このシステム全体の単純化につながり、ヒトの生存をも危うくする。私たちひとりひとりの生活のあり方が問われている。	
<b>【テキスト】</b> プリントなど	
<b>【参考書】</b> 授業中に適宜紹介する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宇宙の中の地球            宇宙のこと 銀河系のこと 太陽系のこと そして地球</li> <li>2. 地球環境の変遷            原始地球の姿 生命の誕生 生物の進化と地球環境</li> <li>3. 地球環境系と生命            生命を育む天体地球 地球を作る物質 太陽エネルギー            大気の働き 水の働き 二酸化炭素やオゾンなど化学物質の働き</li> <li>4. 生態系の構造と機能            生態系とは 非生物的要素と生物の群集            物質の循環とエネルギーの流れ</li> <li>5. 地球環境悪化と生態系            地球温暖化 温室効果ガス・温暖化の影響            森林の現象 熱帯雨林の破壊と生物の多様性の崩壊            様々な人工化学物質の氾濫 環境ホルモン            水の汚染・大気の汚染・土壌の汚染            オゾン層の破壊 紫外線と生物</li> <li>6. 生活の中の環境問題            資源 消費 廃棄            自然生態系でのリサイクル 人工生態系でのリサイクル</li> <li>7. ふたつのエコ 環境倫理</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 平常点＋筆記試験	

【授業科目】 生と死を考える	【担当者】 嶋根 久子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 人は死に直面した時、生きているという実感を一層強くもつと言われている。しかしながら、核家族化が進行する中で、寿命が飛躍的に延び、加えて病院で死を迎える昨今、我々は死を体験する機会が非常に減少している。従って、この講義では、人のもつ「追体験」という能力をフルに活用して、より充実した生を目指して、様々な角度から、死について考えてみたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】『死の社会学』 副田義也編、岩波書店、『死ぬ瞬間』 キューブラ・ロス、読売新聞社、『生と死を考える』 アルフォンス・デーケン、春秋社など。</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) 死の諸相  ①病死②事故死③災害における死④自死⑤自然死</p> <p>(2) 家族と看護、あるいは死の看取り  ①死の諸相による家族の影響②子供の死③親の死④高齢者の死⑤配偶者の死</p> <p>(3) 死者の年齢別に見た、残された家族の問題  ①配偶者の死②子供の死③親の死</p> <p>(4) 死の受容の諸形態  ①死にゆく人②残された家族</p> <p>以上のことを主なテーマとするが、その際、より一層の理解を深めることを目的として、視聴覚教材を援用しながら、講義を進める。</p>	
<p>【評価方法】 評価はレポートとする。授業期間中に見たビデオについて、そのつどレポートを提出し、それらと最終レポートとを合わせて評価を決める。</p>	

【授業科目】	人間の生と性	【担当者】	浅井 春夫
【開講期】	1年 後期		
【授業目標】	性を明るく、おおらかに、そして科学的に語れる基礎的な力をつけてもらいたいと願っている。具体的には、①人間の性に関するミニマム・エッセンスを学ぶことを通して、性的自立と性的共生能力をはぐくんでいくことを大切にする。私たちが自分らしく、そしてお互いを大切に生きる上でどのような性行動を選択するかが問われているからである。②セクシュアル・マイノリティの人権の現実を学ぶ。性に関する偏見をなくしていくことは共生の重要な条件であるからである。③タイムリーな性に関する問題を討論できる場を設けたい。この時代に生きる一人ひとりの生と性を見つめ直す機会としたいからである。人間の生と性の科学的な理解と性をめぐる人間関係を真摯に学んでほしい。		
【テキスト】	浅井春夫『セクシュアル・ライツ入門』（十月舎、2000年、2500円+税）		
【参考書】	浅井春夫・伊藤悟・村瀬幸浩共編『日本の男はどこから来て、どこへ行くのか』（十月舎、2001年、2500円+税） 浅井春夫『子ども虐待の福祉学』（小学館、2002年、1700円+税）		
授 業 計 画			
<p>テキストをもとに以下のような計画をたてているが、タイムリーな問題をとりあげて講義することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 本授業での問題意識と授業の運営についての共通確認</li> <li>② セクシュアリティに関する基本的な用語の説明</li> <li>③ マイノリティ（ゲイ、トランス・ジェンダー、インターセックス etc）のセクシュアル・ライツ—いまも平然と行われる差別と偏見、それは性と政をめぐる問題</li> <li>④ 子どものセクシュアル・ライツの現状—わが国と世界の現実から—</li> <li>⑤ 子どもの性的発達の特徴と性をはぐくむ課題—とくに男性形成の問題を考える</li> <li>⑥ 避妊を学ぶ—妊娠と避妊のしくみ、女性用コンドーム、ピル</li> <li>⑦ 恋愛のススメ—恋愛を発展させる方法、グループ討論「こんな場合、どうする？」</li> <li>⑧ 性器の生理学—男と女の性器はもとは同じだった！性器の構造を学ぶ</li> <li>⑨ 性交の人間学—性交は人間にとって、二人の関係にとってどのような意味をもっているのか。二人の関係性を反映した性交の現実を考える</li> <li>⑩ 生殖医療の最前線（体外授精、代理母など）をめぐる討論—あなたは賛成？反対？</li> <li>⑪ エイズの政治学—その南北問題としての側面</li> <li>⑫ セクシュアリティの過去・現在・未来—性の主体者として生きるために</li> </ol>			
<p><b>キーワード</b></p> <p>セクシュアル・ライツ（性的人権）、セクシュアリティ（その人らしい性のあり方）、性の多様性、セクシュアル・オリエンテーション（性的指向）、同性愛（ゲイ、レズビアン）、トランス・ジェンダー、Aセクシュアル、インターセックス、避妊、ピル</p>			
【評価方法】	定期試験		



【授業科目】生活と健康	【担当者】明渡陽子
【開講期】後期	
<p>【授業目標】</p> <p>健康の概念理解と健康であることの意義（個人のレベル・社会の一員としてのレベルなど）を考える。さらに、加齢と言う生理現象を背景として、一生健康である（健康維持・健康増進）ために必要な知識の習得と健康な生活設計の方法の習得をめざす。また、最近の健康問題についても、その背景・原因の理解とその対策を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>栄養、健康科学シリーズ 健康管理概論（南江堂）とプリントを使用</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>以下の内容についての講義を行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康の定義</li> <li>② 個人・集団の健康指標</li> <li>③ 健康成立条件（vs 疾病とは＝疾病の成り立ちと疾病予防の段階・対策など）</li> </ol> </li> <li>2. 高齢社会とわが国の健康水準</li> <li>3. 最近の健康問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>①生活習慣病（癌・脳血管障害・虚血性心疾患・糖尿病など）</li> <li>②アレルギー疾患</li> <li>③その他（エイズ・狂牛病・環境ホルモン・フロンとオゾン層の破壊・精神ストレス問題等）</li> </ol> </li> <li>4. 健康管理法（健康生活設計法の習得） <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食事</li> <li>② 運動</li> <li>③ 休養とストレス</li> <li>④ 飲酒・喫煙の健康への影響について</li> </ol> </li> <li>5. 女性の医学（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン・性病などの主な婦人科疾患の理解・人工妊娠中絶と避妊について）</li> <li>6. わが国の保健医療体制</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 教養体育（実技）／バレーボール	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体運動やスポーツの体験を通して、自らの身体を実感的に意識させるとともに、健康に関する認識を深めさせたり体力を高めて、「健やかに生きる基盤」を形成することを旨とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に用いない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>西川 順之助：バレーボール、成美堂、1995年。 日本バレーボール協会：バレーボール・ルールブック、2003年度版</p>	
授 業 計 画	
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。</p> <p>適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。教材として用いる「バレーボール」は、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>教養体育（実技）の授業では、これらの観点から将来にわたってスポーツや身体運動が継続できるように、楽しい授業や技術の向上がわかる授業、自ら活動し創り出す授業をめざす。</p> <p><u>バレーボール</u></p> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人的技能：パスとトス、サーブとレシーブ、スパイクとブロッキング</li> <li>・ 集団的技能：攻めと守りのフォーメーション、トスゲーム、3段攻撃、ルール作り</li> <li>・ 指導技術：技術指導法、体力トレーニング法、審判法</li> </ul> <p>授業の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体活動：共通課題の解決</li> <li>・ グループ活動：班別課題の練習と解決、指導法、練習法の習得</li> <li>・ ゲーム：練習成果の確認、新しい課題の発見、審判法の習得</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）。活動意欲と参加体験（授業出席）を重視する。</p>	

<b>【授業科目】</b> 教養体育（実技） ／テニス	<b>【担当者】</b> 岡田 光弘
<b>【開講期】</b> 1年前期	
<b>【授業目標】</b>  テニスに関する知識と技能について学習し、実践していくことで「健康やかに生きるための基盤」をえることを目標にする。	
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない  <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <b>【参考書】</b> 特に指定しない	
授 業 計 画	
<p>自分たちが、練習の計画を立て、自分たちだけでスムーズにゲームが進められるよう、以下のような技術について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ボール、ラケットになれる。</li> <li>2) フォアハンド・ボレー</li> <li>3) バックハンド・ボレー</li> <li>4) フォアハンド・ストローク</li> <li>5) バックハンド・ストローク</li> <li>6) サービス／レシーブ</li> <li>7) ドリル、試合の仕方</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 出席を重視する。知識の獲得、技術の進歩、積極的、協調的な態度を評価する。	

<b>【授業科目】</b> 教養体育（実技） /エアロビクス&フィットネス	<b>【担当者】</b> 松村朋子
<b>【開講期】</b> 前期	
<b>【授業目標】</b> ・ 講座の目的は、運動不足の解消や運動機能の向上をはかり、健康で美しい身体をつくることである。また、楽しみながら運動すること体験してほしい。 ・ エアロビクスダンスでは、ダンスの基本的な運動を中心に身体を動かし、最終的には動きのプログラムの習得と発表を行う。また、ストレッチによって柔軟性を	
<b>【テキスト】</b> 使用しない。	
<b>【参考書】</b> 使用しない。	
授 業 計 画	
<p>1、ウォーミングアップ          身体を温め、ストレッチによる準備体操を行う。          からだ全体を使って、自由に運動できるように柔軟性を高める。          普段あまり使わない筋肉を意識的に動かす。</p> <p>2、基本コンビネーション          スキップ、ツーステップ、ターンなど基本的な動きを使った短いコンビネーションを習得する。簡単な動きを覚えて、繰り返しの動きの楽しさを体験し、リズム感を養う。</p> <p>3、ダンスプログラムの習得          コンビネーションを組み合わせて構成された動き（2分程度）を覚える。</p> <p>4、グループでの動きの構成と実演          習得した動きをグループで構成して発表する。          最後の授業にてビデオ撮影を行い、クラスで鑑賞する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<b>【評価方法】</b>	

【授業科目】教養体育（講義）	【担当者】野田達也
【開講期】1年後期前半	
<p>【授業目標】</p> <p>健康な身体の維持、増進に対して運動が持つ効果について学習し、自分自身が健康な身体を獲得していくとともに、周りの人間に対してもアドバイスできるよう正しい知識を得ることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特になし。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に指定しない。</p>	
授 業 計 画	
<p>人間が健康な身体を維持し、生活していくためには体力が必要となる。また、生活習慣病（肥満、糖尿病、高血圧症、心筋梗塞）や、骨粗鬆症などを引き起こさないためには、運動を実践することが必要となってくる。健康な身体の維持、または増進に対して運動が持つ効果について、生理学的な面から学習する。</p> <p>1) 体力についての概念  2) エネルギー摂取量・消費量  3) 体脂肪率の判定  4) 骨量、骨粗鬆症  5) 全身持久力  6) 運動処方  7) 運動療法</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席を重視する。ペーパーテストおよび学習意欲についても評価の対象とする。</p>	

【授業科目】 外国語I (英語)	【担当者】 清野茂子
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>英語を通じて、園生活の具体的な場面を学習の中で、          未来の保育者という能動的な立場に立って、積極的に、          英語を學んでいくことを目標にします。</p>	
<p>【テキスト】 “保育の英語” 羊1,700 三修社</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 20章からなる構成で、前期と後期で、それぞれ              10章ずつ読みながら、関連のある話題も              とり入れていく予定。</li> <li>○ Hearingも毎時間練習してみます。</li> </ul>	
<p>【評価方法】 平常テスト、期末テスト 及び 出席日数を総合して          評価します。</p>	

【授業科目】外国語 I (英語)	【担当者】スワン・W・ローレンス
【開講期】1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>ありません</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>ありません</p>	
授 業 計 画	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキットを作り、おぼえ、そのあと演じてもらう。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. friendly greetings</li> <li>2. making choices</li> <li>3. misplacing and looking for things</li> <li>4. talking about accidents</li> </ol> <p>注：<u>このクラスを取る学生は全部のクラスに出席すること。欠席・遅刻については厳しく取り扱う。</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>成績の基準はクラスで（ドラマ作り）とれだけ積極的に参加したかに基づいて付ける。</p>	

【授業科目】	外国語Ⅰ(英語)	【担当者】	新井紀代
【開講期】	1年前期		
【授業目標】	<p>国際化が進む中、保育所などでも英語を初めとする外国語を用いることが必要になってきました。そのような状況に置かれた場合を想定し、少しでも円滑なコミュニケーションが取れるよう、基礎的な英語力を身につけることを目指します。</p>		
【テキスト】	<p>『保育の英語』（三修社）  <u>Airwaves Basic</u> (Macmillan)</p>		
授 業 計 画			
<p>前期・後期とも上記の2冊をテキストとして使用します。</p> <p>『保育の英語』には、毎日の生活に密着した英語表現がたくさん出てきます。各章に設置されている確認問題や対話練習などを通して少しずつ自分のものにしていってください。</p> <p><u>Airwaves Basic</u>は、初級レベルのリスニング用テキストです。最初は聞き取るのに多少苦勞するかもしれませんが、しかし週1日とはいえ、毎回英語を聞くことで耳がだんだんと英語の音に慣れてきます。地道な訓練を続けてリスニングの力を向上させましょう。</p>			
【評価方法】	<p>授業態度・試験の結果・出席などをもとに判断します。</p>		



【授業科目】教養教育(保育科) 外国語 I (英語)	【担当者】 磯山 滯一
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 次の3点を目標にします。</p> <p>(1) 英語のニュースを用いて聞く力をのばす。</p> <p>(2) 比較的短くて平易な英文を用いて読む力をのばすとともに、英語の文法・構文の基本を習得する。</p> <p>(3) 学習した英文などを活用して自分のことを表現できるようにする。</p>	
<p>【テキスト】 プリントを使用します。事前に配布するので予習を。</p>	
<p>【参考書】 「新しい英文読解法」 天満 美智子著 (岩波ジュニア新書)</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) 英語ニュース NHKの夜7時または10時のニュースの英語放送を用いて聞く力をのばします。内容が最近起こったことなので分かりやすく、ヒアリングの練習に適したものです。</p> <p>(2) 読むことと文法・構文の学習 アメリカの人生相談のコラム、皆さんの先輩が書いた英文、やさしい新聞記事などを用いて、読む力をのばすと同時に、英文の構造理解や表現に役くだてるようにします。 次のようなテーマをとりあげます。 1. 自己紹介    2. 家族    3. 趣味    4. 学校生活    5. いじめ 6. 幼稚園実習    7. 選択的夫婦別姓    8. 小子化 構文・文法については、単文、重文、複文、従属節と従属節の中の従属節など文全体の構造を把握することを中心にします。</p> <p>(3) 英文自己表現 テキストや先輩の書いた英文を参考に毎回3～5文程度の英文で自分のことを表現する練習をします。 幼稚園実習の前には、テキストとして先輩たちの書いた英文を学習し、実習後に皆さんの体験を10～15文程度の英文で書く練習をします。</p>	
<p>【評価方法】 テスト、小レポート、出席状況を総合して評価します。</p>	

【授業科目】 外国語Ⅰ

【担当者】 藤田 久美子

【開講期】 1 年前期

【授業目標】

リーディング及びリスニングを中心に、英語の基本的技能を維持し、向上させていく事を目的とする。

【テキスト】

「Real Stories in the News」(成美堂)

【参考書】

### 授 業 計 画

このクラスでは、比較的に楽に読める様な英語記事の二語を数多く読んでいく事を通して、細かく日本語に訳さなくても、内容を理解していく力を養いたいと思ひ。

英語の文章を読む事に慣れる方法には、多少分らない単語や表現があっても、大抵文に合せて、想像力を駆使してとらえ、最後まで読みかた(ま)にとだと思ひ、分らなかつたところは、何度も読みかた(ま)とまかく推量してみ、後で確認のために辞書を調べてみるのが望ましい。

この方法を使って読んだ後には、内容理解のための問題、単語や表現についての問題等をやる事になる。

授業の前には、各自予習をして、問題点を把握させておく事が望ましい。特にリスニング問題をコピーして取って、やるべきと思ひ、何れも積極的な参加を望ましい。

【評価方法】

平常点と期末テストの結果を総合して評価する。

【授業科目】 外国語 I (中国語)	【担当者】 陳 志華
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 この授業の目標は、①中国語の発音、②中国語の日常会話、③中国語の基本文法、を身につけることである。	
【テキスト】 方如偉・王智新・鏡屋一著 『新版 中国語 10 課』 白水社。	
..... 【参考書】 必要に応じて紹介する。	
授 業 計 画	
<p>1、中国語の発音及び文法を基本から学習する。</p> <p>2、簡単な日常会話を基礎とした内容を反復しながら、対話する練習を積み重ねていく。</p>	
【評価方法】 平常点（出席、小テスト）と期末テストで評価する。	

【授業科目】外国語Ⅰ（フランス語）	【担当者】森佳子
【開講期】1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1：フランス語の発音の美しさに親しむ</p> <p>2：名詞、冠詞、形容詞の特徴を知る</p> <p>3：基本的な動詞の使い方を知り、活用が自在にできるようにする</p> <p>4：疑問文、否定文の作り方、使い方を知る</p>	
【テキスト】数藤ゆきえ・酒井由紀代著 『モン フランセ ひとりで学ぶフランス語』駿河台出版社	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1：フランス語の発音 アルファベと綴り字記号、発音</p> <p>2：名詞 男性名詞、女性名詞、単数、複数、不定冠詞、定冠詞、部分冠詞</p> <p>3：形容詞 形容詞の性と数、形容詞の位置、特殊な変化をするもの、名詞の女性形と特殊な複数形、指示形容詞、所有形容詞</p> <p>4：動詞 フランス語の8つの主語、動詞 être の現在形、動詞 avoir の現在形</p> <p>5：疑問文、否定文 疑問文の作り方、否定文の作り方、前置詞 à、de と定冠詞の縮約</p> <p>6：規則動詞 er 動詞、ir 動詞、代名動詞</p> <p>7：不規則動詞 aller と venir、近い未来と近い過去、その他の不規則動詞、命令法</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、提出物、定期試験などをもとに、後期と総合して評価する。</p>	

【授業科目】 外国語 - I (ドイツ語)	【担当者】 田中 安行
【開講期】 1年前期	
<b>【授業目標】</b> 1. ドイツ語の基礎を学ぶ。簡単な会話と文法、表現の仕方などの基礎を得させる。 2. 現代のドイツの人々の生活や風物に触れ、ドイツ語とドイツへの親しみを増すようにする。 3. ドイツの歴史や文化と社会に対する正しい知識と理解を通して国際的教養を身につける。 4. 和やかな雰囲気での授業を目指し、ドイツ語の知識だけでなく、ドイツ文化に触れる機会を多くする。	
<b>【テキスト】</b> 開講時に説明する。	
<b>【参考書】</b> 開講時に説明する。	
授 業 計 画	
<b>【授業計画】</b> 1. 音声訓練——ビデオ教材やテープを利用して、ドイツ語の音声に慣れ、理解できるような訓練を行う。 2. 音声表現——教材の重要表現を習得して、音声による自己表現もできるように学習する。 3. ドイツ語による会話——会話を学びながらドイツ人の生活や考え方を理解する。 4. ドイツ語の文構造理解——ドイツ語会話の文を元にしてドイツ語の文構造と文法を理解する。 5. 文化理解——ドイツ文化およびドイツの歴史や現状に対して正しい知識と認識を得る。ドイツの詩や歌も学んでドイツ人の感情も理解する。 6. 文章理解——辞書の使い方を学びながら、やさしいドイツ語の物語を使って、文構造の理解をすすめる、さまざまなドイツ語の文に慣れていくようにする。  <b>【授業方法】</b> 1. 毎時間前半は簡単なドイツ語会話や詩や歌を覚えて、自然にドイツ語で話し聞くことに慣れていく。 2. やさしい会話表現を通してドイツ人の生活や考え方やドイツ文化を理解する。 3. 会話文の練習問題を行って、その文を分析してドイツ語の文構造のルールを発見する。文法を受け身でなく、自分から積極的に発見して身につけて使えるようなものにする。 4. ドイツの地理、歴史、文学、音楽などの資料（ビデオ・スライド・写真など）を使って自分たちでさまざまなものを発見出来るような学習活動をして、ドイツの歴史や現状に対して正しい知識と理解を得る 5. ビデオやインターネットなどのメディアを通して、現代のドイツの人々の生活や風物に触れ、ドイツ語をより身近に感じられるようにする。 6. 小グループを作っていつもそれを中心にして、ドイツ語の発音練習や会話、その他の学習活動を進めて、なごやかな雰囲気で充実した学習ができるようにする。	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況や発言などの平常点と口頭による質疑応答や小テストとレポートおよびテストなどで総合的に評価する。	

【授業科目】 外国語Ⅱ(英語)	【担当者】 清野茂子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>英語を通じて、園生活の具体的な場面を学習の中で、          未だの保育者という能動的な立場に立って、積極的に、          英語を學んでいくことを目標にします。</p>	
<p>【テキスト】 “保育の英語”      ¥1,700      三修社</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 20章からなる構成で、前期と後期で、それぞれ 10章ずつ読みながら、関連のある話題も とり入れていく予定。</li> <li>○ Hearingも毎時間練習してみます。</li> </ul>	
<p>【評価方法】 平常テスト、期末テスト 及び 出席日数を総合して 評価します。</p>	

【授業科目】 外国語II (英語)	【担当者】 スワン・W・ローレンス
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>ありません</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>ありません</p>	
授 業 計 画	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキットを作り、おぼえ、そのあと演じてもらう。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. friendly greetings</li> <li>2. making choices</li> <li>3. misplacing and looking for things</li> <li>4. talking about accidents</li> </ol> <p>注：このクラスを取る学生は全部のクラスに出席すること。欠席・遅刻については厳しく取り扱う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>成績の基準はクラスで（ドラマ作り）とれだけ積極的に参加したかに基づいて付ける。</p>	

【授業科目】	外国語Ⅱ(英語)	【担当者】 新井 紀代
【開講期】	1年後期	
【授業目標】	<p>国際化が進む中、保育所などでも英語を初めとする外国語を用いることが必要になってきました。そのような状況に置かれた場合を想定し、少しでも円滑なコミュニケーションが取れるよう、基礎的な英語力を身につけることを目指します。</p>	
【テキスト】	<p>『保育の英語』（三修社）  <u>Airwaves Basic</u> (Macmillan)</p>	
授 業 計 画		
<p>前期・後期とも上記の2冊をテキストとして使用します。</p> <p>『保育の英語』には、毎日の生活に密着した英語表現がたくさん出てきます。各章に設置されている確認問題や対話練習などを通して少しずつ自分のものにしていってください。</p> <p><u>Airwaves Basic</u>は、初級レベルのリスニング用テキストです。最初は聞き取るのに多少苦勞するかもしれませんが、しかし週1日とはいえ、毎回英語を聞くことで耳がだんだんと英語の音に慣れてきます。地道な訓練を続けてリスニングの力を向上させましょう。</p>		
【評価方法】	<p>授業態度・試験の結果・出席などをもとに判断します。</p>	



【授業科目】 教養教育(保育科) 外国語II(英語)	【担当者】 磯山 滯一								
【開講期】 1年後期									
<b>【授業目標】</b> 前期講座に引きつづき次の3点を目標にします。 (1) 英語のニュースを用いて聞く力をのばす。 (2) 比較的短くて平易な英文を用いて読む力をのばすとともに、英語の文法・構文の基本を習得する。 (3) 学習した英文などを活用して自分のことを表現できるようにする。									
<b>【テキスト】</b> プリントを使用します。事前に配布するので予習を。									
<b>【参考書】</b> 「新しい英文読解法」 天満 美智子著 (岩波ジュニア新書)									
授 業 計 画									
<p>(1) 英語ニュース          NHKの夜7時または10時のニュースの英語放送を用いて聞く力をのばします。後半には、アメリカのABC, CNN, イギリスのBBCなどのニュースも用います。</p> <p>(2) 読むことと文法・構文の学習          アメリカの人生相談のコラム, 皆さんの先輩が書いた英文, やさしい新聞記事などを用いて, 読む力をのばすと同時に, 英文の構造理解や表現に役くだてるようにします。後期は新聞記事を多くします。          次のようなテーマをとりあげます。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 日本の祝祭日</td> <td>2. 台風・気象</td> <td>3. 共働き</td> <td>4. 公害</td> </tr> <tr> <td>5. 死刑廃止問題</td> <td>6. 保育園実習</td> <td>7. 成人の日</td> <td></td> </tr> </table> <p>構文・文法については, 前期に学習した単文, 重文, 複文, 従属節, 従属節の中の従属節など文全体の構造を把握に加えて, 後置修飾語句, 分詞構文, 仮定法などを学習します。</p> <p>(3) 英文自己表現          テキストや先輩の書いた英文を参考に毎回英文を書く練習をします。自分の考え, 経験などのほかに出来るだけ社会的なテーマで書くようにします。保育園実習についての感想を文集にします。</p>		1. 日本の祝祭日	2. 台風・気象	3. 共働き	4. 公害	5. 死刑廃止問題	6. 保育園実習	7. 成人の日	
1. 日本の祝祭日	2. 台風・気象	3. 共働き	4. 公害						
5. 死刑廃止問題	6. 保育園実習	7. 成人の日							
<b>【評価方法】</b> テスト, 小レポート, 出席状況を総合して評価します。									

【授業科目】 外国語Ⅱ

【担当者】 藤田久美子

【開講期】 1年後期

【授業目標】

リーディング及びリスニングを中心に、英語の基本的技能を維持し、向上させていく事を目的とする。

【テキスト】

「Real Stories in the News」(成美堂)

【参考書】

### 授 業 計 画

このクラスでは、比較的文脈に読める様々な話題のニュースを多く読んでもらう事を通して、細かく日本語に訳さなくても、内容を理解していく力を養いたいと思ひ。

英語の文章を読む事に慣れるという方法は、多少分らない単語や表現があっても、あまり気にしないで、想像力を駆使してとにかく最後まで読みきかて(ま)とせたいと思ひ、分らなかつたところは、何度も読みながら、ともかく推量してみ、後で確認のために辞書を調べてみる事が望ましい。

このような方法を使って読んだ後には、内容理解のための問題、単語や表現についての問題等を行ってみる事にする。

授業の前には、各自予習をして、問題点を明らかにしておく事を希望している。特にリスニング問題をコピーして読んで、やりたいと思ひ、何れも積極的な参加を希望している。

【評価方法】

平常点と期末テストの結果を総合して評価する。

【授業科目】 外国語Ⅱ(中国語)	【担当者】 陳 志華
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業の目標は、①中国語の基本文法の理解力、②中国語の会話能力、③中国語文章の読解力、をさらに高めることである。</p>	
<p>【テキスト】 方如偉・王智新・鏡屋一著</p> <p>『新版 中国語10課』白水社。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1、中国語の日常会話をさらに練習し、中国語文章の読解及び簡単な文章づくりを行う。</p> <p>2、中国文化及び急激に変化している中国民衆生活の実態を学びながら、中国語の教養を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点(出席、小テスト)と 期末テストで評価する。</p>	

【授業科目】外国語Ⅱ（フランス語）	【担当者】森佳子
【開講期】1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1：フランス語を通して、フランス文化を理解する</p> <p>2：過去形、未来形の作り方、使い方を知る</p> <p>3：いろいろな疑問文や比較級の作り方、使い方を知り、さらに幅広い表現力をつける</p> <p>4：フランス語特有の代名詞の使い方を知る</p>	
【テキスト】数藤ゆきえ・酒井由紀代著 『モン フランセ ひとりで学ぶフランス語』駿河台出版社	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>8：過去形 複合過去、avoir+過去分詞、être+過去分詞、代名動詞の複合過去</p> <p>9：未来形 単純未来、前未来</p> <p>10：いろいろな疑問文 疑問副詞、疑問代名詞、疑問形容詞、非人称構文</p> <p>11：比較 比較級、最上級</p> <p>12：代名詞 補語人称代名詞、強勢形人称代名詞、所有代名詞、指示代名詞、中性代名詞</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、提出物、定期試験などをもとに、前期と総合して評価する。</p>	

【授業科目】外国語 - II (ドイツ語)	【担当者】田中 安行
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語の基礎を学ぶ。簡単な会話と文法、表現の仕方などの基礎を得させる。</li> <li>2. 現代のドイツの人々の生活や風物に触れ、ドイツ語とドイツへの親しみを増すようにする。</li> <li>3. ドイツの歴史や文化と社会に対する正しい知識と理解を通して国際的教養を身につける。</li> <li>4. 和やかな雰囲気 of 授業を目指し、ドイツ語の知識だけでなく、ドイツ文化に触れる機会を多くする。</li> </ol> <p>注： 外国語 - II (ドイツ語) は、外国語 - I (ドイツ語) 修得者又はその学力のある者が履修できる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>開講時に説明する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>開講時に説明する。</p>	
授 業 計 画	
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声訓練——ビデオ教材やテープを利用して、ドイツ語の音声に慣れ、理解できるような訓練を行う。</li> <li>2. 音声表現——教材の重要表現を習得して、音声による自己表現もできるように学習する。</li> <li>3. ドイツ語による会話——会話を学びながらドイツ人の生活や考え方を理解する。</li> <li>4. ドイツ語の文構造理解——ドイツ語会話の文を元にしてドイツ語の文構造と文法を理解する。</li> <li>5. 文化理解——ドイツ文化およびドイツの歴史や現状に対して正しい知識と認識を得る。ドイツの詩や歌も学んでドイツ人の感情も理解する。</li> <li>6. 文章理解——辞書の使い方を学びながら、やさしいドイツ語の物語を使って、文構造の理解をすすめる、さまざまなドイツ語の文に慣れていくようにする。</li> </ol> <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎時間前半は簡単なドイツ語会話や詩や歌を覚えて、自然にドイツ語で話し聞くことに慣れていく。</li> <li>2. やさしい会話表現を通してドイツ人の生活や考え方などドイツ文化を理解する。</li> <li>3. 会話文の練習問題を行って、その文を分析してドイツ語の文構造のルールを発見する。文法を受け身でなく、自分から積極的に発見して身につけて使えるようなものにする。</li> <li>4. ドイツの地理、歴史、文学、音楽などの資料 (ビデオ・スライド・写真など) を使って自分たちでさまざまなものを発見出来るような学習活動をして、ドイツの歴史や現状に対して正しい知識と理解を得る</li> <li>5. ビデオやインターネットなどのメディアを通して、現代のドイツの人々の生活や風物に触れ、ドイツ語をより身近に感じられるようにする。</li> <li>6. 小グループを作っていつもそれを中心にして、ドイツ語の発音練習や会話、その他の学習活動を進めて、なごやかな雰囲気 with 充実した学習ができるようにする。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況や発言などの平常点と口頭による質疑応答や小テストとレポートおよびテストなどで総合的に評価する。</p>	

【授業科目】海外語学研修	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期・2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>イギリスに約4週間滞在することによって、生の英語に接し、英語運用能力を高める。また、イギリスで生活し、名所旧跡を訪ねることによって、イギリスの生活習慣や文化を肌で感じ体得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>授業の中心は8月2日出国、イギリスはリーズ市にあるリーズ・メトロポリタン大学の語学センターで3週間実施される語学研修にホームステイしながら参加、8月27日帰国のイギリス滞在にある。しかし、出発に備えて、前期に5回の事前指導を行う。パスポートの取得から、渡航手続きをこの期間に行い、あわせて現地での基礎情報や生活情報、そして必要最低限の英語の学習を行う。参加費は、別に配布されるチラシを参照のこと。英語力については、一切問わず、ゼロからでも現地の先生が懇切丁寧に指導してくれ、帰国するときには、英語の面白さが身にしみてわかるだろう。全期間当事者が同行する。なお、最低催行人数に達しない場合は、実施されないこともあるので注意。</p> <p>予定内容（あくまでも予定）</p> <p>5回の事前指導</p> <p>8月2日 成田出発 直行便にてロンドン</p> <p>8月3日 ロンドンからリーズへ</p> <p>8月3日—8月24日 ホームステイして、メトロポリタン大学の語学センターにて研修</p> <p>8月24日 リーズからロンドンへ</p> <p>8月25日 ロンドン市内観光</p> <p>8月26日 ロンドン・ヒースローから帰国の途</p> <p>8月27日 成田帰国</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、出席点に現地での課題成績を加味して評価する</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 長谷川 洋介
【開講期】 1 年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代の情報化社会ではコンピュータが大きな役割を果たしています。この講座では、キーボードの使い方やいろいろなソフトウェアの使い方を通して、コンピュータについて理解を深め、情報化社会で積極的に活躍するための技術と素養を養います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>随時プリントを配布します。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>参考書、参考文献を授業で紹介します。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報化社会とコンピュータシステムについて</li> <li>2. Windows システムと操作方法</li> <li>3. 日本語ワープロソフト (Word) の基本操作 (3 級程度の文書作成)</li> <li>4. 表や罫線を使う文章作成 (2 級程度の文書作成)</li> <li>5. 図形や段組を使う文書作成 (1 級程度の文書作成)</li> <li>6. 表計算ソフト (Excel) の基本操作</li> <li>7. データベースの作成と操作</li> <li>8. 図形描画と小物作成</li> <li>9. 電子メールの送受信</li> <li>10. インターネットと情報検索</li> <li>11. パワーポイントとプレゼンテーションの作成</li> <li>12. 簡単なホームページ作成と情報発信</li> <li>13. その他</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業中での課題提出、電子メールによるレポート提出および出席状況などから評価します。</p>	

【授業科目】情報処理入門	【担当者】丸山 有紀子
【開講期】1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>情報化社会において必須となる、情報リテラシーをワープロソフト、インターネット、表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトの利用を通して身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">プリントを配布する</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータを使い始めるにあたっての説明          コンピュータの各部分の名称、使い方の説明。          ログオンとログオフ、IDとパスワード。          タイピングの方法、簡単な文章の入力。</li> <li>2. ネットワークの活用1          WWWによる情報検索、電子メールの利用。</li> <li>3. ワードプロソフトの利用          基本操作。          基本的な文書のスタイル。</li> <li>4. 表計算ソフトの利用          基本的な操作、データ入力の仕方。          数値データの入力、計算。          グラフの作成。</li> <li>5. ネットワークの活用2          Webページの作成。</li> <li>6. プレゼンテーションソフトの利用          基本的な操作。          プレゼンテーション資料の作成。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、授業中に行う課題およびレポート。</p>	



【授業科目】 選択外国語 英会話 (基礎)	【担当者】 サラ ブロック (Sarah Brock)
【開講期】 1年前期・1年後期	
<b>【授業目標】</b> 日常会話をやさしく紹介する。相手を理解する能力と返事ができるスタミナ(?)を一年かけて身につける。自分のことや文化についてコミュニケーションがしたい意欲が芽生える授業にする	
<b>【テキスト】</b> プリント (将来まとめてテキストにします)	
<b>【参考書】</b> 電子辞書、紙の辞書 (パックス講談社) など	
授 業 計 画	
<b>〔前期〕</b> (1-3週) 自己紹介のプリント、どうやって学校に来る?自分の近所はどういうところ?現在形と現在進行形中心の授業にする。 (4-8週) 話題の範囲を広げて、テレビやアニメなど現代日本の文化について話す。「以前はこうだったけど今はこうなっている」、文章をながくして会話する。 (8-12週) 東京では洋服店、喫茶店、ケーキ屋さんなどは世界一の数。どうやってよい店を見つけ出す?情報交換や意見交換の会話をします。 (13-15週) インタビューテストの受け方について説明し、実行する。日本語を一切使わない会話ができる?もちろん場所の名前や英語で開設する日本語は認める。(大丈夫、緊張しない、やさしくするから)。  <b>〔後期〕</b> (1-3週) 夏休みの課題は、スケジュール手帳の中に夏の出来事について、日本語でメモる。このメモをベースに夏休みについて会話をする。過去の夏(子供のとき)と今の夏ってどう違う?今年苦労したところは?将来夏休みに旅行したい?などの話題も含む。 (4-8週) ペットについて・自然について・学校生活について・旅行について、様々な話題を取り上げる。分野が変わるにつれ語彙も増える。辞書を忘れないで持ってきて。 (8-12) セルフォーン、DVD、コンピューター、どんどんテクノロジーが日常生活にはいり、その生活を急変することもある。自分はこの渦の中で何を考えている?意見を述べる力を身につける。 (12-15週) 自分の色・自分の名前・自分の夢を、自分らしく、そして相手が納得し感動するよう、言葉や声の使い方を調整し、完全版を提出する。できればインタビューテストもする。	
<b>【評価方法】</b> 課題やレポートの提出、プリントの提出、インタビューテストなど。授業の中でテストが行う。	

【授業科目】 選択外国語 ビジネス英語	【担当者】 田中 安行
【開講期】 前期	
<b>【授業目標】</b> 1. 基本的なビジネス英語を速く、正確に、深く読む力をつける。 2. 英語で書かれた世界の生活、文化、歴史などに関する文章や時事問題、英詩、エッセイ、物語などに触れながら、英語を理解する力をつける。 3. 上記を通して 21 世紀に生きる人間としての広い教養と国際的なものの見方や考え方を学び、21 世紀の人間に必要な生き方を身につけられるような学習を目指す。	
<b>【テキスト】</b> 開講時に指示する。	
<b>【参考書】</b> 開講時に指示する。	
授 業 計 画	
<b>【授業計画】</b> 1. 文章理解 ビジネスに必要なさまざまな形式の英文を使って、チャンク毎に文の構造を理解させながら、パラグラフ・リーディングや要約、速読などの方法を通して文章の内容理解ができるようにする。 2. 国際的なビジネス問題の理解 現代世界の経済や政治など時事問題などの英語教材を用いて広い視野で学び、世界のビジネスにおける文化や歴史的背景を理解し、世界の様々な分野で活動するための基礎的な英語力と教養を身につける。 3. 音声訓練 ビジネスで使う基本的な英会話のパターンに慣れるように音声教材を使いながら、練習をする。 4. 音声表現 視聴覚教材や読み物教材の重要表現を習得して、対話や会議で用いる英語を音声で表現できる力をつける。  <b>【授業方法】</b> 1. ビジネスに必要な平易な E-mail の英文の読み方、書き方を学び、実際に送受信してみる。 2. 保育、福祉、一般事務などさまざまな分野の実務的な英会話の基本を学び、訓練する。 3. それぞれのジャンルの英文について読み方や書き方の基本と応用を演習する。 4. 語句や意味の奥にある意味や発想の仕方を理解しながら外国人とのビジネスにおいて基本的に重要なコミュニケーションや異文化理解の方法を学ぶ。 5. さまざまな場面で自己表現するための話し方や書き方を身につける。	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況や発言などの平常点、口頭による質疑応答および小テストとレポートおよびテストなどで総合的に評価する。	

【授業科目】 選択外国語 時事英語	【担当者】 田中 安行
【開講期】 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 現代の生活、文化、環境、心理、保育、福祉問題などに関する時事的な英語を通して、21世紀に生きる人間としての広い教養と国際的なものの見方や考え方を学び、今後の社会で活躍する人間に必要な生き方を身につけられるような学習を行う。 2. 深く英語文化を理解するために、単に時事的な問題だけに限定せず、その背後にあるものの考え方や感じ方にも触れるように、英詩やエッセイなどにも触れて幅広い人間的な力をつける。 3. 時事的な英語を聞き、話す力をつける。英語の音声と基本的な表現に慣れて、さまざまな場面で相手の言うことを理解し、自己表現できる力をつける。 4. 時事英語の英文を用いて速読に慣れるようにする。	
<b>【テキスト】</b> 開講時に指示する。	
<b>【参考書】</b> 開講時に指示する。	
授 業 計 画	
<b>【授業計画】</b> 1. 文章理解 英字新聞など身近な内容の英文を使って文の構造をチャンク毎に理解させながら、パラグラフ・リーディングや要約ができる文章の内容理解の方法を学ぶ。 2. 国際的な文化理解 現在の世界の生活、文化、環境、心理、保育、福祉、平和問題などを取りあげた自作英語教材の“The Real Times”を用いて、世界の多くの文化や歴史的背景を理解できる巾広い視野を身につける。 3. 音声訓練と音声表現 ビデオ教材やテープ、インターネットを利用して、英語の音声に慣れ、理解できるような対話練習を行い、重要表現を習得して、音声による自己表現力もつける。	
<b>【授業方法】</b> 1. 英字新聞やインターネットからの時事英語やエッセイ、英詩などを教材に使う。 2. 時事的な英文について聞き方、話し方、読み方、書き方の基本と応用を演習する。 3. 語句や意味の奥にある意味を理解することを通して異文化理解の方法を学ぶ。 4. 英字新聞“The Real Times”やインターネットでの英文を読解するためのルールを身につける。 5. さまざまな場面で自己表現するための話し方や書き方を身につける。 6. 自分でインターネットを使って英文ニュースを作ったり、自己表現文を作って実践的な英語力を身につける。	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況や発言などの平常点と口頭による質疑応答や小テストとレポートおよびテストなどで総合的に評価する。	

【授業科目】 選択外国語 異文化コミュニケーション	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 1 年 後期：教養教育・教養科（現代教養）	
<b>【授業目標】</b> 1. 異文化とは何かを学ぶ 2. 異文化相互のコミュニケーションのあり方を実践的に学ぶ	
<b>【テキスト】</b>  必要に応じて指示する	
<b>【参考書】</b>  必要に応じて指示する	
授 業 計 画	
1. 映像を通じて写し出される他国の文化を認識する（4カ国程度）。 2. 日本の文化と比較してその特徴を分析する。 3. とりわけ言語についての理解を深める。 4. 以上を踏まえて異文化間のコミュニケーションをとるために何が重要であるかを学ぶ。 * 外国語と言われるものには様々なものがあり、この授業では少しでも新しい言葉に触れる機会をつくりたいと考えている。	
<b>【評価方法】</b>  ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	

【授業科目】言語とコミュニケーション	【担当者】佐々 加代子
【開講期】1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>日常生活はさまざまな人間関係のなかでのコミュニケーションの場面がある。その方法もさまざまにある。言語はその代表格である。コミュニケーションが円滑にすすんでいくということについての基礎理論から始め、コミュニケーション関係における阻害要因と促進要因を抽出することで、生活において言語を媒介としたコミュニケーション関係のすすめかたについての方策が見出せるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>筆者の著書でいずれも犀書房。言語習得と人間関係、子どもからの贈りもの、発達臨床相談</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語の特性</li> <li>2. コミュニケーションにおける言語</li> <li>3. コミュニケーションの基本的過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばのキャッチボール、ことばとキャッチボール</li> <li>媒介となる距離—信号行動系</li> </ul> </li> <li>4. コミュニケーションの対象児・者の特性のとらえかた</li> <li>5. 対象児・者別によるコミュニケーション関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>乳児、幼児、障害児、障害者、失語症、介護を要する人、痴呆性老人、重病患者、異文化の人</li> </ul> </li> <li>6. コミュニケーションにおける共通項としてあげられる内容</li> <li>7. 両者の関係とQOL</li> <li>8. コミュニケーション関係、人間関係において機能していく言語の内容を育むこと <ul style="list-style-type: none"> <li>ここでの1-8の数字は講義の内容を区分したもので、回数を示してはいない。</li> <li>情報機器類も用いながら、できるだけ具体的場面を想定できるように工夫をこらしていく。</li> <li>グループでの討論も加えていく。</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】平常点を重視する。</p> <p>最終的には、平常点、授業内でのミニレポート、レポートで評価する。</p>	

【授業科目】手話入門	【担当者】細田恵子
【開講期】1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>初級程度の手話技能を修得し、聴覚障害者の生活等を知ることによって、自分の内面を見つめる一助とする。それとともに、障害者と共生できる街作りにどう関わっていくかを模索する。</p>	
【テキスト】随時プリントを配布する	
<p>-----</p> <p>【参考書】講義中に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. まず、聴覚障害を持つ講師との意志疎通を図る方法について知る。</li> <li>2. 挨拶・自己紹介等の日常よく使用する手話を身につける。</li> <li>3. 聴覚障害問題について学ぶ。</li> <li>4. 聴覚障害とはどんな障害なのかを実体験する。(疑似体験)</li> <li>5. 聴覚障害者と健聴者が共生していくためには、どうしたらいいのか、かつ、授業で学んだことをこれからどういかしていくか、考え、実践して欲しい。</li> </ol> <p>*毎回レポートを提出していただきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと授業態度により評価する。</p>	

【授業科目】文学芸術・フィクションと人間	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>文学作品はどのように出来上がっているのだろうか、作られた世界（フィクション）である文学作品は現実世界を生きる私たち読者にどんな影響を与えるのか、そもそも文学作品とは何か、以上のことを考えて、文学作品を読む有意義性を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを使用</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要であれば、授業内で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>文学作品をただ活字を追うようにして読むだけでは、その作品が読者に与えてくれるさまざまな喜びやメッセージを引き出すことはできない。その結果、読む作業を疎んじている人はいないだろうか。実は、文学作品は、確かにつくられた世界（フィクション）だが、現実の世界に生きる私たち読者にさまざまな影響を与えている。作られた世界であることを知りながらも、読み終えて感動を覚えた経験を持つ人は多いだろう。それでは、文学作品はどのように作られていて、現実世界に生きる私たち読者にとってそれは何なのか。この点をさまざまな角度から考えてみよう。一回きりしかない人生を何倍にも楽しむ方法、それが文学であり、実は私たちの人生だって、物語になっていることに気づくはずだ。次のような内容で講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「わたし」と他者</li> <li>2) 視点と語り手</li> <li>3) 語り手の言語と無意識</li> <li>4) 表現か内容か</li> <li>5) 小説世界内とプロット</li> <li>6) 小説の蓋然性</li> <li>7) 作者の死</li> <li>8) 読者・印象批評</li> <li>9) 読みのあれこれ</li> <li>10) 人生とフィクション</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点とレポートで評価する</p>	

[授業科目名] 造形美術とイマジネーション

[担当者] 八木 紘一郎

[開講期] 2年・後期

[授業目標]

人間にとってイマジネーション(想像)をめぐらす営みの意味を考える。できるだけ身近な日常的な造形美術、例えば、招き猫やキャラクターグッズ、ミッキーマウスやプーさんなどのディズニーキャラ、節分の鬼や、七夕、クリスマスやサンタクロースの由来や摩訶不思議な異界のこと、太古の昔の女性像や、身近な信号やさまざまな記号などを通したイマジネーション活動を実態を扱い、イマジネーションをめぐらすことの今日的意味と課題を検討する。

[テキスト・参考書]

授 業 計 画

- 1) 古代における初めての彫刻は女性像だった。なぜ女性像はつくられたか。だれが製作したか。
- 2) 人はなぜ小さなキャラクター造形物を身近におくのか。なぜ「かわいい」造形美術キャラを好むのか。かばんや携帯電話につけているキャラクター人形の意味を考える。  
・招き猫や置き物を考える。
- 3) 色彩を通して考える。白と黒の世界。なぜ、日本や東洋の絵画には背景が白の余白をたっぷり使われるが、ヨーロッパ絵画の背景には黒が多用されていることが多い。どうしてか。
- 4) 身近な生活デザイン(衣服など)に使用されている色彩を通して、人間や行動心理を考える。
- 5) 異界との出会いをイマジネーションしている造形美術を通して考える。  
例えば、教会、寺院寺社などの宗教建築や絵画や彫刻等を通してして、人間が異界世界をどれだけイマジネーションしてきたかを具体的に考える。実存しない異界の生き物(妖怪・妖精・お化け・化け物など)の存在をイマジネーションした造形美術をとりあげ、いかに人間は異界の生き物や世界と交流しながら生きているかを考える。
- 5) クリスマスツリーやサンタクロース、なまはげや鬼などの造形美術を通して異界を考える。
- 6) 相撲、コマ、凧などと異界との交流史を考える。
- 7) デパートや生活用品に記載された記号、天気図記号、交通標識などの諸記号に込められた意味やメッセージの解読を通して、いかに記号の世界に生きているかを考える。

[評価方法]

平常点



【授業科目】話言葉の伝承	【担当者】東 喜 望
【開講期】1・2年前期	
<p>【授業目標】ここにいう「伝承」とは、「伝承文化」をさす。この授業では、その中の「伝承文芸」を対象とする。即ち口づてに話言葉によって語り伝えられた話(神話・伝説・昔話など)を対象とする。日本本土と南西諸島・近隣アジアの説話を事例としながら大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考察する。</p>	
<p>【テキスト】『沖縄・奄美の説話と伝承』(おうふう刊) 他に資料プリントを配布する。スライド等上映。</p>	
<p>【参考書】適宜発表。</p>	
授 業 計 画	
<p><u>講義概要</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>序</u> (1)わが国をニッポンというのなぜか。 (2)国号と環太平洋の太陽神話</li> <li>2. 「<u>神話</u>」・「<u>伝説</u>」・「<u>昔話</u>」とは何か。</li> <li>3. <u>説話伝承の起源</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)自然と人間の意識</li> <li>(2)信仰と「語り」—個人・村落(ムラ)レベルから国家レベルへ</li> <li>(3)神話の発展—伝説・昔話へ</li> </ol> </li> <li>4. <u>伝承文芸の現代的意義</u></li> </ol>	
<p>【評価方法】定期試験時の筆記試験(テキスト・ノート・配布プリント参照可)</p>	

【授業科目】 絵本・絵巻と物語表現	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>絵本や絵巻には、絵と物語を同時に鑑賞していくという特徴があります。「見る」ことから生じるイメージと、ことば（語り）が創り出すイメージの＜交響＞が目指される訳です。</p> <p>この授業では、さまざまな絵や絵巻を通じて、「見ること」と「ことば」によるイメージの形成について考え、どのような時に、感動や共感を呼び起こす＜交響＞が成り立つのか考えたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリント配布</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業時に指示</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>I 次のような物を素材に、絵とことばのさまざまな結合の形・枠組みについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵巻 源氏物語絵巻・信貴山縁起絵巻・（竹取物語）などを例に</li> <li>2, 絵解き 「刈萱道心と石童丸」などを例に</li> <li>3, お伽草子 『鉢かづき』『物くさ太郎』（奈良絵本竹取物語）などを例に</li> <li>4, 絵本 『スーホの白い馬』『100まんびきのねこ』『あおくんときいろちゃん』『あり』（竹取物語）などを例に</li> <li>5, 紙芝居</li> <li>6, アニメーション 高畑・宮崎作品を例に</li> </ol> <p>II 上記Iを通して、次のような問題に注目したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵の視座・物語の視座</li> <li>2, 絵の空間表現・物語の空間表現</li> <li>3, 絵の時間表現・物語の時間表現</li> <li>4, 見聞く人の位置と語り手の位置</li> </ol> <p>III 絵とことばの響き合いについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵によるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2, ことばによるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2, 絵・ことばの響き合いについて</li> </ol> <p>注意：絵本の読み聞かせや語り聞かせのノウハウを、伝授する授業では、ありません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】 源氏物語の世界	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本文化の真髄を表すものとして、源氏物語はいまや世界の人々に読まれている。1000年の昔の作品ながら、現代に通じる問題が豊かに形象されているからであろう。</p> <p>一体、何がこの作品の魅力なのだろうか。絵巻や漫画・ビデオなどを使いながら作品構造を読み解き、制約の多い社会で、&lt;どう生きるか&gt;に苦闘する男女の姿を中心に見ていく。</p> <p>文法の細部にとらわれず、『源氏物語』が、“すごい”ことを知ってほしい。物語のおもしろさを知ることが、古典への第一歩である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布</p>	
<p>【参考書】 大和和紀『あさきゆめみし』</p> <p>現代語訳源氏物語：瀬戸内寂聴訳など</p> <p>源氏物語絵巻・アニメその他のビデオ etc</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 紫式部とその時代について 何故、紫式部は源氏物語を書いたのだろうか？作者の生涯と人物像を、その歌集と日記によって見ておく。また物語が書かれた時代の特徴にも簡単に触れたい。</li> <li>2. 全54帖の全体構造を知る。 授業で読み通す訳にはいかないが、そのスケールと主題について、概容を理解したい。</li> <li>3. 様々な男女の結びつきについて考える。 光源氏は、葵の上と政略結婚・若紫を略奪の上結婚・藤壺（父帝の寵妃）を強姦と、現代社会で言えば、正真正銘の犯罪者である。一夫多妻制のもとで、彼に対する女たちは何を考え、どう生きようとしていたか。</li> <li>4. 忍従と自立をめぐる問題について考える。 身分差・結婚制度の制約の中で、多くの女たちが忍従し妥協していく。一方、自分らしく生きたいと願う女たちは、苦闘の末破れていく。 ① 明石の君・②紫の上・③浮舟 etc について、それぞれの人物像を探っていく。</li> <li>5. 権力構造をめぐる問題について考える。 恋愛沙汰に隠されているが、この作品は、光源氏が天皇のようなそうでもないような地位に上り詰めるまでの、予言の謎解きといった要素を持つ。 上り詰めた後の、無惨な光源氏の衰退までを書いてしまったのだが。 人間にとっていったい何が重要なことなのか、考えたい。</li> <li>6. 物語のリアリティについて考える。 言うまでもなく『源氏物語』は平安時代に作られたフィクションであるが、光源氏を実在の人と思っている人が結構いる。 何故だろうか。作品に、きわめてリアリティがあることも一因であろう 虚構された時代設定、モデルとされる人物、作品の舞台の虚実などについて考える。</li> <li>7. 源氏物語の笑いについて考える。</li> <li>8. 物語表現の美しさについて考える。</li> <li>9. 源氏物語の古代性と現代性について考える。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】 近現代の文学	【担当者】 高 原 二 郎
【開講期】	
<p>【授業目標】 文学作品など読むにはもと役に立つことないの？          作家なんてホントはなにしているんだろ。          文学史なんてのやられてアタシがメイワクなだけ！          でも基礎知識くらいはシカクナイかもね。          などと、いじ悪くホントで言ってみようではないか。</p>	
【テキスト】 持に指定はしない。	
【参考書】 展開の中で紹介す。	
授 業 計 画	
<p>(概要)          上記の如く、「文学入門」的な狙いを含んだ作品理解、作家論、課題論、文学史等を扱います。従って、(1) 時々の社会と作品主題の持つ意味。(2) 社会に対応する作家の姿勢や思想性。この二点をひとまず踏まえた上で下記の課題頁に発展させてみます。          (a) 知識を生きてゆく上での大事な課題に読み振りてゆく試み。          (b) 作家や作品を時代的・歴史的に位置付けてゆく試み。</p> <p>(具体的な展開)          近代日本の同化から1945年戦争を経ての現代まで、重要な課題を掲げて作家作品を扱います。例えば、          1. 同化と西洋 (西島外、漱石、荷風、光太郎)          2. 個人・ヒューマンイズム・エコ (漱石、白樺派、龍之介)          3. 愛と人同苦 (武郎、自然主義-私小説、太宰治)          4. 自然と人間 (独歩、武郎、賢治)          5. 社会制度と人間 (労働文学)          6. 伝説と近代 (潤一郎、康成)          7. 科学と人間 (戦時と文学)          8. 疎外と人間 (石牟礼道子)          (なお時間の都合では変更、省略もあり得ます)          具体的な作品は展開の中で予告しますが、予習読書は強制しません。</p>	
【評価方法】 レポート評価の予定。	

【授業科目】庶民の生活文化	【担当者】高橋徹
【開講期】1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちの親の世代や、祖父祖母の世代の人々は、どのような暮らしをして、どのようなものに感動し、どのような感じ方や考え方をしてきたのでしょうか。この授業では、第二次世界大戦後の日本人の生活の歴史を理解し、また、みなさんが自分自身の生活についても、考えるきっかけを得ることを目的としています。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使いません。資料を配布する予定です。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で紹介していきますが、とりあえず『暮らしの世相史』（加藤秀俊、中公新書、2002年）をあげておきます。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>生活文化といっても、「衣食住」に限るのではなく、もう少し広く考えていきたいと思っています。例えば、映画や音楽を楽しむことも、私たちの生活の一部でしょう。この、広い意味での生活文化の歴史を理解するために、時代をたどりながら、テーマに沿った、古い映画やドキュメンタリーなどをビデオで見て、それについて議論したり、考えたことを小レポートにまとめたりしながら、授業を進めていく予定です。</p> <p>テーマとしては、次のようなものを予定しています（資料の関係で、変更になることもあります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活史をつくる</li> <li>(2) 『映像の世紀』で見る20世紀の日本</li> <li>(3) 第二次世界大戦の時代</li> <li>(4) 戦後復興と闇市</li> <li>(5) 戦後民主主義と女性</li> <li>(6) 太陽族と「新しい」若者文化</li> <li>(7) 家電製品の普及</li> <li>(8) 高度経済成長時代のサラリーマン</li> <li>(9) 東京オリンピックがもたらしたもの</li> <li>(10) ビートルズ現象</li> <li>(11) 旅行の時代</li> <li>(12) 歌謡曲で聴く昭和</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内の小レポート、期末試験をあわせて評価します。</p>	

【授業科目】 現代の文化と風俗	【担当者】 先川 直子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>わが国の文化や風俗には、若者たちがその中心的な役割を担ったものが少なくない。特に、昭和30年代の高度成長期以降は、生活が豊かになるとともに、消費とマスメディアに結びついた若者文化が誕生し、若者たちが風俗やファッションを創り出していくようになった。</p> <p>本講義では、その中でも特に若い女性たちが主導権を持って関わったものに焦点を当てて、時代を追いながら見ていき、現在直面している問題点についても考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>佐々井啓・篠原聡子・飯田文子編著『生活文化論』（朝倉書店）  小池三枝・柴田美恵『日本生活文化史—近現代の移り変わり—』（光生館）他</p>	
授 業 計 画	
<p>時代順に次のようなテーマを設定し、各テーマについて順次講義をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイカラさん—洋風の導入と和風との折衷—</li> <li>2. モダンガール</li> <li>3. あこがれのアメリカ文化—自由で豊かな生活の象徴—</li> <li>4. 昭和30年代の生活文化革新 <ul style="list-style-type: none"> <li>団地の誕生と核家族の増加</li> <li>家庭裁縫から既製服へ</li> <li>3種の神器と3C—家電製品の普及—</li> <li>インスタント食品の登場</li> </ul> </li> <li>5. 女性の高学歴化と女子学生亡国論</li> <li>6. 「若者」がつくる新しい文化 <ul style="list-style-type: none"> <li>ミニスカート—街角から生まれた若者のファッション—</li> <li>ジーンズ—労働着から反抗・反体制のシンボルへ—</li> <li>新人類文化とDCファッション</li> <li>ディスコ文化とボディコン・ギャル</li> <li>コギャル文化と携帯電話の普及</li> </ul> </li> <li>7. 大量生産・大量消費への反省—「もの」とどう向き合うか—</li> <li>8. 高度情報化社会のもたらしたものと問題点</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末の試験・授業時の課題レポート類・出席状況・授業態度などによる総合評価</p>	

【授業科目】現代英米の文学	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>19世紀から20世紀にかけてのイギリス、アメリカの代表的な小説を紹介し、作品の歴史的背景や文化的情報を取り込みながら、作品の解釈を試みる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを使用</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業内で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>イギリスの小説を6作品、アメリカの小説を6作品、1講義に1作品ずつ取り上げていく。それぞれの講義は、まずは時代背景、そしてその時代の文学的特徴、作家紹介、作品紹介、さらに、作品の解釈へと進めていく。文学作品は読まなければ意味がないので、できるだけ多くの作品を読んでほしい。少なくとも、最後にレポートを書くために、イギリスの作品を一作品、アメリカの作品を一作品、合計2作品は読むこと。次の順番で講義していく。</p> <p>イギリス第1回 J.K.ローリング『ハリー・ポッター』シリーズ  イギリス第2回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』  イギリス第3回 トーマス・ハーディ『テス』  イギリス第4回 オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』  イギリス第5回 D.H.ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』  イギリス第6回 サマセット・モーム『お菓子とビール』  アメリカ第1回 ナサニエル・ホーソン『緋文字』  アメリカ第2回 マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』  アメリカ第3回 セオドア・ドライサー『シスター・キャリー』  アメリカ第4回 F.スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』  アメリカ第5回 ウィリアム・フォークナー『八月の光』  アメリカ第6回 アリス・ウォーカー『カラー・パープル』</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点とレポートで評価する。</p>	

【授業科目】 世界の児童文学	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 1 年 後期：教養教育・教養科（現代教養）	
<b>【授業目標】</b> 1. 世界の児童文学を紹介しながらその思想を学ぶ。 2. 子ども観を豊かに育てる。	
<b>【テキスト】</b> 「児童文学を英語で読む」（岩波ジュニア新書）	
<b>【参考書】</b> 「英米児童文学の系譜」こびあん書房	
授 業 計 画	
1. 世界の児童文学を国別にとりあげ、歴史や発展をとらえる。 2. 世界の児童文学を国別、作品別に紹介し、その一部をいっしょに読んでいく。 3. 関連する作品を読んだり、映像によって理解を深める。 4. なぜ児童文学が多く読まれるのかを考えていく。 1) 「アラビアンナイト：アラジン」（アラビア） 2) 「秘密の花園」（イギリス） 3) 「オズの魔法使い」（アメリカ） 4) 「あしながおじさん」（アメリカ） 5) 「モモ」（ドイツ）	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	



【授業科目】比較文化論・近代文明と日本人	【担当者】高原二郎																
【開講期】1年後期																	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちがものごとを考えたり判断したりするときの拠りどころ、物差し、尺度。日常生活をとり囲み、私たちの見方や考え方や生き方を、いつの間にか左右する大きな枠組み。つまりは皆さん一人ひとりが、それへ向けて衝き当り、悩み、そして切り拓いてゆくよりない「価値観」といったもの。その「価値観の在りよう」について、各自が自己衝突を開始することを以て授業の目標とします。</p>																	
<p>【テキスト】</p> <p>用いません。</p>																	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>展開の中で示します。読書は義務としません。</p>																	
<p>授 業 計 画</p>																	
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の視点は、文学に関わる立場から、とします。</li> <li>・ 日本の近代化、それに伴う価値観の衝突や混乱や、さらには科学技術に支えられる今の社会をどのように考えるかなど、下記の項目を目安に展開します。一緒に考えてゆきましょう。なお「ヒューマニズム」については、特にしっかりと考えましょう。</li> </ul> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の近代化と西洋       <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>(1) 文明の先進と後発</td> <td>(2) 新旧混乱期の実情</td> </tr> <tr> <td>(3) キリスト教、儒教、武士道</td> <td>(4) 文学者の西欧体験</td> </tr> </table> </li> <li>2. 近代的な考え方へのアプローチ       <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>(1) 個人、人格、エゴ</td> <td>(2) 愛、ヒューマニズム、慈悲、仁</td> </tr> </table> </li> <li>3. 自然と人間と近代       <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>(1) 西洋の自然</td> <td>(2) 東洋の自然</td> </tr> <tr> <td>(3) 日本の自然</td> <td>(4) 自然と人間へのヒント</td> </tr> </table> </li> <li>4. 自然科学と人間       <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>(1) 自然科学をどのように考えるか</td> <td>(2) 自然科学と制度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(3) 「科学者らしくあること」と「人間らしくあること」</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(4) 戦争</td> </tr> </table> </li> <li>5. 現代社会と人間疎外　－水俣病をめぐる－</li> </ol> <p>ノートは、問題点を中心に要点をメモできるよう、板書を活用します。</p>		(1) 文明の先進と後発	(2) 新旧混乱期の実情	(3) キリスト教、儒教、武士道	(4) 文学者の西欧体験	(1) 個人、人格、エゴ	(2) 愛、ヒューマニズム、慈悲、仁	(1) 西洋の自然	(2) 東洋の自然	(3) 日本の自然	(4) 自然と人間へのヒント	(1) 自然科学をどのように考えるか	(2) 自然科学と制度	(3) 「科学者らしくあること」と「人間らしくあること」		(4) 戦争	
(1) 文明の先進と後発	(2) 新旧混乱期の実情																
(3) キリスト教、儒教、武士道	(4) 文学者の西欧体験																
(1) 個人、人格、エゴ	(2) 愛、ヒューマニズム、慈悲、仁																
(1) 西洋の自然	(2) 東洋の自然																
(3) 日本の自然	(4) 自然と人間へのヒント																
(1) 自然科学をどのように考えるか	(2) 自然科学と制度																
(3) 「科学者らしくあること」と「人間らしくあること」																	
(4) 戦争																	
<p>【評価方法】</p> <p>各自が最低一つ、何らかの自己衝突をつかまえてレポート。授業出席を大切にするとともに、思考のひらめきをも大いに期待します。</p>																	

【授業科目】国境を越える民俗学

【担当者】 東 喜 望

【開講期】1・2年前期

【授業目標】古来、社会の基底を支えてきたのは、名もなき民衆である。かつて、彼らの多くは文字を知らず、その生活に必要な技術や文化を口づてに肉体を通して伝えてきた。この授業では古来、民衆が大切に守り伝えてきた生活の基層の文化や民衆の精神のあり様、生活の実態などを対象にして考察を進める。特に、既に実地踏査した中国や東南アジアの島々・日本の「国境を越えて、生きた人々の生活を重視したい。

【テキスト】民俗事例の資料として『沖縄・奄美の説話』(おらふう刊)を使用。

【参考書】適宜指示する。映像資料(スライド・ビデオ・グラフィック)を使用。

### 授 業 計 画

#### 講義概要

1. 「伝承」「民俗」とは何か。
2. 西欧民俗学・日本民俗学の発生と展開
3. 人類の知恵と技術と生活文化(食・住・衣)
4. 国境なき人々の原初の暮らし(非定住の生活)
  - (1) 山人—日本の山人(マタギ・サンカなど)・ユーラシア大陸の遊牧民・アジアの狩猟民(中国・台湾・東南アジア)
  - (2) 海人—日本の海人と家船・アジアの海人(中国の蛋民・東南アジアの瀬海民など)
5. 原初の定住生活—日本・アジアにおける焼畑農耕から稲作農耕へ。
6. ムラの形成とその基本構造
7. 村落祭祀と通過儀礼
8. 民俗社会をつなぐ「<sup>か</sup>結い」

【評価方法】定期試験時の筆記試験(テキスト・ノート・画配プリント参照可)。

【授業科目】 現代社会と人権	【担当者】 武藤 健一
【開講期】 1年 後期 木曜日 1時限	
<p>【授業目標】</p> <p>1年半後に、主に女性である皆さんが実際に社会に出て行って、自分が女性であることから遭遇するかもしれない事柄・問題について検討し、自分の今後のこと・将来のことを考えるきっかけを得られるようにすることを目的とします。</p>	
<p>【テキスト】 レジューメ配布</p>	
<p>【参考書】 伊田広行「シングル単位の恋愛・家族論」(世界思想社)、山田昌弘「パラサイト・シングルの時代」(ちくま新書)、伊田広行「シングル単位の社会論」(世界思想社)、福島瑞穂「結婚と家族」(岩波新書)、落合恵美子「21世紀家族へ」(有斐閣選書)</p>	
授 業 計 画	
<p>現代の日本社会で女性がどのような状況におかれているかを理解するために、女性労働と恋愛・結婚・家族について、様々な統計的資料やその分野に関わる法律の内容を検討し、現代社会における女性の人権の有様を明らかにしたいと思います。</p> <p>具体的には労働では、① M字型雇用 ② セクシュアル=ハラスメント ③ 派遣労働 ④ 育児・介助休暇 ⑤ パート労働</p> <p>恋愛・結婚では、⑥ 恋愛観・結婚観 ⑦ 結婚 ⑧ 家事・育児 ⑨ 夫・恋人の暴力(DV) ⑩ 子どもの虐待 ⑪ 離婚</p> <p>という11項目の中からいくつかを取り上げていきたいと考えています。</p> <p>注1) 受講者数によってですが、講義・ディスカッション等のどの形式になるかを受講者と相談して決めたいと思います。</p> <p>2) 一方的なつまらない授業にはしたくないので、学生の皆さんの積極的な授業参加を願っています。</p> <p>3) 飲食など、授業や他の人の迷惑にならない事は、自由にしてもらって構いませんが、おしゃべり・遅刻(15分過ぎ)などは絶対に許されません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・平常点を重視し、試験点を加える形で成績をつけます。</p> <p>出席点：学期末試験＝2：1</p>	

【授業科目】 憲法と私たち	【担当者】 武藤 健一
【開講期】 1年前期 木曜日 1・2時限	
<p>【授業目標】</p> <p>日本国憲法の人権規定の解釈論を中心にしながらも、実際の社会で人権がいかに保障されているかという点を踏まえ、労働に関する諸権利と私的生活における権利を重視する「ジェンダー憲法学」としての人権論を展開する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">レジュメ配布</p>	
<p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">特に必要なものはないので、必要な時に紹介したいと思います。</p>	
授 業 計 画	
<p>1 人権原理 ～まずは、人権全体に関わる様々な原理・原則を検討する。</p> <p>(1) 人権保障の類型 (2) 人権の享有主体 (3) 「公共の福祉」と二重の基準論 (4) 人権規定の効力 (5) 平等</p> <p>2 基本的人権 ～人権類型論を基礎として人権規定を分類して検討する。</p> <p>① 包括的人権 ② 精神的自由 ③ 経済的自由 ④ 社会権等 ⑤ 刑事手続き ⑥ 受益権 ⑦ 参政権 ⑧ 前提的権利 ⑨ 義務 ⑩ 人権のまとめと人権体系論</p> <p>なお、1・2で述べた項目に対して、以下の3・4の様な追加・修正があります。</p> <p>3 裁判・社会問題</p> <p>(1) 女性労働 (2) 家族の多様化 (3) 教科書検定 (4) 婚外子差別 (5) 環境権訴訟 (6) 死刑廃止 (7) 夫婦別姓 (8) セクシュアル=ハラスメント</p> <p>4 ジェンダー憲法学による修正</p> <p>① 公的領域と私的領域の二元構造 ② 家族単位と個人単位 ③ 近代家族論 ④ 労働権の重視 ⑤ ジェンダー論・フェミニズムとの遭遇 ⑥ 性的自己決定権 ⑦ 子どもの人権 ⑧ ポジティブ=アクション ⑨ 社会保障と家事・育児の社会化</p> <p>* 注1) 半年で上記の項目をすべて扱えることはありえないので、その中からいくつか扱うこととなります。</p> <p>2) 授業の支障となること以外は何をやっても構いませんが、お喋りや10・15分以上の遅刻などはまったく許されません。また、積極的な授業参加を望みます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">ペーパー試験より、授業参加(レスポンス=シート)を重視します。</p> <p style="text-align: center;">出席点：学期末試験=2：1</p>	

【授業科目】日本とアジアの近現代史	【担当者】佐藤いづみ
【開講期】1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>近代日本は、その歩みを始めたときからアジアとの大きなかかわりを持っていました。この授業では、アジアに向けた日本のまなざしに焦点を当てて、日本とアジアの近現代史を学びます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しません。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業中に紹介します。</p>	
授 業 計 画	
<p>次の内容で授業を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 高杉晋作が見た太平天国運動下の上海・・・明治維新を醸成した植民地化への危機感</li> <li>* 「征韓論」と台湾出兵・・・誕生したばかりの維新政府は、なぜ初めから対外膨張政策を採ったのか。</li> <li>* 福沢諭吉の「脱亜論」・・・「脱亜論」で展開した福沢の中国観、朝鮮観とともに、台湾論に注目。</li> <li>* 潘佩珠の『ヴェトナム亡国史』・・・日露戦争がベトナムとビルマに広げた波紋とその行方。</li> <li>* 3.1 独立運動と関東大震災の事件・・・朝鮮植民地化と朝鮮人に向けられた市井の人々の暴力。</li> <li>* 満州帝国の建設・・・大陸へ渡った青年、花嫁、家族。そして土地を奪われ「匪賊」と呼ばれた中国の人々。</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末に、レポートを提出してもらいます。</p>	

【授業科目】 現代社会と教育	【担当者】 民 奴 言
【開講期】 前期	
【授業目標】 現代社会は、多様な相をみせ、大きく変化してきている。その中で私たちは生活する、充実した毎日を送るためには「教育」は欠かせない。本講では幼児教育(保育)に限定し、社会との切りわりを考えていく。	
【テキスト】 平成14年版 ハンドブック 教育・保育・福祉関係法令集 北大路書房	
【参考書】 講義の中で必要に応じて指示する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって「教育」はどのような意味をもつか</li> <li>2. 乳幼児期の「教育」としての保育の意味</li> <li>3. 現代社会の特徴 (1) 家族生活</li> <li>4. 同 上 (2) 地域生活</li> <li>5. 現代社会における保育の課題 (1) 幼稚園</li> <li>6. 同 上 (2) 保育所</li> <li>7. 同 上 (3) 学童保育所</li> <li>8. 現代社会における「教育」 (1) 福祉と教育</li> <li>9. 同 上 (2) 国際化と教育</li> </ol>	
【評価方法】 ペーパーテストと出席点による	

【授業科目】 社会福祉の考え方	【担当者】 山路憲夫
【開講期】 1 年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉とはなにか。ここでは広義の社会福祉を考えたい。広義の社会福祉とは、公共政策一般、社会政策、狭義の社会福祉(私的社会事業、公的社会事業)が含まれる。最近の社会福祉は多様化、複合化する一方だ。利用者の立場からとらえ直すという意味でも、広義の社会問題対策として幅広くとらえ、それぞれ制度を理解すると共に、各領域の関連を明らかにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「日本の社会保障」(広井良典、岩波新書)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>I 広義の社会福祉とはなにか 社会福祉、社会保障、社会政策の特徴と関連性</p> <p>II 社会福祉の成立の背景</p> <p>III 社会福祉の各制度の現状と問題点 公的年金制度、医療保険、公的介護保険、生活保護、社会福祉制度</p> <p>IV 21 世紀の課題 少子高齢化と負担と給付の現代的問題</p> <p>V まとめ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と試験(持ち込み可)</p>	

【授業科目】男と女・ジェンダーを考える	【担当者】富永静枝
【開講期】1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>ジェンダー概念を理解し、これまでの社会制度や性別役割意識の問題点をジェンダー視点からとらえなおし、男女共同参画社会に向けての新しい社会システムのあり方や男女の関係性をさぐり、「男らしさ」・「女らしさ」の呪縛から開放される態度を養成する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料プリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>今日、家族や女性を取り巻く社会的状況は大きく変化した。男女共同参画社会が志向され、男女雇用機会均等法の改正や介護・育児休業法の実施など平等に向けての法的整備は進んだが、実生活の上では多くの問題を残している。不況下での女子学生の就職は厳しく、結婚後も家事・育児と職業の両立に悩むなど、女性が能力を発揮して、一人の人間として自立して主体的に生きることは困難な状況にあり、男性もまた厳しい労働環境の中で豊かな家族関係を築くことは難しい状況にある。そこでこの授業では人生のパートナーである男性と女性が、ともに人間らしく豊かに生きるためにはどうしたら良いか、これからの望ましい男女のあり方や、社会システムのあり方について学ぶ。授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。</p>	
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 ジェンダーとはー性別役割分業とその問題点ー</li> <li>2、 女性のライフサイクルの変化</li> <li>3、 ジェンダー統計に見る現状と課題</li> <li>4、 労働とジェンダー</li> <li>5、 福祉とジェンダー</li> <li>6、 女性と人権ードメスティックバイオレンスー</li> <li>7、 男女平等をめざす世界の運動と日本の動き</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験(ノート、授業中の配布資料など参照可)、平常時の提出物、出席状況の総合評価。</p>	



【授業科目】現代世界とマイノリティー	【担当者】中島好伸
【開講期】1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>世界のマイノリティ（少数民族集団）がどのような歴史の元、現在のような分布になってきたのか、その歴史的背景を理解し、マイノリティが絡む民族紛争を概観する。さらに、マイノリティが複雑に絡み合うアメリカ合衆国の状況を見て、マイノリティ問題を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを使用する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>現在、世界のいたるところで紛争が行われている。その原因には、多くの場合、19世紀のヨーロッパの大国が勝手に国境線を引いたために分断された民族が関係している。パレスチナ問題、コソボ紛争、アフガニスタン問題、という言葉聞いたことがあるだろう。この背景には、少数に分断された民族（マイノリティ）が深く関わる。このような世界の状況を、まずは概観する。さらに、多民族国家といわれるアメリカは、世界の警察と自称しながら、自国の中にマイノリティ問題を多く抱えている。ネイティヴ・アメリカンや（インディアン）やアフロ・アメリカン（黒人）は特に有名である。このようなアメリカ国内のマイノリティ問題を、それぞれの集団に即してみよう。授業は次のような順に講義していく。</p> <p>マイノリティとは  帝国主義と植民地の遺産  民族紛争  人種の坩堝からサラダボール理論へ：アメリカのマイノリティ  アメリカ黒人の歴史  ネイティヴ・アメリカン  ユダヤ人</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点とレポートにより評価する。</p>	

【授業科目】女性労働の問題	【担当者】富永静枝
【開講期】1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>これからの社会は男女が互いに支え合いながら、ともに職業生活と家庭生活を両立させ、ともに自立して生きることが求められる。受講生たちが伝統的な性別役割分業意識から解放され、職業生活と家庭生活の両立をめざす努力をすることを期待したい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料(プリント)を配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>男女雇用機会均等法の改正や育児・介護休業法の施行などにより、近年女性の労働環境は大きく変化した。女性が自立して生きるためには経済的自立は不可欠である。しかしまだまだ出産・育児や介護のために退職を余儀なくされる女性は多く、仕事と家庭の両立は困難な状況にある。本講では、働く女性たちが抱える問題点を明らかにし、問題解決への方向性を探る。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、近代日本における女性労働の歩み</li> <li>2、女性労働の現状と課題</li> <li>3、女性労働と法</li> <li>4、女性労働の国際比較</li> <li>5、家事・育児・介護と女性労働</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末のレポート、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】 地域生活と家族	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後期	
【授業目標】 私の人間は、たいてい、家族という集団に所属し、その一員として生活する。つまり、そのなりに生まれ出、育てられ、生活し、老年を送る。この家族は地域のなかにある。地域のあり方と大きく関わっている。	
【テキスト】 講義の中で必要に応じて指示する	
【参考書】 同 上	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって家族とは何か</li> <li>2. 家族のはたらき(機能)</li> <li>3. 家族のなかに人間関係 (1) 夫婦関係</li> <li>4. 同 上 (2) 親子関係</li> <li>5. 同 上 (3) きょうだい関係</li> <li>6. 日本の家族の特徴 (1) 「イエ」の制度</li> <li>7. 同 上 (2) 核家族と直系家族</li> <li>8. 地域社会の変化・都市化</li> <li>9. 地域のなかに生活・コミュニティ</li> <li>10. 地域生活と家族のあり方</li> </ol>	
【評価方法】 パーソナルテストと出席点とによる	

Handwritten text at the top of the page, possibly a header or introductory paragraph. The text is very faint and difficult to read.

Second block of handwritten text, continuing the content from the top. The handwriting is consistent with the first block.

Third block of handwritten text, appearing as a distinct section or paragraph. The text is sparse and hard to decipher.

Fourth block of handwritten text, located in the lower middle portion of the page. The text is very light and illegible.

Fifth and final block of handwritten text at the bottom of the page. The text is extremely faint and mostly illegible.

專門教育科目（1年）



【授業科目名】	社会福祉	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	1年 前期		
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉とは何か、社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあったらよいかをこどもたちや、障害者、高齢者をはじめとした住民の生活実態との関係で学びます。とりわけ、こどもたちや親、障害児・者の真の願いに心を寄せ、保育者に求められる援助とはどうあったらよいか考える力を養います。</p> <p>保育を学ぶものにとって必要な基本的なものの見方・考え方の基礎を学び、後期の「児童福祉」、「地域の福祉」、2年次の社会福祉援助技術へと結びつけることを目標にします。</p>			
<p>【参考図書】</p> <p>「子どもへのまなざし」 (福音館書店・・・佐々木正美著)</p> <p>「続・子どもへのまなざし」 (福音館書店・・・佐々木正美著)</p> <p>「現代の社会福祉入門」 (保育出版社・・・浅井・佐野編)</p> <p>「基礎から学ぶ保育制度」 (保育研究所・・・草土文化発売)</p> <p>その他、授業の中で適宜紹介します。また、参考にする論文のコピーを授業で配布します。</p>			
<p>【授業の進め方】</p> <p>上記授業目標にそって、「社会福祉講義ノート（2003年版）」をつくり、それに基づいて授業を進めていきます。</p> <p>授業の終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。ミニレポートで出席確認をします。（7月はじめにまとめて返却します）</p> <p>授業は、定時に始めます。講義は80分程度でおさめる努力をします。授業の間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れたいと考えています。</p> <p>クラスによっては1限目ですが、遅刻しないよう頑張ってもらいたいと思います。学生のみなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくっていきたいと願っています。</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況（平常点）30パーセント、定期試験（レポートです）70パーセントの総合点で評価します。</p> <p>したがって、出席、遅刻は非常に重視します。</p>			

【授業科目名】 地域の福祉	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 1年 後期 (選択科目)	
<p>【授業目標】</p> <p>前期の「社会福祉」で学んだことを基礎に、私たちが住んでいる地域社会レベルで住民（子どもや障害者、高齢者などあなた自身を含めすべての人々）の暮らしの場面から発生する生活上の悩みや困難さ、解決を迫られる問題点にはどのようなことがあるかを学びます。そのうえに立って、地域住民がお互いに住みやすい地域社会をつくっていくにはどうしたらよいか、それに貢献できる保育・福祉労働者になるにはどうしたらよいかを考え学びます。地域に対し実践力をもった保育者となる基礎を学びます。</p>	
<p>【参考図書】</p> <p>この授業のために作成した「地域の福祉」講義ノートを使用します。 参考図書などは授業中に適宜紹介します。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>初めての保育所実習（11月11日より）までの7回の授業は、「育児・子育て調査報告書」から、地域の乳幼児の生活と育児・子育ての実態やどのような保育ニーズがあるかを学びます。また、その過程で“叩く育児”の是非についてのディスカッションも行い、考えあいます。保育所実習後は、障害児・者福祉、高齢者福祉について学びます。障害児についての学習では滋賀県大津市と東京近辺の統合保育実践についても比較検討しながらその在り方を学びます。また、障害者の地域生活については障害者自身を講師に招き当事者の立場から障害者福祉はどうあったらよいかを学びます。高齢者福祉については、その基礎と介護保険制度についての初歩を学びます。教材としてビデオをなるべく活用し、授業を実践的に進めたいと思います。</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>毎回の授業態度を重視します。毎日、授業の最後を書くミニミニレポートで出席を確認し、出席率を重視します。授業は定時に始めます。 成績は上記授業態度とレポートをの総合点で評価します。</p>	



【授業科目】 児童福祉	【担当者】 中山正雄
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉の歴史的展開過程をとおして児童福祉の意義について理解させる。</li> <li>2. 児童福祉の現状と児童福祉問題の背景及び児童福祉の法律・制度・施策について理解させる。</li> <li>3. 児童福祉現場における福祉サービスの現状と課題を理解させる。</li> <li>4. 児童福祉の専門職としての保育士の役割、家族も含めた支援への役割について理解させる。</li> <li>5. 児童福祉の展望と課題を理解させ児童福祉に取り組む姿勢を養う。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>竹中哲夫他（編）『子どもの世界と福祉』ミネルヴァ書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>浅井春夫著『子ども虐待と性教育』大修館書店</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉の歴史的展開と児童福祉の意義       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) わが国における児童福祉の歴史 ～概念と理念の形成過程～</li> <li>(2) 児童福祉法の理念</li> <li>(3) 子どもの権利の形成過程と子ども観の変遷</li> <li>(4) 子どもの権利条約の内容と意義</li> </ol> </li> <li>2. 児童福祉の現状と児童福祉問題の背景及び制度・施策       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族の変化・多様化と子どもの生活</li> <li>(2) 少子高齢化社会における子どもの生活</li> <li>(3) 保育問題・児童養護問題の発生とその背景</li> <li>(4) 障害問題とノーマライゼーション</li> <li>(5) 子ども虐待問題の背景と防止</li> <li>(6) 児童福祉の制度・機関・施設・費用</li> <li>(7) 諸外国の児童福祉</li> </ol> </li> <li>3. 児童福祉施設現場におけるサービスの現状と課題       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 福祉事務所・児童相談所の役割、現状と課題</li> <li>(2) 保育の現状と課題</li> <li>(3) 養護の現状と課題</li> <li>(4) 母子福祉及び一人親家庭の現状と課題</li> <li>(5) 少年非行と福祉・教育</li> </ol> </li> <li>4. 保育士の役割と子育て支援       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童福祉の専門職資格と職務・労働条件</li> <li>(2) 少子社会における子育て相談援助あり方と保育士の役割</li> <li>(3) 家族・地域と施設の役割</li> <li>(4) 児童福祉関連機関とのネットワークと保育士の役割</li> <li>(5) 児童福祉現場で働くこと、児童福祉施設職員論（資質・倫理）</li> </ol> </li> <li>5. 児童福祉の展望と課題       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉のあり方と課題</li> <li>(2) 児童福祉の方向と課題</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業の出席状況と定期試験</p>	

【授業科目】保育原理Ⅰ	【担当者】岸井勇雄
【開講期】1年前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生存、成長、発達の過程を理解する。</li> <li>2. その過程における乳幼児期の重要性を理解する。</li> <li>3. 保育の本質に基づく保育者のあり方の基本を理解する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>岸井勇雄著「幼児教育課程総論」(同文書院)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>岸井勇雄編著「幼児教育の原理」(同文書院)</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の成長(1) 依存</li> <li>2. 人間の成長(2) 自立</li> <li>3. 人間の成長(3) 連帯</li> <li>4. 乳児期の発達課題</li> <li>5. 幼児期の発達課題</li> <li>6. 生涯学習体系における保育の位置</li> <li>7. 「楽しさ」の教育的意義(1)</li> <li>8. 「楽しさ」の教育的意義(2)</li> <li>9. 環境を通して行う教育</li> <li>10. 幼児期にふさわしい生活の展開</li> <li>11. 遊びを通しての総合的な指導</li> <li>12. 一人一人の発達の特性に応じた指導</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、受講態度の積極性、定期試験による総合評価</p>	

【授業科目】保育原理Ⅱ	【担当者】岸井勇雄
【開講期】1年後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所と幼稚園の意義について理解する。</li> <li>2. 保育計画の本質と実際について理解する。</li> <li>3. 保育者の実務と保育力の向上について理解する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>岸井勇雄著「幼児教育課程総論」(同文書院)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>岸井勇雄著「子育て小事典」(エイデル研究所)</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所と幼稚園</li> <li>2. 福祉と教育を共有する保育</li> <li>3. 子育て支援のセンター</li> <li>4. 保育カリキュラムの基本</li> <li>5. 領域の成り立ち</li> <li>6. ねらいと内容</li> <li>7. 環境の構成</li> <li>8. 保育の形態</li> <li>9. 保育の評価</li> <li>10. 保育者の役割</li> <li>11. 子ども観の歴史と先覚者たちの歩み</li> <li>12. これからの保育</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、受講態度の積極性、定期試験による総合評価</p>	

【授業科目】 保育者論	【担当者】 民秋 言・喜多村純子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、教職についての意義を理解する。</li> <li>2、保育者の社会的役割を理解し、かつ職務内容を知る。</li> <li>3、保育者としての必要な資質について理解し、かつ習得する。</li> <li>4、望ましい保育者像を明らかにする。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>ハンドブック 教育・保育・福祉 1999年度版 北大路書房刊</p>	
<p>【参考書】</p> <p>同 上</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、保育科学生として「保育」を学ぶことの意味を確かめる。</li> <li>2、保育者を目指す者としての保育科学生の基本的姿勢を卒業生の声として紹介する。</li> <li>3、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅰ)</li> <li>4、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅱ)</li> <li>5、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅲ)</li> <li>6、保育者の職務内容を理解する。(Ⅰ)</li> <li>7、保育者の職務内容を理解する。(Ⅱ)</li> <li>8、保育者の職務内容を理解する。(Ⅲ)</li> <li>9、保育者の体験論から学ぶ。</li> <li>10、保育者として問われる力量を学ぶ。</li> <li>11、保育者に求められる今日的専門性を学ぶ。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテスト(ノート等持ち込み不可)</p>	

【授業科目】 教育原理	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト： 「教育原理」 （北大路書房 秋山和夫、森川 直編）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国の教育の現状と課題 今日の教育・保育改革の経過とその方向</li> <li>2. 人間と教育 人間は教育されうる存在であり、教育が必要であること。</li> <li>3. 教育の意味と目的 保護、養育として、社会化として、そして価値への覚醒としての教育 教育目的の個人的・社会的・文化的側面</li> <li>4. 教育の場 — 家庭、園、学校、社会 それぞれの特徴とかわり</li> <li>5. わが国の教育の歴史（主として明治以降） 「学制」による国民教育制度の成立と、教育勅語による国家主義教育への傾斜</li> <li>6. わが国の教育の歴史（大正、昭和） 大正自由教育から全体主義、軍国主義の教育へ、そして戦争</li> <li>7. 第二次世界大戦後の教育 連合国の日本占領、米国教育使節団報告書、日本の教育の近代化と自由化</li> <li>8. 教育基本法の成立とその思想 日本国憲法と教育基本法の理想、教育基本法の意義</li> <li>9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 各段階の学校教育の目的と内容についての規定 教育課程と教育課程の基準</li> <li>10. 幼稚園教育要領 幼稚園教育の基本と目標および教育課程</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験およびレポート</p>	

【授業科目】 教育の思想と歴史	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>教育、保育の歴史を学び、子ども観の変遷と、幼稚園や保育所など幼児教育・保育施設の発展の歴史を知る。時代や社会の変化と幼児教育との関わりを学ぶなかで、今日の保育の問題および今後の課題を考える。子どもの権利の保障と「子どもの権利条約」についての理解を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めなし</p>	
<p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育思想の発展 コメニウス、ルソー、ペスタロッチ</li> <li>2. オーエンの時代と思想 幼児学校（企業内保育施設）の開設</li> <li>3. フレーベルの子ども観と保育思想 幼稚園の創設と遊具（恩物）の開発</li> <li>4. '新しい教育'の思想と実践 デューイの旧教育批判と新教育の主張 モンテッソーリの保育と教具</li> <li>5. 日本の保育思想の流れ 倉橋惣三の生活保育 今日の保育の課題</li> <li>6. 子どもの権利の保障と「子どもの権利条約」</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験およびレポート</p>	

【授業科目】 発達心理学	【担当者】 小松 歩
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者として子どもと関わる際に必要な「発達」に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>2. 人は、受精・誕生から死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通してその可能性を実現していく。この人間の「発達（生涯発達）」について理解する。</li> <li>3. 生涯発達の視点から、その人の現在の姿・行動がどうあるべきか、またどのような援助が必要かが考えられるよう、各発達期の特徴について理解する。</li> <li>4. 発達の起こるメカニズム、とりわけ子どもと大人（保育者）の相互作用の重要性を理解する。</li> <li>5. 「保育所保育指針」の発達項目を理解する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <p>-----</p> <p>授業のなかで適宜紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>本講義では、乳幼児から児童期を中心に発達の基本的特徴（「認知発達」を軸にする）と、それをもたらす要因について概説する。また、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。</p> <p>プリントやビデオ教材などを活用し、子どもたちの具体的な姿を参考にしながら、一人ひとりの子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。</p> <p>およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「発達心理学」の考え方       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味を理解する。</li> <li>(2) 「発達していく」子どもの姿を、一人ひとりの子どもに即して的確にとらえることの必要性を理解する。</li> <li>(3) 生涯発達の視点から、発達におけるそれぞれの「発達段階」を理解する。</li> </ol> </li> <li>2. 発達のメカニズム       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達は、主体（子ども）が環境に能動的に関わって起こるといふ、発達の基本的メカニズムを理解する。</li> <li>(2) 発達初期からの豊かな経験・体験の必要性を理解する。</li> <li>(3) 発達可能性（可塑性）、敏感期の意味、発達課題について理解する。</li> </ol> </li> <li>3. 各発達期の特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児期 胎児の能力</li> <li>(2) 新生児期 有能性（原始反射、感覚能力、人への志向性）を理解する。</li> <li>(3) 乳児期 愛着関係の発達とことばを獲得するための基礎（情動によるコミュニケーション、三項関係）を中心に理解する。</li> <li>(4) 幼児期 ことばの発達、認知の発達を中心に理解する。</li> <li>(5) 児童期 認知の発達、対人関係の発達を中心に理解する。</li> <li>(6) 青年期 認知発達、自己認識・性役割の発達を中心に理解する。</li> <li>(7) 成人期以降 諸能力の変化と特徴</li> </ol> </li> <li>4. 乳幼児期における発達援助のあり方（保育所保育指針の発達項目を中心に）</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】 遊びの発達心理学	【担当者】 小松 歩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の子どもにとって主体的活動の中心である「遊び」の重要性を理解する。</li> <li>2. 乳幼児期にみられる遊びと、その発達的变化を理解する。</li> <li>3. 保育現場における具体的な遊び場面から、「遊びを通しての総合的な保育」の意味と重要性を理解する。</li> <li>4. 遊びを分析的にとらえる方法について理解し、具体的な遊びの姿から子どもの「育ち」を的確に把握する力を養う。</li> <li>5. 発達評価の意味と基本的方法を理解し、遊びや生活全体を通して子どもの「育ち」を的確に把握する力を養う。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <p>授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育の現場では、さまざまな子どもたちが存在する。  本講義では、発達心理学で学んだ知識をもとに、具体的な保育の場面において発達しつつある子どもの姿を実践的に捉えること（発達の評価）の意義と、具体的方法について概説する。  およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「遊び」の考え方 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもにとって「遊び」とは何か</li> <li>(2) 遊びの役割</li> </ol> </li> <li>2. 「遊び」の分類と主たる遊びの発達的变化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児期の遊び（事物のもて遊び、人との交流遊び）</li> <li>(2) ごっこ遊び</li> <li>(3) ルール遊び</li> <li>(4) 絵本・劇遊び、かく・描く遊び</li> <li>(5) 労働的遊び</li> </ol> </li> <li>3. 遊びをとおして学ぶこと <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科学的知識・社会的知識</li> <li>(2) コミュニケーションスキル</li> <li>(3) 自分について</li> </ol> </li> <li>4. 保育現場における遊びとその援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児期の遊び</li> <li>(2) 幼児期前期 ごっこ遊びを中心に</li> <li>(3) 幼児期後期 ルール遊び、劇遊びを中心に</li> </ol> </li> <li>5. 遊びを分析にとらえる方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ごっこ遊びの展開</li> <li>(2) 仲間入りの方法を中心に</li> </ol> </li> <li>6. 発達評価の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の評価とは</li> <li>(2) 発達検査の具体的方法</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と定期試験による</p>	



【授業科目】 教育心理学	【担当者】 小松 歩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの成長・発達、子ども自身がつさまさまな力と、保育者など周囲の環境からはたらきかけとの相互作用のなかで実現する。本授業では、発達心理学で学んだ基礎的知識をもとに、教育心理学であつかう分野について、保育実践における具体的な援助・指導法のあり方と結びつけながら学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <p>授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教育心理学」で何を学ぶか       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「教育心理学」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味を理解する。</li> <li>(2) 子どもが「育ち」、子どもと「かかわり」、子どもに「教える」ことの基本を理解する。</li> </ol> </li> <li>2. 教育と「発達」について       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子育てや保育のあり方と子どもの育ちは、どうかかわっているのかを理解する。</li> </ol> </li> <li>3. 「学習」       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習とは何か。</li> <li>(2) しつけや訓練による学び、「知りたい」と思う気持ち、「わかった」という喜びから生まれる学びなど、幼児期の子どもにふさわしい「学び」の方法について理解する。</li> </ol> </li> <li>4. 「性格」       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 性格とは何か、また、どのように形作られていくのかを理解する。</li> </ol> </li> <li>5. 「適応」       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心の健康と、それを妨げるものについて学ぶ。</li> <li>(2) 子どものもつ「悩み」をどのように解決するかを学ぶ。</li> </ol> </li> <li>6. 「評価」       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの育ちや個性を知る方法について学ぶ。</li> </ol> </li> <li>7. 「教授法」       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どものやる気を引き出す教え方とはどういうものか、を理解する。</li> <li>(2) ひとりひとりに合わせた教え方について考える。</li> </ol> </li> <li>8. 「集団」       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 仲間のなかで発達する力について考える。</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】 家族援助論	【担当者】 民 秋 言
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「子育て支援」、「保育指導」が、保育所の重要な役割であることを理解する。今日の家族をとりまく社会環境における家庭生活のあり方を理解し、それへの適切な「相談・助言」について考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>講義の中で必要に応じて指示する</p>	
<p>【参考書】</p> <p>同 上</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族とは何か (1) 家族の意味</li> <li>2. 家族とは何か (2) 家族のはたらき</li> <li>3. 家族をとりまく社会的状況 (1) 都市化</li> <li>4. 家族をとりまく社会的状況 (2) 核家族化・少子化</li> <li>5. 今日の家族生活 (1) 夫夫婦関係 (子どもからみた両親)</li> <li>6. 今日の家族生活 (2) 親子関係</li> <li>7. 今日の家族生活 (3) きょうだい関係</li> <li>8. 子育てからみた家族の課題</li> <li>9. 子育て支援サービスの範囲</li> <li>10. 子育て支援としての相談・助言</li> <li>11. 子育て支援サービスの具体的展開</li> <li>12. 子育て支援における関係機関との連携</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点とペーパーテストによる評価</p>	

【授業科目】 小児保健Ⅰ	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児の心身の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説します。特に小児では、心身両面からの健康が重要であり、保育の場だけではなく、家庭や地域との連携の必要性についても認識してもらうことになります。</p>	
<p>【テキスト】 新・保育士養成講座編纂委員会 編「小児保健」 全国社会福祉協議会</p>	
<p>【参考書】 馬場 一雄 「子育ての医学」 東京医学社 馬場 一雄 「続・子育ての医学」 東京医学社</p>	
授 業 計 画	
<p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回書提出する「出席カード」の裏に質問、意見、感想などを書いていただきます。（これが毎回のレポートとなります。）次の時間に、質問の答えから始める予定です。一方交通の授業にならないよう学生諸君の協力を期待しています。</p> <p>授業のテーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健の意義について</li> <li>2. 胎児期から新生児期にかけての成長・発達について</li> <li>3. 乳幼児期の成長・発達について</li> <li>4. 母子相互作用と父子相互作用について</li> <li>5. 聞えとことばの発達について</li> <li>6. 運動機能の発達について</li> <li>7. 乳児の食べる機能の発達について</li> <li>8. 歯の健康と子どものからだ</li> <li>9. 小児期の脳の構造と機能とその発達について</li> <li>10. 子どもの心理的、社会的成長・発達を支える条件について</li> <li>11. 保育に活用できる交流分析について</li> <li>12. 母子保健対策と保育について</li> </ol>	
<p>【評価方法】 毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目】 小児保健Ⅱ	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児期に見られる病気や発達障害の特徴についての理解を深めてもらい、その支援や対応について学んでもらいます。また、今日問題となっている小児の心身の問題についても再認識してもらい、保育活動の中だけではなく、社会資源の活用についても十分な認識を持ってもらうことにします。</p>	
<p>【テキスト】 新・保育士養成講座編纂委員会 編「小児保健」 全国社会福祉協議会</p>	
<p>【参考書】 馬場 一雄 「子育ての医学」 東京医学社 馬場 一雄 「続・子育ての医学」 東京医学社</p>	
授 業 計 画	
<p>前期と同様にVTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりです。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回書提出する「出席カード」の裏に質問、意見、感想などを書いていただきます。（これが毎回のレポートとなります。）次の時間に、質問の答えから始める予定です。一方交通の授業にならないよう学生諸君の協力を期待しています。</p> <p>授業のテーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気のときに見られる小児の症状について</li> <li>2. 感染症について</li> <li>3. 予防接種について</li> <li>4. 免疫とアレルギーについて</li> <li>5. アレルギー性疾患について</li> <li>6. 小児の心身症について</li> <li>7. 心身症以外の小児の病気について</li> <li>8. 小児虐待をめぐる諸問題について</li> <li>9. 小児の事故と安全対策について</li> <li>10. 心身障害児の保育と保健について</li> <li>11. 施設における保健対策について</li> </ol>	
<p>【評価方法】 毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目】小児栄養Ⅰ	【担当者】酒井治子
【開講期】1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児期において、栄養は身体発育の材料であるとともに、精神・心理発達を援助していく。月齢が小さければ小さい程、保育者がどのように食事に関わろうとするかが重要となってくる。</p> <p>「小児栄養」では、現代の子どもを取り巻く食生態を体系的に把握し、食・栄養の基本的知識を持ち、妊娠・授乳期、乳児期から青年期に達するまでのライフステージの栄養生理や食べる行動の発達過程の特殊性、食行動の障害について学び、子どもの栄養・食生活を支援する保育士の役割を理解する。こうした理論を基にした食事展開、援助、食育の具体的な演習を通して実践力を養うことを目指している。離乳期以降については2年次「小児栄養Ⅱ」ですすめていく予定である。保育士を志望する学生自身が食生活の重要性を学ぶことは今後の健康を保つ上でも重要である。この授業で、食生活を通して生活全般や環境の望ましい姿を理解し、実践できる力をつけてもらいたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『子どもの食生活と保育』 上田玲子監修 上田玲子・酒井治子・林薫他著 樹村房 2003年</p>	
<p>【参考書】</p> <p>『子どもの心と体を育てる食事学』 藤沢良知著 第一出版 2002年</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期における栄養・食生活の意義</li> <li>2. 子どもを取り巻く食生態と、心とからだの健康づくり       <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】VTR「NHK：知っていますか？子ども達の食卓 1999年報道」の視聴と小レポート</li> </ul> </li> <li>3. 小児の身体発育と栄養状態の評価</li> <li>4. 子どもの栄養・食生活の基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児期の消化・吸収の特徴</li> <li>2) 小児の栄養必要量</li> <li>3) 栄養素の機能</li> <li>4) 栄養素、食材料、料理、食事の関係から食事構成をみる</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】自分の食事構成を自己チェック</li> </ul> </li> <li>5. 妊娠・授乳期の栄養と食生活       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 受精から出産・産褥期までの母体の変化と特徴</li> <li>2) 妊娠・授乳期の栄養の特徴</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】「実物大料理カード」を用いた妊娠・授乳のための成人女子の食事構成</li> </ul> </li> <li>6. 乳児期の栄養と食生活       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 哺乳行動の発達</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】VTR「乳児の食べる機能の発達と成長・発育 第1巻」を視聴と小レポート</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 母乳栄養と人工栄養の特徴</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】冷凍母乳の扱い方、調乳法（育児用調製粉乳、フォローアップミルク等）の実習</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>①授業への出席及び態度、②筆記試験、レポートの内容により、総合評価する。</p>	

【授業科目】 教育課程総論	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の概念について理解させる。</li> <li>2. 我が国の保育カリキュラムの変遷を理解させる。</li> <li>3. 保育カリキュラムの編成原理を理解させる。</li> <li>4. 保育カリキュラムの種類と内容を理解させる。</li> <li>5. 保育カリキュラムの展開過程と評価について理解させる。</li> <li>6. 保育カリキュラムの実際を理解させる。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>金村美千子編 『教育課程・保育計画総論』 同文書院</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業時に適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の概念       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育課程の定義</li> <li>(2) カリキュラムの語源</li> </ol> </li> <li>2. 保育カリキュラムの変遷       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 明治初期の保育カリキュラム</li> <li>(2) 明治後期の保育カリキュラム</li> <li>(3) 大正自由教育期の保育カリキュラム</li> <li>(4) 戦中期の保育カリキュラム</li> <li>(5) 戦後新教育期の保育カリキュラム</li> <li>(6) 高度経済成長期の保育カリキュラム</li> </ol> </li> <li>3. 保育カリキュラムの編成原理       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針</li> <li>(2) 経験カリキュラムと教科カリキュラム</li> <li>(3) 子どもの生活・発達と保育内容の構造</li> <li>(4) 保育構造論</li> </ol> </li> <li>4. 保育カリキュラムの種類と内容       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育カリキュラムの種類</li> <li>(2) 長期的計画の内容と特徴</li> <li>(3) 短期的計画の内容と特徴</li> <li>(4) 保育カリキュラムの全体構造</li> </ol> </li> <li>5. 保育カリキュラムの展開過程と評価       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画と実践</li> <li>(2) 記録・評価の方法</li> </ol> </li> <li>6. 保育カリキュラムの実際       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼稚園のカリキュラムの実際</li> <li>(2) 保育所のカリキュラムの実際</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況とテスト</p>	

【授業科目】 保育内容総論	担当者】佐々加代子、小松歩
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園、保育所における子どもの生活の姿から、それぞれの現場における保育内容を考える。保育者としての援助の内容とその方法について、推論活動をすすめながら検討し、保育の基本的視点を学ばせる。</p>	
<p>【テキスト】 幼稚園教育要領、保育所保育指針は活用する。</p> <p>佐々加代子担当：佐々加代子、発達臨床相談、犀書房</p>	
<p>【参考書】 授業中に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の基本と保育内容 保育所保育指針と幼稚園教育要領の理解</li> <li>2. 子どもの生活と遊び 子どもの生活の実態；幼稚園と保育所から探ること</li> <li>3. 保育内容の理解 保育者に求められる総合的な視点 保育内容の5領域と総合</li> <li>4. 子どもの行動の特徴 発達的変化を遊びから探ること</li> <li>5. 保育者の援助 保育援助の内容と方法 保育所保育における保育の援助と方法 幼稚園保育における援助の内容と方法</li> <li>6. 保育の基本的視点の整理</li> </ol> <p>教員からの講義は印刷教材、VTR教材を用いる。演習の一つとして幼稚園の現場の子どもたちの観察も行う。VTR教材から観察、推論活動を行う。グループ活動もその時々に取り入れる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点を重視する。レポートによる評価。</p>	

【授業科目】 保育内容 健康	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な事項について理解させるとともに、それらを保育実践に活用するための諸能力と態度を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康と健康保育の役割、保育者の健康管理</li> <li>2 子どもの保健管理の考え方とその方法</li> <li>3 子どもへの保健指導の考え方とその方法</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>村田 務：子どものための健康保育、2003年度版。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>内山 源編著：小児ための小児保健ハンドブック、ぎょうせい、1998年。 阿部明子・落合優編著：心身の健康に関する領域 健康、東京書籍、2000年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域のうち、主に保健安全分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、効果的に子どもの健康を守り育てることができるか」をメインテーマとして、その基礎的な知識と実践的な技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①保育健康論（子どもの健康と健康保育の役割）、②保健管理論（主体管理、環境管理、生活行動管理）、③保健指導論（指導内容論、教材論、指導技術論）、④保育者の健康管理、である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、子どもの健康問題</li> <li>2、保育者の健康問題</li> <li>3、保育施設における保健活動</li> <li>4、保健管理の内容と方法</li> <li>5、保健管理の実習（主として環境管理）</li> <li>6、保育施設における保健指導</li> <li>7、保健指導における指導内容、教材及び指導技術</li> <li>8、保健指導のための教材づくり実習（模擬指導を含む）</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>2回のペーパーテスト、及びレポート(教材づくり)。学習意欲を重視する。</p>	



【授業科目】 保育内容 言葉	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。	
【テキスト】 佐々加代子、言語習得と人間関係、犀書房 佐々加代子、言葉資料集 2002年、私製テキスト 佐々加代子監修、手あそび130、私製資料	
【参考書】 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房	
授 業 計 画	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間と言語：言語の定義、機能</li> <li>2. ことばとキャッチボール</li> <li>3. コミュニケーションの基本的過程</li> <li>4. 日本語の特徴、敬語</li> <li>5. 言語発達の標準像（0～6歳まで）</li> <li>6. 文字学習能力の発達</li> <li>7. 言語発達に関連する人間関係の要因</li> <li>8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど）</li> <li>9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり、吃音、失語症</li> <li>10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法</li> <li>11. 演習       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳幼児の行動観察記録（レポート）</li> <li>2) 日案（レポート）</li> <li>3) 日案からの主活動の展開；保育者としての保育場面の疑似体験、2回</li> <li>4) 発達助成論</li> </ol> </li> <li>12. 保育者養成における“言語”教育</li> <li>13. 研究法</li> </ol>	
【評価方法】 出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う	

【授業科目】 乳児保育 I	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義、乳児期の発達と保育、乳児保育の内容と方法など、乳児保育の基本を学び、乳児保育についての理解を深める。</li> <li>2. 乳児保育の具体的事例、課題を取り上げ、演習形式を交えながら、乳児保育の実践的な力量を養う。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適宜指示する</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育とは <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)乳児保育の意義</li> <li>(2)人間発達における乳児期の意味</li> <li>(3)乳児保育の考え方の基本</li> </ol> </li> <li>2. 乳児期の子どもの発達と保育 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育</li> <li>(2)1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育</li> <li>(3)2歳の発達の特徴と保育</li> <li>(4)乳児保育の実際 — 具体的事例の検討 —</li> </ol> </li> <li>3. 乳児保育の内容と方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)乳児期の生活の内容と保育</li> <li>(2)乳児期のあそびと保育</li> <li>(3)乳児保育の方法・形態と環境構成</li> <li>(4)乳児保育における記録と指導計画・保育計画の基本</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業への参加状況・テスト</p>	

【授業科目】音楽Ⅰ（基礎理論）	【担当者】加宮葵 平野ミヨ子 村松桂子
【開講時期】Ⅰ年 前期	
【授業目標】	楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動が、スムーズにすすめられるように、という事を目標にしている。
【テキスト】	下総完一 「楽典」
授 業 内 容	
音	音の種類と性
譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解）	五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符 付点休符・縦線
音名	拍子の数え方・休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号 シンコペーション・連符・タイ
音程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程
音階	長音階：調号（＃・b）４個迄 短音階：調号（＃・b）４個迄（自然短音階・和声短音階・旋律短音階） 音階各音の名称
調	調と調号 調の相互関係
移調	学生がよく知っている曲等を、実際に移調し、いろいろなパターンを細かく指導する。
和音（伴奏付けの基礎としての和音の理解）	三和音・主要三和音・属七の和音・ 主要三和音の転回・属七の和音の転回
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	省略法・反復記号・Da Capo (D.C) Dal Segno(D.S) スラー・テヌート・スタッカート・フェルマータ・ポルタメント 装飾音符と装飾記号・トゥリル 発想記号等
【評価方法】	期末試験の成績・出席点

【授業科目】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】加宮葵 平野ミヨ子 村松桂子
【開講時期】 Ⅰ年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的な、やさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>：ソルフェージュ Ib</p> <p>：コンコーネ50番（中声用）</p>	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur F-dur G-dur a-moll 等の練習曲を、スムーズに譜読みできるようにする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌えるようにする。</p> <p>* 1講時につき ソルフェージュ 約15曲</p> <p>2講時につき コンコーネ50番 1曲</p> <p style="text-align: right;">} をマスターする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点、テスト点</p>	

[授業科目名] 音楽 I (ピアノ I)		[担当者] (下記参照)
[開講期] 1年前・後期		
<p>[授業目標]</p> <p>子どもに表現力豊かな音楽環境を提供し、且つ子どもの情操発達等に資することのできる保育者として必要な音楽知識と基礎技能の習得を図る。</p> <p>1 読譜力の習得 2 視奏・鍵盤楽器の演奏に関する基礎力の習得</p>		
<p>[テキスト]</p> <p>1、鷺見五郎 著 「ピアノメソッド」: 共同音楽出版社 (全員が用意する) 2、バイエルピアノ教本 : 全音楽譜他、出版社は問わない (全員用意する)</p> <p>[参考書]</p> <p>1、ソナチネ、ソナタ、ブルグミュラー、モーツァルト、等 の楽譜集</p>		
[授業計画]		
ピアノ I	<p>1、譜表・音符・拍子記号・各種記号並びに標語・音階・調性・和音の基礎的理解と実践による習得</p> <p>2、基礎読譜力の習得</p> <p>3、基礎読譜力と音楽能力の向上</p> <p>4、大譜表の読譜力及び鍵盤楽器の基礎技能の習得</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>期末試験の成績 (課題曲の合否により評価する)</p>		
<p>[担当者]</p> <p>泉晶子・稲村敬子・大澤美紀・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・ 諏訪鈴子・関根美和子・民秋彩・中瀬千央・西山裕子・舛本清美・ 岡益代・平さわ・福嶋省吾・三尾恵子・西澤和枝・野村真理子・山本由紀子・ 長永理恵・機田美帆・関裕子・富士素子・前田真弓・港理々子</p> <p style="text-align: right;">(文責: 秋山)</p>		

【授業科目名】 図画工作	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>◆前期…保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とします。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行います。(枝常・花原)</p> <p>◆後期…保育の造形と表現について理解します。(八木)</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。前期と後期、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <p>◆前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か</li> <li>2. 基本的な素材とその使い方について</li> <li>3. 基本的な道具とその使い方について</li> <li>4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について</li> <li>5. 平面を描く、つくる基本について</li> <li>6. 立体を描く、つくる基本について</li> <li>7. 造形と遊びと科学の関係について</li> </ol> <p>◆後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの造形・表現についての理解 乳幼児期のモノを扱った表現の発達と保育</li> <li>2. 遊びの表現と造形と援助 物語る遊びと機能・科学する遊びを中心に</li> <li>3. 認識と想像の表現と援助</li> <li>4. 表現を育む環境と援助</li> </ol> <p>*それぞれのテーマに沿った造形アイデアと技術の演習も行ないます</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価します</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅠ	【担当者】 本学専任教員
【開講期】 1年 後期	
【授業テーマ】 各グループ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、こころの崩壊、家庭のあり方、自然破壊など我が国の社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これから生きる子どもたちにとって、また子どもたちにかかわる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。ゼミナールⅠでは、「人間尊重の理解とその実践」に関する基礎的事項について追究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題を取り上げて、これらに関連する人間尊重の考え方について理解する。</li> <li>2. 人間尊重にかかわる保育内容について理解させるとともに、その内容をどのようにして子どもたちに伝えていくかという実践に関する基礎的事項について理解する。</li> </ol>	
<p>【授業形態】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</li> <li>2. 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</li> <li>3. 文献講読やVTR視聴、実地見学などをもとに、話し合いをおこなう。</li> <li>4. 各グループからの発表の場を設け、学習成果の共通化を図る。</li> </ol>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読やVTR視聴などを通して、教育・保育・福祉が直面している今日的課題の概要について理解する。</li> <li>2. 実地見学や観察、調査などの体験学習により理解を深める。</li> <li>3. 教育・保育・福祉が直面する課題が人間尊重の考え方と、どのように関わっているかについて検討する。</li> <li>4. 人間尊重に関わる保育内容について調べる。</li> <li>5. 人間尊重に関わる保育内容の指導法について考える。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、レポート、小テスト、作品、実技など</p>	

【授業科目】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩 ・ 近藤正樹
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>2年次に実施する「幼稚園実習」とともに、幼稚園教諭二種免許状を取得するための必修科目である。幼稚園実習をとおして、幼稚園教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携</p>	
<p>【参考書】</p> <p>実習園の施設要覧・入園のしおり・園だよりなどを適宜使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1年次の実習は、6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知ってほしい。</p> <p>【1年次】 見学・観察実習のテーマ 「幼稚園の日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ ② 保育者の活動について学ぶ ③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては、学内での事前実習オリエンテーションで詳しく説明する。 オリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 幼稚園実習とは（全般的説明）</li> <li>② 幼稚園の現場から</li> <li>③ 見学・観察のポイント</li> <li>④ 実習日誌の書き方</li> <li>⑤ 実習に行く前に（心構えや諸注意事項）</li> </ol>	
<p>【評価方法】 ① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会 などを総合して評価する。</p>	



【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅰ）	【担当者】 鈴木佐喜子、秋山治子、船津秋子
【開講期】 1 年前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育士の資格を取得するには学内での必要科目の履修の他、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習が必修となる。実習に入る前に次のことを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能、保育士としての役割、職業倫理等を学ぶ。</li> <li>2. 保育所における子どもの生活、子どもの最善の利益の具体化、保育者の援助や関わりについて、実践現場での体験を通して学ぶ。</li> <li>3. 実習の目的、課題設定、実習日誌の書き方等を学び、実習後に実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成を行い、実習日誌を通して評価・指導を受ける。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>保育所実習を円滑に進めて行くための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深めさせるため以下の内容で行う。</p> <p>(実習前)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 事務手続きオリエンテーション（全実習）       <ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設の一覧表の確認、実習個票（履歴書）、健康診断、細菌検査、実習日誌の提出・返却に関わる一連の手続き説明</li> </ul> </li> <li>II. 実習施設の配属       <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員の指導のもと学生が相互に話し合い、各人の実習施設を決定する。</li> </ul> </li> <li>III. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義）       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所実習の意義・目的・内容・実習のテーマ</li> <li>(2) 実習への心構えと諸注意、特に個人のプライバシー保護と守秘義務、子どもの最善の利益、人権の尊重についての理解</li> <li>(3) 実習日誌の書き方           <ul style="list-style-type: none"> <li>実習日誌を書く目的、意味      日誌を書く上での諸注意      記録のポイント</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義）       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) いま、求められる保育所の役割</li> <li>(2) 保育所における保育の特徴と日課</li> <li>(3) 保育所の職務内容</li> </ol> </li> <li>V. 実習生を受け入れて—保育現場から—（講義）       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所における子どもの姿</li> <li>(2) 保育所の役割</li> <li>(3) 実習生に望むこと</li> </ol> </li> </ol> <p>(実習後)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>VI. 実習日誌の提出・点検・指導</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（実習オリエンテーションの出席状況、出席態度を含む）で評価する</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子、秋山治子、船津秋子
【開講期】 1年次 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能、保育士としての役割、職業倫理等を学ぶ。</li> <li>2. 保育所における子どもの生活、子どもの最善の利益の具体化、保育者の援助や関わりについて、実践現場での体験を通して学ぶ。</li> <li>3. 実習の目的、課題設定、実習日誌の書き方等を実践を通して学ぶ。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>学内での実習関連教科目および「実習指導」を受講後、今年度は、11月11日（火）から21日（金）の10日間で保育所実習Ⅰが行われる。実習の内容は、主に《見学・観察・参加》の形で行うが、園によっては《見学・観察》だけの場合もある。なお、実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会が行われることが多い。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所の機能、施設について理解する</li> <li>(2) 保育所における日課、一日の生活の流れを観察や参加を通して学ぶ</li> <li>(3) 観察や関わりのなかで、乳幼児期の子どもの発達について理解を深めるとともに保育内容や保育者の関わりについての理解も深める。</li> <li>(4) 保育所における保育計画について理解を深める。</li> <li>(5) 子どもの最善の利益がどのように考慮されているかを理解する。</li> <li>(6) 保育士の専門性や倫理観を学ぶ。</li> <li>(7) 安全および疾病予防への配慮について学ぶ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習オリエンテーション(実習指導)への出席および受講状況、実習日誌の記録実習中の出欠席・学内反省会の状況などを総合して評価する</p>	

教養教育科目（2年）



【授業科目】海外語学研修	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期・2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>イギリスに約4週間滞在することによって、生の英語に接し、英語運用能力を高める。また、イギリスで生活し、名所旧跡を訪ねることによって、イギリスの生活習慣や文化を肌で感じ体得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>授業の中心は8月2日出国、イギリスはリーズ市にあるリーズ・メトロポリタン大学の語学センターで3週間実施される語学研修にホームステイしながら参加、8月27日帰国のイギリス滞にある。しかし、出発に備えて、前期に5回の事前指導を行う。パスポートの取得から、渡航手続きをこの期間に行い、あわせて現地での基礎情報や生活情報、そして必要最低限の英語の学習を行う。参加費は、別に配布されるチラシを参照のこと。英語力については、一切問わず、ゼロからでも現地の先生が懇切丁寧に指導してくれ、帰国するときには、英語の面白さが身にしみてわかるだろう。全期間担当者が同行する。なお、最低催行人数に達しない場合は、実施されないこともあるので注意。</p> <p>予定内容（あくまでも予定）</p> <p>5回の事前指導</p> <p>8月2日 成田出発 直行便にてロンドン</p> <p>8月3日 ロンドンからリーズへ</p> <p>8月3日—8月24日 ホームステイして、メトロポリタン大学の語学センターにて研修</p> <p>8月24日 リーズからロンドンへ</p> <p>8月25日 ロンドン市内観光</p> <p>8月26日 ロンドン・ヒースローから帰国の途</p> <p>8月27日 成田帰国</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、出席点に現地での課題成績を加味して評価する</p>	

【授業科目】 選択外国語 英会話 (応用)	【担当者】 サラ ブロック (Sarah Brock)
【開講期】 2年前期・2年後期	
<b>【授業目標】</b> 中学あたりからの文法科目の総復習、ちなみに会話で適切である文法とそうでない文法の区別、を基盤に自然体でいられて、コミュニケーションを求める精神を養う。	
<b>【テキスト】</b> プリント (将来まとめてテキストにします)	
<b>【参考書】</b> 電子辞書、紙の辞書 (パックス講談社) など	
授 業 計 画	
<b>〔前期〕</b> (1-3 週) 自己紹介を面白くするには? マイナス発言 (自分は英語できない、自分の近所は面白くない) などを除けば何が残る? 現在形と現在進行形を調べる。用意した会話を使って短い劇 (スキット) も時々する。 (4-8 週) 自分の物語は? 難しい言葉を使ってしまうという辞書の罠とその脱出方法、そして話したくないときの逃げ方を探る。過去形と過去分詞中心の文法を利用する。 (8-15 週) 将来なにになりたい? 小さいときと今 (学生るとき) で嫌になるほど聞かれる質問です。真面目の話題、そしてちょっとふざけた話題を取り上げ、未来系を使いこなす。歌も使う。  <b>〔後期〕</b> (1-3 週) 夏休みの課題は英語日記でした。互いの日記を読み上げ、内容について会話をする。言葉の順序を正しくするコツと文法のパターンをいくつか使う。 (4-8 週) 自分の文化は? 日本のこと全ては管轄外ですよ、まず自分の日常生活での*文化*を、たとえば外国の留学生に説明できるぐらいの会話実力を目指す。説明文中心。 (8-12) 英語を聞いて判らないときは誰のせい? 自分の耳を信じて! といい、歌と映画を使って耳を慣らす。そして慣らした耳に入ってくる情報を受け止め、それに関して自分の感想、意見、考えを述べる力を目指す。関係代名詞・関係福祉をつかう。できれば生徒の応募に答え、見たい映画と聞きたい音楽 (歌いたい歌?) にしたい。 (12-15 週) 授業で何か作りたくない? 英語を使って何かを作ろう。実際に作れなくてもイメージでできる。料理番組のスキット、折り紙を子供に教えるスキット、手紙の書き方や読み上げ方、授業でやって課題にして、レポートにする。	
<b>【評価方法】</b> 課題やレポートの提出、プリントの提出、インタビューテストなど。授業の中でテストが行う。	

【授業科目】 選択外国語 フランス語会話	【担当者】 村山知恵
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】  1年の時に学んだフランス語を少し実践してみましょう。ビデオ教材を用いて、生のフランス語を聞き取り、少しでも話せるようにしましょう。</p>	
<p>【テキスト】  A.Monnerie, "Bienvenue en France" (Hatier/Didier)</p>	
<p>【参考書】  仏和辞書</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>全部で13課、各課ごとに楽しいストーリーがあります。2回の授業で1課進む予定です。毎回ビデオを見てフランス語を聞き取り、教科書の文法練習問題と各課の登場人物と共に会話の練習をしましょう。</p>	
<p>【評価方法】  平常点（毎回の演習の成績）</p>	

【授業科目】 選択外国語 ドイツ語会話	【担当者】 田中 安行
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビデオを見ながらドイツ語の基礎の復習と簡単な会話、表現の仕方などを発展させる。</li> <li>2. ドイツ語の童話や詩、歌などを学びながらドイツ語の音声に多く触れて、ドイツ文化への理解と親しみを深める。</li> <li>3. ドイツの社会や文化に対する正しい知識と理解を通して国際的教養を身につける。</li> <li>4. 簡単な会話から発展して、自分のことなどを自己表現できる基礎を発展させる。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>開講時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>開講時に指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声訓練と表現——ビデオやテープを利用して、ドイツ語の音声に慣れ、理解する訓練を行う。重要表現を習得して、音声による自己表現もできるようにする。</li> <li>2. ドイツ語会話——会話表現の学習を通してドイツ人の生活や考え方などを理解する。</li> <li>3. ドイツ語の文構造理解——基本的なドイツ語の文でドイツ語の文構造と文法を理解する。</li> <li>4. 文化理解——ドイツで作られたスライドやビデオ教材などを通して、ドイツ文化およびドイツの歴史や現状への正しい知識と認識を得る。ドイツの詩や歌を通してドイツ人の感情も理解する。</li> <li>5. 文章理解——辞書を使って、やさしいドイツ語の文や童話などを読んで、ドイツ語の文に慣れる。</li> </ol> <p>[授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎時間ドイツ語会話や詩や歌を覚えて、自然にドイツ語で話し聞くことに慣れていく。</li> <li>2. 会話表現を通してドイツ人の生活や考え方などドイツの文化を理解する。</li> <li>2. 会話文や物語などの文を分析してドイツ語の文法のルールを発見する。文法を受け身でなく、自分から発見して身につけさせる。</li> <li>3. ドイツのさまざまな資料（ビデオ・スライド・写真など）を使って自分たちでドイツについての発見を行うような動きのある学習活動を行い、ドイツに対する正しい知識と理解を得る。</li> <li>4. ビデオやインターネットなどのメディアを通して、現代のドイツの人々の生活や風物に触れ、ドイツ語をより身近に感じられるようにする。</li> <li>5. グループ学習を中心にして、ドイツ語の発音練習や会話、その他の学習活動を進めて、なごやかな雰囲気です充実した学習ができるようにする。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況や発言などの平常点と口頭による質疑応答や小テストとレポートおよびテストなどで総合的に評価する。</p>	



【授業科目】 選択外国語 英文講読

【担当者】 藤田久美子

【開講期】 2年前・後期

【授業目標】

主に4年制大学の3年次編入をめざす学生を対象にして、読解能力を高める事を目的とする。

【テキスト】

「Living a Fruitful Life」(成美堂)

【参考書】

### 授 業 計 画

今後高令化が進むと共に、余暇の時間はますます増えていくに違いない。そんな中で、「社会の様々なストレスとどのように向き合い、どのようにして充実した日常生活を送れるか」という事は、私達にとって大きな問題である。そこでこのクラスでは、「充実した生活」と密接にかかわる4つのテーマ、「食」、「スポーツ」、「ファッション」、「音楽」を取り扱っているテキストを使って、日本人の多くがこれらの分野を積極的に楽しんでいる様子を見とみたいと思う。

内容はそれぞれ興味深いものであると思うので、参加者はよく予習して授業に臨んでほしい。テキストは、各章が1ページ程度の読み物と、その内容の理解度を測る練習問題、単語の感覚を養う問題(聞き取りを含む)、さらに重要構文に慣れるための英作文より構成されている。

聞き取り以外の部分は必ず予習しておくことを義務づけ、全員がやってきてあることを前提に授業を進めたい。

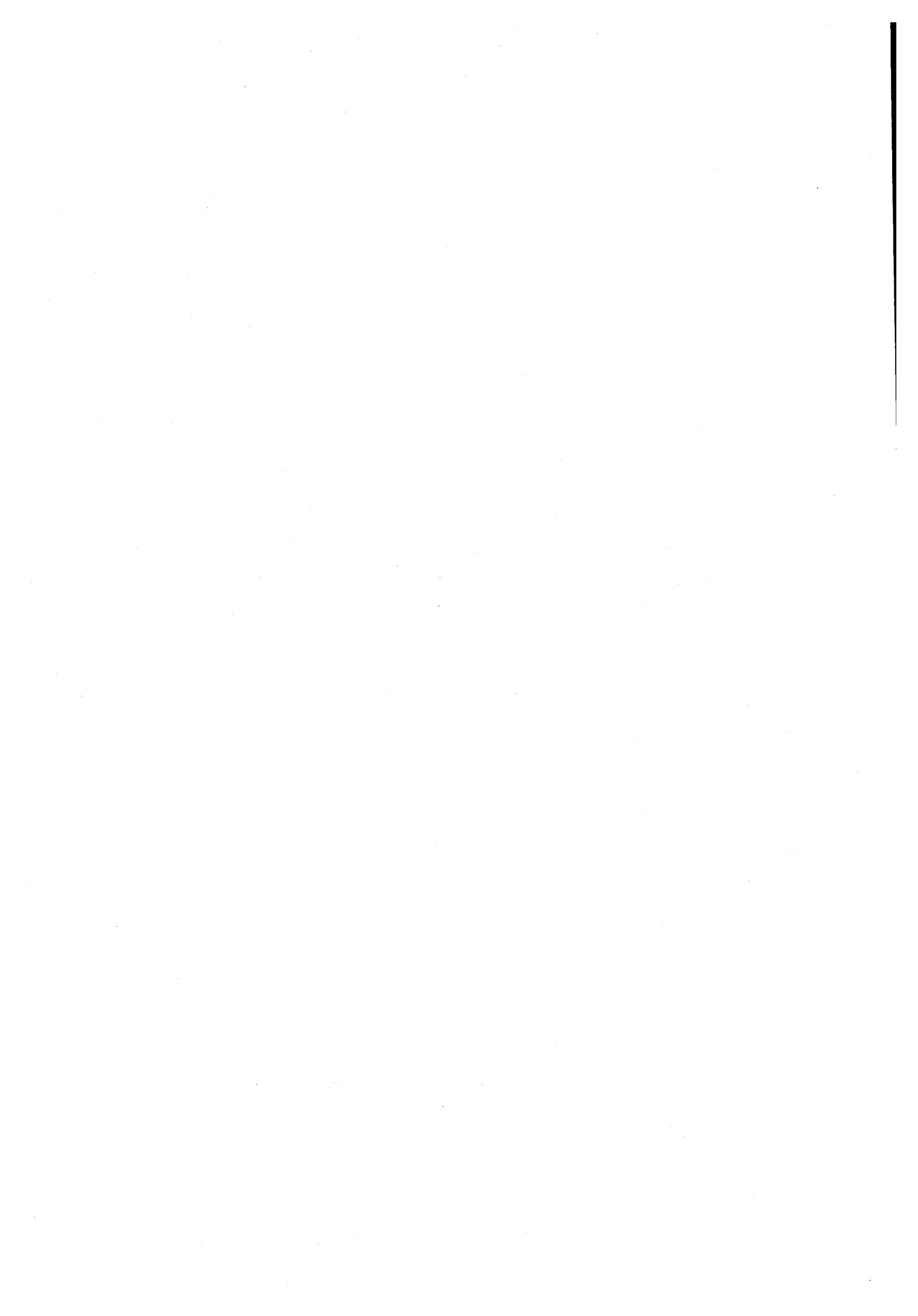
テキスト以外にも、必要に応じてプリントを配って、少しいつもとは違った文件、テーマに慣れるための勉強も行きたい。

【評価方法】

平常点と期末テストの結果とを総合して評価する。



專門教育科目（2年）



【授業科目名】 社会福祉援助技術 【担当者】 佐野 英司

【開講期】 2年 前期 後期

【授業目標】

保育や幼児教育、児童福祉の各分野で求められている課題に対し、どう対応していくかの援助技術についての方法を理論的、実践的に学び、想像力ゆたかな社会福祉労働従事者への道を追求することを目標とする。また、その際、人権尊重、守秘義務など社会福祉実践上の基本姿勢について身につけられるよう留意する。

【テキスト】 【参考図書】

「講義ノート」を作成して進める予定。参考図書については適宜紹介する。

【授業計画】

1. 子どもたちや親たち、地域住民の生活・福祉課題
2. 保育と社会福祉援助技術  
保育における社会福祉援助技術の意味、方法、
3. 直接援助技術と間接援助技術
4. 社会福祉調査の理論と方法
5. 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と実際
6. 個別援助技術（ケースワーク）の原則
7. 個別援助技術（ケースワーク）の過程と過程で用いられる手段
8. 集団援助技術（グループワーク）の理論と実際
9. ソーシャルアクション、ソーシャルプランニング他

【評価の方法】

出席率を重視します。授業は定時に始めます。  
成績は平常授業態度とレポートの総合点で評価します。

「授業科目名」 現代保育の課題	「担当者」 村田 保太郎
「開講期」 2年 後期	
<p>「授業目標」 保育制度が措置から契約へ移行する背景と保育園・保育士の対応。保育士の保護者に対する援助・対人対応。保育サービスの本質。子育て育児支援及び支援に関わるネットワーク。母親の育児負担感への対応など現代保育の課題に対する理解を深める。</p>	
<p>「テキスト・参考書」 「保育の根っこにこだわろう PART 6」村田 保太郎著 全社協刊</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所保育の特性と保育の目標を現代社会の状況から検討する</li> <li>2 保育制度、保育士資格などに関わる児童福祉法の改正について学ぶ</li> <li>3 保育士の保護者に対する保育に関する指導の在り方と実態について学ぶ</li> <li>4 国の子育て支援計画と入所児童の多様な保育ニーズについて学ぶ</li> <li>5 企業経営のサービスと保育サービスとの違いについて学び、市場原理、規制緩和、地方分権など政治の動向について考究する</li> <li>6 エンゼルプランによる子育て支援と保育園ならではの子育て支援について理解を深めると同時にその実例を通してその実際を学ぶ</li> <li>7 子育て支援を中核とした地域のネットワークについて具体的に理解する</li> <li>8 母親の育児に対する負担感の原因について探究し、母親との対応について具体的に学ぶ</li> <li>9 少子・高齢化、わが国の人口動態について理解を深め保育園の役割を考える</li> <li>10 保育所保育指針に新しくもりこまれた内容について事例を通して学ぶ</li> <li>11 ソーシャルワーク、カウンセリングマインドについて理解を深め、保育園における気になる子や保護者への対応を具体的に学ぶ</li> <li>12 諸外国の保育事情とわが国の保育条件を通して保育の在り方を考える</li> </ol>	
<p>「評価方法」 1 授業の中でのミニレポート及び授業への積極的態</p>	

【授業科目】 養護原理	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期	
<b>【授業目標】</b> 1. 養護問題の発生の原因と背景を理解させる。 2. 社会的養護の果たす役割、児童福祉施設等の役割について理解させる。 3. 児童福祉施設における社会的養護の実際を理解させる。 4. 社会的養護によって生活する子どもの生活と権利を理解させる。 5. 児童福祉施設で働く保育士としての役割や子どもへの援助について理解させる。	
<b>【テキスト】</b> 櫻井慶一（編著）『養護原理』北大路書房	
<b>【参考書】</b> 養護施設は今編集委員会（編）『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房	
授 業 計 画	
1. 養護問題の発生の原因と背景 (1) 養護問題とは何か (2) 児童養護の歴史 (3) 社会・家庭の変化と子どもの問題 2. 社会的養護と児童福祉施設の役割 (1) 児童養護の体系と領域 (2) 児童相談所の機能と役割 (3) 施設養護とホスピタリズム (4) 里親制度の現状と里親養護の役割 (5) 児童福祉施設と児童福祉施設最低基準 3. 社会的養護の実際 (1) 児童養護施設 (2) 乳児院 (3) 母子生活支援施設 (4) 児童自立支援施設 (5) 知的障害児施設 (6) 肢体不自由児施設 (7) 情緒障害児短期治療施設 (8) 心に傷を受けた子どもへの対応 4. 施設で生活する子どもの生活と権利 (1) 最低基準と生活水準 (2) 集団生活と個の尊重 (3) 意見表明権等子どもの権利の実現 (4) 職員と子どもの関係 (5) 児童養護の原理・原則 (6) 苦情処理・第三者評価と生活の改善 5. 施設職員の専門性とチームワーク (1) 施設職員に求められるもの (2) 施設職員の専門性と倫理 (3) 施設職員のチームワークと資質 (4) 施設労働の内容と条件 (5) 児童養護の課題	
<b>【評価方法】</b> 授業の出席と定期試験	

【授業科目】小児保健実習	【担当者】山田 万智子・原 照子・久保田 登久乃
【開講期】2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児の発育及び特徴を知り、その養育上の心得と観察ポイント並びに日常起り易い病気、異常事故の特徴を知り、早期に発見する方法や応急処置等を実技実習をとおして、すぐ実践できる技術を習得させる。また、予防第一と考えその安全面を十分に考察することを理解させる。</p>	
【テキスト】	小児保健実習 白野幸子著 医歯薬出版K.K.
【参考書】	赤十字救急法教本 日本赤十字社編 担当教師の実習テキストなど
授 業 計 画 (実習講義と実習内容)	
<p>1、健康状態の観察</p> <p>(A) 一般状態の観察(きげん・顔つき・顔色・動作・食欲・睡眠)</p> <p>(B) 身体各部の観察</p> <p>2、基礎的養護方法(身体の清潔(沐浴)、抱き方、おむつの当て方など)</p> <p>3、身体の発達・測定の仕方・評価の仕方</p> <p>(A) 身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習</p> <p>(B) 乳歯・永久歯との関わりと、う歯予防についてなど</p> <p>4、病気や異常の見分け方・病児の世話</p> <p>(A) 重傷であるかどうか保育者としての見分け方</p> <p>(B) 体温、呼吸、脈拍測定の実習</p> <p>(C) 薬の与え方(散薬・水薬・座薬など)、薬の保管</p> <p>(D) 罨法(湯たんぽ、氷枕、氷のうの入れ方)</p> <p>(E) 症状処理等の記録</p> <p>(F) 感染予防(予防接種、発見と隔離、消毒法)</p> <p>5、乳幼児に起り易い症状とその対応</p> <p>発熱・発疹・嘔吐・腹痛・下痢・便秘・咳・けいれん・脱水</p> <p>6、乳幼児に起り易い事故とその対応</p> <p>(A) 窒息・誤飲・異物混入・熱中症・創傷・熱傷・咬傷・突指・頭部外傷などの応急処置</p> <p>(B) 事故防止のための安全管理、安全教育、安全指導</p> <p>(C) 心肺蘇生法</p> <p>(D) 止血法、包帯法、体位・運搬法</p> <p>7、健康な子どもを育てる。(赤ちゃん体操、外気浴など)</p> <p>8、国及び地方自治体の支援システム及び、その活用</p> <p>9、保育者、保護者の健康管理の必要性</p>	
<p>【評価方法】 実技実習(実物大の人形での積極的な取り組み)</p> <p>テスト・レポート・出席状況で総合的に評価する。</p>	



【授業科目】小児栄養Ⅱ	【担当者】林 薫
【開講期】2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「小児栄養Ⅱ」では、「小児栄養Ⅰ」で習得した栄養の基礎知識を基盤に、乳汁期から離乳期、幼児期、学童期、思春期、成人期に至るまで各期の特性（栄養・身体的特性、摂食機能、問題点、留意点等）を学習する。更に各期の調理・供食を行い、理解を深めると共に実践力を養う事を目的としている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「小児栄養Ⅰ」と同様 山口規容子、水野清子著「小児栄養学」</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>「小児栄養Ⅰ」と同様 主食・主菜・副菜成分表</p>	
授 業 計 画	
<p>① オリエンテーション 小児栄養実習の学習内容。 調理実習室の使い方、器具・食品の取り扱い、衛生、基本的な野菜の切り方について学ぶ。</p> <p>① 成人女子の栄養と食事 成人女子（20才）の献立を実習する。 自分自身の食生活を見直し、健康的な食事のあり方について学ぶ。</p> <p>② 妊娠・授乳期の栄養と食事 成人女子の献立から妊娠期・授乳期への食事展開を学ぶ。 妊娠・授乳のメカニズム、妊娠中に起こる疾患とその対処方法について学ぶ。</p> <p>③ 離乳期の栄養と食事 離乳の基本をベースに、初期・中期・後期・完了期の特性と変化を学習する。 各期の調理実習を行い、使用できる食品、調理形態の違い、味付け、及びベビーフード、食具の種類、離乳食の与え方等について学習する。</p> <p>④ 幼児期の栄養と食事 1～2才、3～5才児の食事の違い（調理形態・量・味付け）、保育所給食について学習する。</p> <p>⑤ 学童期・思春期。青年期の栄養と食事 各期の身体・栄養特性を理解し、生活習慣病等、健康問題の関連性について学習する。</p> <p>⑥ 小児の諸問題 新生児マス・スクリーニング、先天性代謝異常症、食物アレルギー、不慮の事故など、現代の小児の諸問題について学習する。</p> <p>⑦ まとめ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席及態度、定期試験、レポートの内容による総合評価</p>	

【授業科目】 精神保健	【担当者】谷 俊治
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児の心の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説します。特に小児では、心の問題が体や行動の異常として表れやすいので、保育の場だけではなく、家庭や地域との連携の必要性についても認識してもらうことになります。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>新・保育士養成講座編纂委員会 編「精神保健」 全国社会福祉協議会</p>	
<p>【参考書】 河合 洋・山登 敬之 「子どもの精神障害」 日本評論社 若林 慎一郎・本城 秀次 「精神保健」 ミネルヴァ書房</p>	
授 業 計 画	
<p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回書提出する「出席カード」の裏に質問、意見、感想などを書いていただきます。（これが毎回のレポートとなります。）次の時間に、質問の答えから始める予定です。一方交通の授業にならないよう学生諸君の協力を期待しています。</p> <p>授業のテーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健の意義について</li> <li>2. 小児の生理的・心理的・社会的・倫理的な成長・発達について</li> <li>3. 乳幼児期から幼児期、学齢期、思春期にかけての精神保健について</li> <li>4. 小児の心の健康障害について</li> <li>5. 発達の障害とその対応について</li> <li>6. 乳幼児突然死症候群をめぐる問題について</li> <li>7. 児童虐待の基本的知識と対応について</li> <li>8. 子育て支援と精神保健活動について</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目名】 保育内容 人間関係（社会行動）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようににはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係 - 人とのかかわりの育ち』萌文書林          ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼免・保母資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連・共通点と異なる点も併せて説明する。</li> <li>2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。</li> <li>3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。</li> <li>4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。</li> <li>5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。</li> <li>6. 子どもが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。</li> <li>7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。</li> <li>8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。</li> <li>9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にする。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。</li> <li>10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。</li> <li>11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることで本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目】 保育内容 環境		【担当者】 近藤正樹・小作明則
【開講期】 2年 前期		
<b>【授業目標】</b> 子どもたちは、自然認識の中で、自然物・自然現象に出会って、知的体験を拡大し、自然法則を感得していく。この教科では、これらの体験を適度に提供できる保育者を養成するために必要な“知識と体験の事前学習”と“教育方法”を含み、保育現場で底力が発揮できる保育者に仕立てたいと思っている。認識ばかりでなく、実習体験を組み合わせ、不得意を得意に導きたい。休日のうち1日を野外実習にあて、神奈川県真鶴町の磯で体験学習を行う。		
<b>【テキスト】</b> テキストは使用しない（プリントを配布する）		
<b>【参考書】</b> 参考書は演習や講義ごとに紹介する 基本的なものは大学図書館にある		
<b>授 業 計 画</b>		
4月 9日	・ 幼児のための環境設定①栽培（講義と演習） 畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画	
4月 16日	・ 幼児のための環境設定②（講義） ムシに強くなるう 飼育の要点 正解は観察をしてから	
4月 23日	・ 植物にあかるい保育者になるために①（演習と講義） 身近な雑草の観察 花・茎・葉・根の特徴を知る	
5月 30日	・ 植物にあかるい保育者になるために②（講義と演習） 検索の仕方・図鑑の使い方 顕微鏡の使い方 花の構造の観察とスケッチ	
5月 7日	・ ムシを知っている保育者になるために①（演習） 昆虫（アリ）の構造観察とスケッチ	
6月 4日	・ ムシを知っている保育者になるために②（講義） ムシとは何か 昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活	
6月 11日	・ 「これなあに」に強くなるために（講義） 認識と質問との関係 概念形成の質問と対応のしかた	
6月 18日	・ 「なぜ」「どうして」に強くなるために（講義） 知識の拡大の質問と対応のしかた 「正しい話」と「うその話」 解答不能の扱い方	
6月 25日	・ 自然の変化に気づく（講義） 天気と気象 天気図の見方・使い方 生物季節 天体の物理現象	
7月 2日	・ 「自然」とは何か（講義） 自然・人為・人工 自然物・自然現象・自然法則 「自然度」が意味するもの	
7月 9日	・ 自然保護 自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」「かわいそう」の問題	
7月 16日	・ 環境と教育	
<b>【評価方法】</b> 演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う		

【授業科目名】 表現Ⅰ（文化行動）	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する事のできる保育者を育てる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>【子どもが音楽を好きになるとき】 加宮 葵 著 音楽之友社</p>	
授 業 計 画	
授業のねらい	授 業 内 容
<p>幼児の心と音楽の関係を良く認識する。</p>	<p>1) 教育理論編</p> <p>① 幼児教育における音楽について</p> <p>② 幼児の心の発達と音楽的感覚の開発について</p>
<p>表現としての音楽の認識</p> <p>発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する</p>	<p>③ 表現としての音楽</p> <p>・うたう事のはじまり・音を出す事のはじまり</p> <p>・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器</p>
<p>音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する</p>	<p>2) 指導と実践編</p> <p>① 幼児の音楽鑑賞</p> <p>〔音楽を聞く能力の発達段階の特徴〕</p> <p>② 幼児のうたの指導 ・年少児・年長児</p>
<p>学生が実際に、いろいろな楽器の特徴や奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来るようにする</p>	<p>③ 幼児の楽器の指導</p> <p>・簡易楽器の特徴と奏法</p> <p>・基本リズムパターンの習得</p> <p>・年少児・年長児の合奏指導</p> <p>④ 幼児の創作指導と実践</p>
<p>指導計画・指導案を知る</p>	<p>⑤ 指導計画・指導案</p> <p>・年間指導計画・月間指導計画・日案</p> <p>週案（具体的なうたや楽器の指導計画）</p> <p>⑥ 教材曲の実践例等</p> <p style="text-align: right;">★全出席を原則とする。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験の成績・特に出席点を重視する。</p>	

【授業科目名】 随時 表現	【担当者】 八木 紘一郎・花原 幹夫・海老原 京子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助の内容と方法を理解します。そのための具体的な〈表現文化行動理解〉〈教材理解〉〈援助指導方法〉の三つの基本を主に習得することを目標とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『新しい表現遊び ―総合的表現活動の指導法―』…八木・枝常・花原・海老原（フレーベル館）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現文化行動は、身体を媒体にする音楽やダンスなどの表現文化行動と、モノを媒介にする造形的な表現文化行動の両方をミックスさせながら総合的に展開されます。このことを視野に入れた上で、授業では後者の造形的な表現文化行動を中心に、その援助指導方法の基本を学びます。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していきます。</p> <p>第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの表現文化行動とは</li> <li>2. 子どもの表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解</li> <li>3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解</li> <li>4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解</li> <li>5. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解</li> <li>6. 総合表現の援助指導方法の理解</li> <li>7. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常授業での課題を評価します</li> <li>・授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価します</li> </ul>	

【授業科目】 保育内容 表現（文化行動）	【担当者】 若松 美恵子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは見たこと、感じたことをいろいろな時や場において、言葉や身体で表現する。その幼児の身体表現に関する基本的知識を習得し、子どもの自発的な表現を育み、感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための援助・指導の基本的な方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 表現の中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけ 保育内容「表現」および文化行動とは</li> <li>2 身体で表現することの意味、および幼児の身体表現の特性       <ol style="list-style-type: none"> <li>①表現の意味</li> <li>②身体表現の意味</li> <li>③幼児の身体表現の特性</li> </ol> </li> <li>3 幼児の運動・言語・情緒・社会性の発達、および日常に見られる身体表現の発達       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現</li> <li>② 0～5歳児の身体表現の発達と特徴</li> </ol> </li> <li>4 幼児の身体表現力の変化とその特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 3歳児の身体表現</li> <li>② 4歳児の身体表現</li> <li>③ 5歳児の身体表現</li> </ol> </li> <li>5 子どもの身体表現を豊かに引きだし育むための保育者の援助・指導       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 援助の基本的姿勢 ② 表現の題材 ③ 動機づけ ④ 豊かにとらえる</li> <li>⑤ 豊かに表す ⑥ 援助と言葉がけ</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席および筆記試験</p>	

【授業科目】 幼児の運動遊び	【担当者】 榎本 至
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、子供と楽しく遊ぶための実践能力の養成を大きな目標とします。場や人数、そして子供の運動能力に応じた楽しい運動課題を提供できる現場人を目指してください。そのためには、次のような3つのステップが必要です。①様々な運動課題を、(自分ができる、出来ないはともかくとして)積極的に楽しく実践できること、②楽しい雰囲気、他人に伝えられること、③それらの課題の前後にどのような課題が提供できるのか発想する癖をつけること、です。身近な遊具や自分達の身体を使った様々な遊びやゲームを体験してもらいます。</p>	
【テキスト】 特に指定しません。	
----- 【参考書】 特に指定しません。	
授 業 計 画	
<p>① ソロワーク・ペアワーク・グループワーク： 特別な遊具は用いずに、自分や友達の身体だけを使って様々な運動遊びを行います。</p> <p>② ボールワーク： ボールを使った様々な運動遊びを行います。既存のルールにとらわれない様々なゲームも行います。</p> <p>③ スキッピングロープ： 誰もが体験したことのある「縄跳び」ですが、様々な跳び方で行います。</p> <p>④ その他： 跳び箱やマット、フープなど、遊具として一般に使われることの多いものを取り上げます。</p> <p>※一つのテーマについて、2回から3回の授業回数を設定しています。最初は簡単な内容から、徐々に運動課題を複雑にしたり、運動強度を高くしたり、様々な発展させていきます。受講する学生は、各自の体力や運動能力に応じて授業に参加して頂いて結構ですが、全ての内容を自分の身体で確かめてみたいという学生は、休業期間中にも少し身体を動かしておくといよいでしょう。</p> <p>※受講者数や、受講者の運動能力に応じて、具体的な内容を調整しながら実施しますので、課題の内容や実施順序の変更もあり得ます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実際に身体を動かすことで、運動のイメージと身体の動きを結びつける経験を重視したいので、出席を重要視します。やむを得ず見学する場合は、その都度授業内容に関するレポートを作成することで出席扱いといたします。また、授業の総まとめとしてレポートを作成し、出席点とレポート点をもって総合的に評価を行います。</p>	



<b>【授業科目】</b> 子どもの活動と自然	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b> 2年 後期	
<b>【授業目標】</b> 自然教育と環境教育を基本に、幼児教育の場としての自然を考える。身近な自然の中での直接体験により、野外活動の基本的理解と基礎的技術を学び、自然の諸事象を認識し理解する。子ども達の自然観察の場、屋外活動の場としてどう利用するか。子どもの遊び環境をどう保全するかをも合わせて学ぶ。	
<b>【テキスト】</b> 『小さな自然観察』平凡社	
<b>【参考書】</b> ビオトープに関する本、草花遊び・野遊びなど子どもの野外活動に関する本 野草・昆虫・水生小動物などの図鑑ほか	
授 業 計 画	
I (講義) II (講義) III (野外実習) IV・V (演習) VI (講義) VII (講義と演習) VIII・IX (講義) X～XV (演習)	この科目の主目的とねらい 自然の見方、とらえ方 自然に触れることの意義 環境教育の視点 人間と自然との関係 野外の自然観察の方法 身近な自然体験 人の生活と共存する自然 動植物の採集と観察 動植物の基礎知識 野外活動の方法 野外活動の技術 地図を読む 危険に対処する知識と能力 自然の中での遊び 子どもの基礎的自然体験 動植物とのつきあい方 動植物を利用した遊び、創作活動 環境の保全と創造 日常生活の中での自然の理解 子どもの遊び環境としての自然の保全 子どもの遊び環境としての自然を創るービオトープー 『草花遊び図鑑』の作成 子どものための野遊び空間の設計
<b>【評価方法】</b> 野外実習＋演習の総合レポート＋平常点	

【授業科目】 お話しの世界	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>絵本や紙芝居、児童文学などにみる日本や世界のお話しについて理解させ、その世界の広がりやさまざまな表現方法とともに学ばせる。読み聞かせ、語り聞かせの技法の習得、保育場面での導入とその評価、子どもたちの口頭詩となることばの世界の拾い出し、鑑賞を通して言語の生活化に位置づくお話しの世界を学ばせる。さらにお話しの創作で表現方法の習得も学ばせる。</p>	
<p>【テキスト】 菅井健、話しことばの練習帖、晩成書房  佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房、佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房</p>	
<p>【参考書】 佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房  佐々加代子作成の絵本のリスト、過去の学生の創作のお話し作品集</p>	
授 業 計 画	
<p>演習を中心に据えながら個人とグループでの活動とする。グループ間で相互に学びあう場面として授業時間を利用する。</p> <p>個人として取り組むものは5つある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) よく響く、よくとおる声の養成;音声表現の技術、技法の習得</li> <li>2) 教材となるお話しの世界の良否を吟味する確かな選択眼の養成  お話しとして収録されて市販されている絵本、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇、童話、児童文学作品などから、広義にとらえる「保育において生きる作品」かどうかの選定</li> <li>3) 2) の表現法としてのさまざまな展開を考えて模擬実践</li> <li>4) お話しの創作（表現方法を含める）</li> <li>5) 保育場面での導入法の検討。子どもたちへの語りかけから評価までに求められる保育者の技法についての習得</li> </ol> <p>グループとして取り組むものは4つある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 選定した絵本などの作品集の編集とそのまとめ</li> <li>2) 創作活動から得た表現方法と作品についてのまとめ</li> <li>3) 作品発表会で発表するグループの創作作品の検討とその発表及びまとめ  相互に学びあうものとしては3つある</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 持参されてきた作品の検討とその鑑賞</li> <li>2) 作品とその音声表現の技法についての評価</li> <li>3) 作品発表会での評価</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>1. 出席状況 2. 平常点 3. 提出課題の評価 4. 作品発表会での発表とその評価、による</p>	

【授業科目】保育内容（子どもの音楽の世界）	【担当者】秋山治子
【開講期】2年 後期	
<p>【授業目標】 乳幼児の音楽発達の段階的特徴を理解し、子どもの音楽発達に応じた興味を育て・展開させることのできる音楽基礎技術の習得と援助・指導方法を講義と実践をとおして理解し習得することを目的とする。尚、子どもの歌曲は毎回歌う予定である。</p> <p>乳児期、子どもは声を発声し⇒自分自身でコントロールできないが故に様々な高さの声を発し⇒次第に自分の声をコントロールできるようになると節（フシ）を歌いだし歌う楽しさの体験を積んでいく。他方生活周辺の音を聞き分け⇒色々な物から出る音の存在を認識し⇒楽器という美しく整備された「音の道具」から出る音を知り⇒その音を出すことを経験し⇒友達と声や音を響き合わせる共同作業を楽しむ⇒音楽の形を創り上げた時の満足感、達成感を子どもなりに味わい、自信をつけていく。この様な多くの音楽的体験が子どもの精神的成長発達を助け、情緒の安定を築いていく。</p> <p>授業では保育者として更なる音楽の応用力を身につけ、幼児の音楽経験の順次性を重視しながら、子どもに無理の無い、より良い実践方法を学んでゆく。</p>	
<p>【テキストと楽譜】（全員が用意する） ①「子どもの歌」秋山治子著 共同楽譜出版社</p> <p>【参考書】 「表現」①②高野雅子著 保育出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>① オリエンテーション（テキスト、楽譜、シラバス持参のこと） 幼児曲等をうたう</p> <p>② 乳児期の音楽上の発達について</p> <p>③ 日本語と日本音階の上に成立している“日本のわらべ歌”と西洋音階の上に成立している幼児曲の本質的な違いを学ぶ。 また、日本音階の基礎理論と西洋音階の基礎理論を知り、日本の子どもの乳児期とわらべ歌の自然なつながりについての理解を深める</p> <p>④ 幼児期の音楽発達について</p> <p>⑤ 3歳児クラスに於ける音楽の様々な活動（あそびも含む）について考える</p> <p>⑥ 々</p> <p>⑦ 4歳児クラスに於ける音楽の様々な活動について考える</p> <p>⑧ 々</p> <p>⑨ 5歳児クラスに於ける音楽の様々な活動について考える</p> <p>⑩ 々</p> <p>⑪ 幼児にとっての楽器で色々な楽しい活動をすることと、合奏練習することの本質的相違について考える</p> <p>⑫ 歴代の代表的な音楽教育家の思想とメソッドについて理解を深め、保育の中で「子どもが音楽に親しみ、楽しむために」と「子どもの音楽能力を向上させるために」という考え方の本質や方向性について考えを深める</p> <p>⑬ 々</p> <p>⑭ 乳幼児の音楽活動と保育者の影響について、総合的にとらえて、まとめてみる</p> <p>⑮ 々</p>	
<p>【評価】</p> <p>①出席状況      ②レポート</p>	

【授業科目名】 子どもの造形と遊び	【担当者】 花原 幹夫・森田浩章
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもは、様々な目的をもって「描く」「つくる」という造形表現方法を組み合わせながら「デザイン」をしていきます。そのプロセスを実践的に理解していきます。</li> <li>2. 子どもの造形と遊びにおける物的環境や教材を実践的に理解していきます。</li> <li>3. 子どもの造形と遊びにおける具体的な援助方法（計画・方法・記録・評価）を実践的に習得していきます。</li> </ol> <p>以上の内容を演習を中心にして、‘楽しく’授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。</p> <p>*第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが〈もの〉や造形を通して主体的に遊びを創りだしていくプロセスについて       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児の〈もの〉（布など）を扱う遊びや、おもちゃ（手づくりと既製）と遊びとの関係と発達過程</li> <li>(2) 幼児の造形と遊びの関係とその発達過程</li> </ol> </li> <li>2. 造形と遊びにおける物的環境や教材について       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 配慮すべき物的環境や教材</li> <li>(2) 手づくりおもちゃと既製のおもちゃ</li> <li>(3) 紙、箱、容器、粘土などの身近な素材材料を利用した造形アイデアとその活用方法</li> </ol> </li> <li>3. 造形と遊びにおける具体的な援助方法（計画・方法・記録・評価）について       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの主体的な造形と遊びの具体的な展開と援助方法</li> <li>(2) 多彩なおもしろさを育む造形と遊びの具体的な展開（企画運営）方法と援助方法</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常授業での課題を評価します</li> <li>・授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価します</li> </ul>	

【授業科目】 遊びと身体表現	【担当者】 若松 美恵子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子ども達が遊びのなかで見せる様々な身体表現を適切に援助・指導できるようになるための知識、技能の習得を目標として実践的に学ばせる。また、子どもの身体表現を援助・指導するのに必要な豊かな想像力、創造力、表現力を養う</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊池秀範 編 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 身体表現の意味と子どもの育ち</p> <p>2 遊びにおけるリズムカルな動き</p> <p>(1) 自分の知っている歌や曲にあわせて歌を口ずさんだりしながらリズムカルに動き、体で表現することを楽しむ</p> <p>(2) リズムカルな曲や伴奏によって、いろいろな方法で自由に歩いたり、走ったり、跳んだりまた、体をいろいろな方法で動かし、リズムカルに動くことを楽しむ</p> <p>(3) わらべ歌や歌を伴った遊戯のように、歌を歌いながらリズムカルな動作を繰り返すことを楽しむ</p> <p>(4) フォークダンスのように、リズムカルな曲にあわせて決まった動きやステップを繰り返し、みんなと一緒に伝承的な踊りを楽しむ</p> <p>3 遊びにおける想像と身体表現</p> <p>(1) イメージとふりの動作・ふり遊び</p> <p>(2) ごっこ遊びと身体表現</p> <p>(3) 劇遊び・表現遊びと身体表現</p> <p>4 身体表現の援助・指導</p> <p>(1) 身体表現の援助・指導の基本的姿勢</p> <p>(2) 遊びに見られる身体表現の援助・指導</p> <p>(3) 劇表現の援助・指導</p> <p>(4) 身体表現活動の援助・指導</p> <p>5 身体表現と劇・ダンス</p> <p>(1) 豊かなイメージの広がり</p> <p>(2) 豊かな創作活動の展開</p> <p>(3) 豊かな表現力の向上</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と学習意欲、態度</p>	

【授業科目】	乳児のあそび	【担当者】	石井 知子
【開講期】	2年 後期		
【授業目標】	<p>乳児のあそびに関する保育の内容を理解して展開できるように知識や技能を習得して、より実践的な力量の形成を目指す。</p> <p>乳児の発達とあそび、大人の役割と援助のあり方、環境の構成や玩具を具体的事例を通して学び理解を深める。</p>		
【テキスト】	授業のなかで指示する		
【参考書】	授業のなかで紹介する		
授 業 計 画			
<p>上記の目的のため、演習形式を交えて以下のような内容で授業を行う予定である。</p> <p>1.乳児保育における遊びの考え方  乳児の発達と遊び  乳児の遊びの内容と種類  乳児の遊びと大人の役割  環境の構成・玩具・配慮点</p> <p>2.乳児の発達と遊びの実際  0歳児の遊び  1歳児の遊び  2歳児の遊び</p> <p>3.乳児の遊びの教材の作成と検討</p> <p>4.乳児の遊びの指導計画の作成と検討</p>			
【評価方法】	出席状況 , 演習の総合レポート + 平常点		

【授業科目】 保育計画法	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 2 年 前 期	
<b>【授業目標】</b> 1. 保育カリキュラムの全体構造を理解させる。 2. 指導計画の作成手順を具体的に理解させる。 3. 子どもの実態を把握する方法について、様々な記録方法を用いて習得させる。 4. 目標・ねらいの種類と内容について、事例をもとに理解させる。 5. 指導計画の立案方法を、事例をもとに習得させる。 6. 保育実践の評価方法を、事例をもとに習得させる。	
<b>【テキスト】</b> 金村美千子編 『教育課程・保育計画総論』 同文書院	
<b>【参考書】</b> 文部省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館	
授 業 計 画	
1. 保育カリキュラムの全体構造 (1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領と園の保育計画の関係 (2) 教育課程・保育計画と指導計画の関係 (3) 指導計画の種類とその内容・意義  2. 指導計画の作成手順 (1) 指導計画の作成過程 (2) 計画・実践と評価の関係  3. 子どもの実態把握と保育記録 (1) 子ども理解の本質 (2) 保育の記録法と実際  4. 目標・ねらいの種類と内容 (1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいと内容 (2) ねらいの種類と実際  5. 指導計画の立案方法 (1) 中・長期指導計画（年間指導計画、期案、月案）の実際と立案 (2) 短期的指導計画（週案、日案）の実際と立案 (3) 年齢別指導計画の実際と立案 (4) 活動別指導計画の実際と立案  6. 保育実践の評価方法 (1) 評価の方法と実際 (2) 保育カンファレンス	
<b>【評価方法】</b> 出席状況、レポート、作成した指導案などをもとに、後期と総合して評価する。	

【授業科目】 幼児教育の方法	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 2 年 後 期	
<b>【授業目標】</b> 1. 幼児教育の基本を理解させる。 2. 我が国の保育実践の現状と課題を理解させる。 3. 保育の形態と指導方法の関係について理解させる。 4. クラス運営の方法について理解させる。 5. 保育環境の構成について理解させる。 6. 保育内容の指導法について理解させる。 7. 視聴覚教材の活用法について理解させる。	
<b>【テキスト】</b> 上野恭裕編『新保育方法論』保育出版社、2000年	
<b>【参考書】</b> 八木 紘一郎編『ごっこ遊びの探究—生活保育の創造をめざして』新読書社、1992年 無藤 隆監修『知的発達を支える保育』フレーベル館、1999年	
授 業 計 画	
1. 幼児教育の基本 (1) 幼児期の発達特性と幼稚園教育要領・保育所保育指針 (2) 幼児期の発達と園生活の内容とその構造 2. 保育実践の現状と課題 (1) 一斉保育と自由保育 (2) 外国の保育方法の受容 (3) 保育ニーズと園経営 3. 保育形態と指導法 (1) 自由形態と設定保育 (2) 個別指導とグループ指導 (3) 異年齢保育 4. クラス運営の方法 (1) クラス概念と集団保育の展開 (2) 保育者の役割と指導の構造 (3) 保護者への対応 5. 保育環境の構成 (1) 環境を通じた教育と保育環境の概要 (2) 保育の環境構成の実際 6. 保育内容の指導法 (1) 遊びを中心にした総合的な指導 (2) 基本的な生活習慣の自立 (3) 課題活動の指導 7. 視聴覚教材の活用 (1) ビデオソフト・テレビ番組の活用法 (2) パソコンの活用法	
<b>【評価方法】</b>  出席状況とテスト	



【授業科目】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育のあゆみ、乳児保育の理論、地域・家庭の生活や子育ての実態と保育所の果たす役割を学習し、広い視野から乳児保育を捉える。</li> <li>2. 乳児の指導計画の立案や乳児保育における具体的事例の検討を通じて乳児保育における実践のあり方を考え深めていく。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、演習形式を交えて、以下のようなことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育てていけるようにしていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の現状とあゆみ       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)今日の親の労働実態や子育ての実態と乳児保育</li> <li>(2)乳児保育の現状と課題</li> <li>(3)わが国における乳児保育の歩み</li> <li>(4)乳児保育をめぐる考え方</li> </ol> </li> <li>2. 乳児の指導計画と保育実践       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)乳児の指導計画の実際</li> <li>(2)指導計画の立案・検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>— あそびの計画を中心に —</li> </ul> </li> <li>(3)乳児保育における具体的事例の検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>— 子ども理解、保育者と子どもとの関係を中心に —</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3. 乳児保育における保育者のあり方と専門性</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業への参加状況・テスト</p>	

【授業科目】	養護内容	【担当者】	中山正雄
【開講期】	2年 後期		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設で生活する子どもの事例を通して、子どもの生活への具体的な援助を理解させる。</li> <li>2. 子どもの事例を通して、社会的養護の理念を理解させる。</li> <li>3. 具体的なテーマや子どもの抱える課題について、演習をとおして実践的能力を身につけさせる。</li> <li>4. 児童生活支援、家族生活支援の計画から援助までの実際を理解させる。</li> <li>5. 援助者としての施設職員のあり方について理解させる。</li> </ol>		
【テキスト】	使用しない		
【参考書】	『子どもが語る施設の暮らし』明石書店		
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設で生活する子どもたち <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 親の状況から家庭で生活できない子どもたち</li> <li>(2) 環境から逸脱行動を起こした子どもたち</li> <li>(3) 心身に障害を持つ子どもたち</li> <li>(4) 虐待を受けた子どもたち</li> </ol> </li> <li>2. 児童養護の理念 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの最善の利益</li> <li>(2) 生存と発達の保障</li> <li>(3) 子どもの権利と権利擁護</li> </ol> </li> <li>3. 施設における援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活習慣と日常生活</li> <li>(2) 生活の中の治療としての人間関係と生活目標</li> <li>(3) 子ども集団を生かした積極的養護</li> <li>(5) 親子関係調整</li> <li>(6) 学校や地域との関係</li> <li>(7) リーピングケア・アフターケア、自立への援助</li> </ol> </li> <li>4. 児童養護計画、自立支援計画の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別児童援助計画の実際</li> <li>(2) グループ援助計画の実際</li> <li>(3) 行事計画の実際</li> <li>(4) 家族支援計画の実際</li> <li>(5) 自立支援計画の実際</li> </ol> </li> <li>6. 施設職員論 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設職員に求められるもの</li> <li>(2) 施設職員の資質</li> <li>(3) 施設職員としての倫理</li> </ol> </li> </ol>			
【評価方法】	出席状況と討議への積極的参加及びレポート		

【授業科目】障害児保育	【担当者】堀江まゆみ
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害のあるこどもの保育アプローチにおける基本的な知識と技術を理解する。</p> <p>さまざまな障害児保育の実践を知り、保育現場の悩み、親の手記など具体的な具体的な事例を通して障害児保育の見方や考え方を深める。</p> <p>また、自らの感性やイマジネーションを磨くことの大切さにも気づく。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】「保育所における障害児への対応」障害児保育研究会編（全社協）</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育の意義と理念</li> <li>2. 障害のある子どもの基本的理解とその援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>①「人間」的理解    ②「障害」に関する理解    ③「発達」的理解</li> </ol> </li> <li>3. 親の心理とその援助</li> <li>4. 障害児保育の実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>①知的障害    ②肢体不自由    ③広汎性発達障害</li> <li>④保育園・幼稚園における「気になる子」を中心に</li> </ol> </li> <li>5. 保育集団における仲間関係（障害のない子どもたちとの関係）</li> <li>6. 保育所と地域生活支援機関との連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>①連携の意義と進め方    ②通園施設における「出前療育」</li> </ol> </li> <li>7. 保健・福祉行政と障害児保育</li> <li>8. まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（持ち込み不可）、平常点</p>	

【授業科目】 保育臨床相談	【担当者】 佐々 加代子、森 玄枝
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園、保育園などの保育の現場で日々の保育に携わっている保育者たちが直面している子どもたちのさまざまな問題についての問題の見かた、考えかた、子どもたちとのかかわりかたについて、具体的な問題から検討すること、及び保護者からの相談についても同様に検討し、保育者自身がその問題を解きほぐすことができるようにすることを目標とする。また、保育者と専門職との境界についても検討しながら、子育て支援における保育者の役割を明確にすることで、保育における臨床相談のあり方を学ばせる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、発達臨床相談、犀書房、</p>	
<p>【参考書】 佐々加代子、犀書房の、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、子どもからの贈りもの、言語臨床相談、そのほか随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>佐々と森の同時開講。</p> <p>1 回めは全員を対象として全体の概要を説明する。</p> <p>佐々は理論から実践までの全体を統括する。森は実践から得られた問題とその解決法の導かせ方などを事例をもとに概説し、方法論を模索させながら、展開していくというすすめかたをする。講義の内容を両者が半分ずつ分担する。以下の内容について検討していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における保育の臨床相談の内容；子育て支援の現場から</li> <li>2. 保育園における保育者たちからの相談内容からの検討；3歳未満児の場合</li> <li>3. 保育園における保育者たちからの相談内容からの検討；就学前の子どもたちまでの場合</li> <li>4. 保護者からの相談内容からの検討</li> <li>5. 幼稚園における保育者たちからの相談内容からの検討</li> <li>6. 子育て支援の現場で見出す内容；臨床的に考えるということ</li> <li>7. 相談をうける保育者としての役割についてと保育者同士の連携</li> <li>8. 専門職との境界領域；専門職との連携</li> </ol>	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況</li> <li>2. 平常点</li> <li>3. 課題提出の評価</li> <li>4. レポート、による</li> </ol>	

【授業科目名】音楽II(ピアノII)	【担当者】秋山治子・他(下記参照)
【開講期】 2年前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者として子どもの発達に応じた音楽的興味を育て、且つ展開させることのできる音楽の応用技術の習得を図り、子どもに対する援助・指導方法を理解することを目的とする。</p> <p>① 主として鍵盤楽器による伴奏法の習得  ② 保育者に要求される鍵盤楽器の音楽的表現や幼児曲の実践力の育成</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>1、秋山治子 監修「コードネーム・和声・伴奏付け」：共同音楽出版社  2、秋山治子 著「子どものうた楽譜集」：小学館  3、秋山、舛本、高林共著：「キラッとマーチ」：共同楽譜出版社</p> <p>【参考書】 1、ソナチネ、ソナタ、ブルグミュラー、他</p>	
【授業計画】	
<p>1、譜表・音符・拍子記号・各種記号並びに標語・音階・調性・和音の深い理解</p> <p>2、読譜力と音楽能力の更なる向上</p> <p>3、大譜表の読譜力及び鍵盤楽器の応用技能の習得</p> <p>4、幼児曲を中心とした伴奏法の習得及び実践力の育成と音楽能力の向上</p> <p>5、マーチ、スキップ、ワルツ等身体表現に付帯する音楽演奏技能の習得</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験の成績(Ⅲグレードの合否)</p>	
<p>【担当者】</p> <p>泉晶子・稲村敬子・大澤美紀・長永理恵・掛場久子・機田美帆・小西千鶴・諏訪玲子・関根美和子・藤間洋子・中瀬千央・西山裕子・舛本清美・松本宏子・富士素子・前田まゆみ・港理々子・秋山治子</p> <p style="text-align: right;">(文責：秋山)</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（声楽）	【担当者】加宮葵・惣田修・豊野雄次郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。</p>	
<p>テキスト           ソルフェージュ 16                           コンコーネ50番(中声用)</p>	
授 業 計 画	
<p>①45分の授業の中で、ソルフェージュを隔週に1回くらいソロする事によって人前での演奏(無伴奏)に慣れる。</p> <p>②コンコーネを階名で練習をし、声区の転換と声と息のミックスを感じる為に、各母音でこまかく練習をする。又、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌える様にする。</p> <p>③コンコーネをこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。</p> <p>④複雑な音程やリズムのパターンをファイルする能力を養い、読譜力、音楽表現力(正しいリズムや、音程をもって表現する能力)をも養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、出席点、期末試験の成績</p>	

【授業科目】 体 育	【担当者】若松美恵子 有川いずみ
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者として必要な、身体運動に関する基本的な知識と技能を習得させ、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強をはかる。また、子どもの発達をふまえ、保育における、運動遊びの援助・指導に関する、基礎的な知識や技能の習得を目指し、実践的に学ばせる</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 身体運動に関する基本的な知識と技能</p> <p>(1) 運動の種類と体の動かし方</p> <p>(2) 身体の部位と体の動かし方</p> <p>(3) 基礎的ステップの種類と動き方</p> <p>(4) 体力の種類と高め方</p> <p>(5) 自ら動ける身体作り</p> <p>①運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする</p> <p>②自分で多様な動きを豊富に見つけ動けるようにする</p> <p>③動きの連続がなめらかで変化に富んだある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする</p> <p>④表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする</p> <p>2 保育と子どもの身体運動に関する基礎的知識</p> <p>(1) 体育の意味と保育</p> <p>(2) 子どもの体力の意味と発達</p> <p>(3) 子どもの運動能力の意味と発達</p> <p>3 保育実践における必要な知識や技能</p> <p>(1) 幼児期の心身の発達と運動遊び</p> <p>(2) 保育中での運動遊びの基本と保育者の援助・指導のあり方</p> <p>(3) いろいろな運動遊びの基本と保育者の援助</p> <p>(4) 運動遊びの計画と指導の実践</p> <p>4 運動遊びにおける安全管理に関する知識</p> <p>(1) 幼児の健康・安全指導</p> <p>(2) 運動内容と安全管理</p> <p>(3) 運動遊具と安全管理</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する 授業に出席し体を動かすことを重視する</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 本学専任教員
【開講期】 2年 前期・後期	
【授業テーマ】 各グループ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、こころの崩壊、家庭のあり方、自然破壊など我が国の社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これから生きる子どもたちにとって、また子どもたちにかかわる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題について理解を深めるとともに、その解決に必要な能力を身につける。</li> <li>2. 教育・保育・福祉の課題にかかわる指導内容を適切に指導するために必要な実践的能力を高める。</li> </ol>	
<p>【授業形態】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</li> <li>2. 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</li> <li>3. 文献講読やVTR検討、調査、見学、観察、指導案や教材の作成、模擬指導の実施など、具体的な保育実践に即して演習する。</li> <li>4. 各グループからの発表の場を設け、学習成果の共通化を図る。</li> </ol>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミナールⅠの学習成果をもとに、文献やVTRソフトの検討などにより、学習課題を明確にするとともに、教育・保育・福祉が直面している課題について理解を深める。</li> <li>2. 教育・保育・福祉の課題に関わる事項について、調査や見学、観察などを実施して具体的に理解する。</li> <li>3. 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉の課題について解決策を考える。</li> <li>4. これらの学習成果をもとに、人間尊重に関わる保育内容を適切に指導できるようにするために、指導案や教材の作成、模擬指導などをおこなう。</li> <li>5. さまざまな観点から取り組んできた「人間尊重の理解と実践」についての学習成果を各グループごとに発表し（ゼミナール発表会等）、演習の成果を共有する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、学習態度、レポートなど</p>	



【授業科目】ゼミナールⅡ	【担当者】秋山治子
【開講期】2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>① 音楽を知る、わかる、近づく、工夫する、楽しむ。</p> <p>② 色々な保育場面で対応できるような音楽表現力と指導力を各自が得る。</p> <p>③ 上記①②で培った力を生かして一人またはグループで小論文を書く。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>【参考書】</p> <p>ゼミの中で適宜、指定紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>① 乳幼児向けの手遊びを実践する</p> <p>② 大学の中にある色々な幼児向けの打楽器・シンセサイザー・旋律楽器に親しむ</p> <p>特にミュージック・ベルを中心にして、楽器を幼児の年齢発達に合わせて導入する方法についてゼミ全員で取り組む。</p> <p>そして、ミュージック・ベルを幼児の合奏の中に無理なく取り入れるにはどうしたらよいかについて、を共同の研究課題とする</p> <p>③ 白梅祭でミュージック・ベルの演奏をする</p> <p>③ (子どもの) 音楽についての疑問点や問題点を出し合う</p> <p>④ オーケストラ曲の中に出てくる楽器や旋律やリズム形などを聴き、採譜する。それらを基礎に置いて幼児向けの器楽編曲について勉強する。</p> <p>⑤ ミュージック・ベルとハンドベルの違いを知るために、4月に青山学院大学で行われるハンドベルの関東大会を聴きに行く</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1、ゼミ活動への参加状況(出席)</p> <p>2、レポート(2年次1回目の授業に提出する)</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。(実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること)	
<p style="text-align: center;">: 加古三枝子 「歌のうたい方」(参考書)</p> <p style="text-align: center;">: 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数</p> <p style="text-align: right;">* 研究室にすべて用意してあります。</p>	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます。専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="text-align: center;">クリスマスコンサートや新春コンサート等</p> <p>演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し(時間が、ある場合のみ)幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定(ゼミナールⅠで決定されている場合を除き)はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】 平常点	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 小松 歩
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児期の子どもの育ちを、具体的な実践場面の観察をとおして理解する。</li> <li>2 子どもの遊びを分析的にとらえる力を養う。</li> <li>3 調べること、考えること、わかることの楽しさを知る。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業のなかで適宜、紹介する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業のなかで適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">「遊び」をとおして子どもの育ちと援助について考えよう</p> <p>ゼミナールⅠで進めた「子どもにとっての遊びの意味」の学習を、具体的な遊び場面にテーマを絞ってさらに深めます。</p> <p>まず各自が興味をもつ分野についてレポートをし、基本的知識を整理しながら、その分野に関して、今の子どもの「育ち」の実状や、影響する諸問題などを明らかにします（新聞記事や文献の講読など）。</p> <p>また、幼稚園や保育所などで具体的な生活や遊びの様子を実際に観察し、実際の子どもたちの「育ち」について理解を深めます。</p> <p>そして、文献などで学んだことと比較しながら、現代の子どもが主人公として健やかに「育つ」ために必要なことは何か、私たちにできること（援助）は何かなど、一緒に考えてみましょう。</p> <p>研究テーマとしては次のようなものが考えられる。</p> <p>「遊びの“おもしろさ”の分析」：子どもは「遊び」をするなかでどんなことにおもしろさを感じているのか。そもそも「おもしろさ」とは何なのか、実際に遊んでみたり、観察をしたり、文献をまとめるなどして考えてみたい。</p> <p>「ごっこ遊びの分析」：幼児期の中心的な遊びである「ごっこ遊び」は、子どもの生活経験が反映している。実際に行われている「ごっこ遊び」のテーマや内容から、今の子どもの経験内容と、何が育っているのかを考える。</p> <p>どんなテーマにするかは、ゼミメンバーと相談して決定したい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ		【担当者】近藤正樹	
【開講期】2年 前期・後期			
<b>【授業目標】</b> 身近な自然事象について、認識を深めるための体験を大切にしながら、まだ知らなかったことや、疑問を解くために、個人単位で研究をすすめる。この学習を通して、研究の企画・実施・論文の書き方・発表（口頭発表およびポスター発表など）のしかたについて体験することになる。知らないことを知るためには“勉強”や“した調べ”という活動と“研究”という手段がある。後者についての体験を身につけてほしい。			
<b>【テキスト】</b> 飯田良治・民秋言編「課題研究・ゼミナールの手引」萌文書林刊 田中未来編著「保育研究の視点と方法」川島書店刊			
<b>【参考書】</b> 随時に紹介する			
<b>授 業 計 画</b>			
4月8日	研究テーマの検討	10月14日	研究のまとめ②
4月15日	(研究テーマと研究計画書の提出) 文献紹介①	10月21日	研究のまとめ③
4月22日	文献紹介②	10月28日	研究論文の提出
5月6日	文献紹介③	11月11日	研究論文の指導
6月3日	研究状況報告①	11月18日	文献紹介⑦
6月10日	研究状況報告②	11月25日	文献紹介⑧
6月17日	研究状況報告③	12月2日	文献紹介⑨
6月24日	研究状況報告④	12月9日	文献紹介⑩
7月1日	文献紹介④	12月16日	研究論文評
7月8日	文献紹介⑤	1月13日	口頭発表のしかた（研究要旨の提出）
7月15日	文献紹介⑥	1月20日	ゼミ内の口頭発表会①
9月30日	論文の書き方	1月27日	ゼミ内の口頭発表会②
10月7日	研究のまとめ①		
<b>【評価方法】</b> 学習態度・研究計画と方法・論文・口頭（ポスター）発表などの成果を総合して行う			

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとって、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか。その内容は……。さまざまな人間関係の場面を、コミュニケーション場面としておさえ、その時々、発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。</p> <p>そのために以下の活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の観察（新生児からを含む）</li> <li>2. 障害児の観察</li> <li>3. 幼稚園児の幼稚園における遊びの観察</li> <li>4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとって、発達についての目を養成</li> <li>5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討</li> <li>6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など）</li> <li>7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成</li> <li>8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫</li> </ol> <p>いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点で行う</p>	

【授業科目名】      ゼミナール II	【担当者】      佐野 英司
【開講期】              2年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">ゼミ基本テーマ    :    「ノーマライゼーションの追求」</p> <p>1年生ゼミで学び考えた成果をもとに、2年次ゼミでどこに焦点をあててゼミ研究を進めるか、ゼミ学生と話し合い、決めていくことを当ゼミでは基本としている。</p> <p>【2003年度の場合】</p> <p>これまで7期にわたる佐野ゼミ学生の研究到達点、とりわけ一昨年度学生が手がけた「障害児・者ととともに暮らす地域を求めて・・・乳幼児健診とその後の対応をめぐる・・・」、昨年「子どもや親の願いにあった保育をつくるー統合保育の在り方をめぐって」を継承し、滋賀県大津市の実践から学び、自ら住む自治体での障害児・者福祉、統合保育の在り方をどう構築していくかを学び研究していきたい。具体的には、学生と相談しながら決めていきたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「障害児の発達と保育」      かもがわ出版 他 ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示す。</p>	
<p>【授業計画】</p> <p>1年次ゼミは担当教員がリードし、基礎的な学習を、実体験を含め幅広く展開してきた。それを基礎に、2年次では学生が主体で研究活動を進める。15名のゼミ学生の力を結集して自ら立てた研究課題を追求していけるよう、教員はアドバイザーとして学生の力を引き出し援助していく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、共同研究、共同行動への関わり度により評価する。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ゼミナールⅠの学習を基礎に、保育・幼児教育をめぐる諸問題を学習し、保育・幼児教育についての理解、課題意識を深める。</li> <li>一つのテーマに絞って、共同で学習する中で、自らの問いを調べ、深めていくことを体験し、専門的・実践的な力量を高めていくことを目指す。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適宜、紹介する</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>今日の保育・幼児教育をめぐる現状と保育実践の課題 保育・幼児教育の内容・方法や保育・幼児教育をめぐる様々な問題を取り上げた文献、論文の精読、レポート、討論を行う。</li> <li>ゼミ研究の共通テーマを決め、それに沿って学習を深める 各自の研究関心を一つのテーマに絞って、主体的に調べ、学習したことをまとめていく。 〔過去のゼミ・テーマ〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京の延長保育</li> <li>・親と保育者の関係</li> <li>・乳児の遊びとおもちゃ</li> <li>・共働きの子育てと保育所</li> <li>・地域子育て支援について</li> <li>・育児用品と子育て</li> <li>・母乳と育児用粉乳について</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ活動への出席、参加姿勢、研究テーマへの取り組み</p>	

【授業科目】ゼミナールII	【担当者】瀧口 優
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年のゼミを基礎に、平和・非暴力の文化についての研究をすすめる。</li> <li>2. 子どもを取り巻く暴力的な文化について、実践的に検討する。</li> <li>3. 望ましい子ども観とは何かを具体的な作品を読みながら考える。</li> <li>4. 新しいメディアについてその内容を検討する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">「脱暴力宣言」平和文化</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">「軍隊のない国コスタリカ」草の根出版会</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの周りのおもちゃを非暴力・想像力・創造力の観点から分析、分類する。</li> <li>2. 子どもが視聴するテレビの番組について非暴力の観点から分析する。</li> <li>3. 様々な絵本を非暴力の観点から分類し、どの年齢にふさわしいか検討する。</li> <li>4. コンピューターによるテレビゲームの問題点について検討する。</li> <li>5. 子どもをとりまく漫画文化について非暴力の観点から調査する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行う。</p>	



【授業科目】 セミナールⅡ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかの年中行事 私たちの生活には、さまざまな年中行事があります。それは、さかに行うものもありますが、あまりさかんでないものもあります。社会全体からみるとさかに行われているものもありますが、自分にとってはあまり意味のないものもあります。日本に伝統的なものもありますが、わりに近いときに外国から入ってきたものもあります。いずれにしても、私たちの生活の節目の役割をもっています。</p> <p>こうした年中行事は保育のなかにもみられ、そして保育の節目の役割を果たしています。本ゼミナールでは、この年中行事を4月から順次取りあげ、その意味を考え、保育カリキュラムを組み立てる勉強をします。</p>	
<p>【テキスト】 萌文書林『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林編 萌文書林『幼稚園・保育所での研究の進め方と実例』民秋言編著</p>	
授 業 計 画	
<p>(1)年中行事は私たちの生活のなかで、どのような位置を占めているかを考える。 1年間12か月あるいは春・夏・秋・冬の四季ごとにさまざまな年中行事がみられる。私たちの生活は、従来は、この年中行事によってリズムが保たれていた。今日の生活では、どのような位置を占め、役割を果たしているのか考える。</p> <p>(2)年中行事にはさまざまなものがあることを理解する。 年中行事に、ともすれば歴史的に古いものと思われがちである。しかし、その内容を検討するとさまざまなものがあることに気付く。宗教に関するもの、ヨーロッパからの伝来のもの、政治的ないみをもつもの、実生活に直ちにつながるものなど、いろいろなポイントから整理する。</p> <p>(3)今日の生活で、直に影響をうけている年中行事をまとめる。 上記(2)のなかで、いまの生活の中で直接影響をうけている年中行事をとりあげ、その意味をしっかりとめてみる。</p> <p>(4)保育の中に導入すべき年中行事のいみを検討する。 いまの保育には多くのそしてさまざまな年中行事が組み込まれている。それぞれにはどのようないみがあるのか、その検討をしっかりとしたうえで、保育の中に導入すべきものはどれか、を考えてみる。</p> <p>(5)保育カリキュラムの中に位置づく年中行事のあり方を考える。 保育の中の年中行事は、そのカリキュラムとの関連で、捉えてみる必要がある。カリキュラムの流れの中に無理なく組み込まれていることが大切だからである。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常授業の成績による</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ	【担当者】中島好伸
【開講期】2年前・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>児童文学から小説まで幅広く取り上げながら、読者をひきつける仕組みを引き出し、文学作品の特徴について考察する。自分の意見を説得力を持って発表する技能を身につけ、また、さまざまな意見を聞き議論することによって、一人一人の思考、発想法を高めていく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要なときに紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>基本的なテーマとして、『ハリー・ポッター』シリーズは世界中の子供たちをなぜ惹きつけるのかを設定し、言葉の使い方の分析や他の物語との比較を中心に考察し、発表する。できれば以下のような観点を導入し、最終的には、1) 英文学の中の『ハリー・ポッター』 2) 児童文学としての『ハリー・ポッター』 3) 子供をひきつける物語 という問題にゼミナールとして、答えが出せるようにしていきたい。</p> <p>観点：</p> <p>語りのリズム</p> <p>神話や妖精（ケルトやギリシャ・ローマの神話など）</p> <p>シェイクスピアを含む英文学の影響</p> <p>他の児童文学との類似性（『ナルニア国ものがたり』『指輪物語』など）</p> <p>物語の構造</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ内発表と平常点で評価する。</p>	

【授業科目】 ゼミナールII	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>虐待を受けた子どものケアの実際を数箇所の施設で調査し、子どもへのケアの体制と内容について学びます。専門的な職種の中で保育士の果たす役割を追及します。</p> <p>また、施設での合宿を通して虐待を受けた子どもへの対応の実際を学びます。</p>	
【テキスト】 1年次の「子ども虐待～その発見と初期対応～」を引き続き使用	
----- 【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
<p>1. 調査の目的、内容、調査対象、方法の検討</p> <p>2. 施設合宿に向けての獲得目標の検討</p> <p>3. 施設合宿に向けての紙芝居作り</p> <p>4. 調査の実施と集計・結果の検討</p> <p>夏休みのゼミ合宿に向けて、4～7月は1～3をグループごとに論議して進める。</p> <p>調査項目と調査の方法を6～7月に行い、8.9月に訪問調査を実施</p> <p>夏以後は、調査の実施と集計を行なう。結果についてグループごとに検討してまとめる。</p> <p>ゼミとしては、集団で協力し合い進めていくことを第一として仲間作りも大切にすすめる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と積極的な参加姿勢</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で学びます。共通の具体的なテーマと目的にそって、各自が主体的に問題意識をもち、協同しながら実践的に学んでいきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆特に「保育とデザイン」というアプローチで活動をすすめていき、「モノのデザイン」（造形におけるデザイン）と、「コトのデザイン」（計画デザイン）を考え、さらに、「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていきます。</p> <p>◆具体的なテーマ・目的・方法などについては、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していきます。</p> <p>◆活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていきます。</p> <p>★<u>ゼミメンバー相互で常に連絡連携をとり合いながら、互いの動きを把握しながら、全体の動きや流れを把握して活動することを特にだいじにしていきます！！</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価します。）</p>	

【授業科目】ゼミナールII	【担当者】堀江まゆみ
【開講期】前・後期	
【授業目標】	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
【評価方法】	

【授業科目名】 ゼミナールII	【担当者】村田 務
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育活動における健康問題について理解を深めるとともに、それらの健康問題を解決するための効果的な方法について、文献研究や質問紙調査等を通して習得させる。</li> <li>2 子どもの健康を守り育てるために必要な保健指導の方法について理解するとともに、健康保育の問題について研究するための方法を身につけさせる。</li> </ol>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 専門誌「小児保健研究」「学校保健研究」「健康教室」「保健の科学」等        辻 新六、有馬昌宏：アンケート調査の方法、朝倉書店、1987年。</p>	
授 業 計 画	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題の原因について明らかにしたり、解決するための方法について研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったことや疑問に思ったことについて、質問紙調査や実験等を実施して体験的に明かにする。最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策や対処法について考察するとともに、子どもへの指導法について検討して教材を作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、今日の健康問題を理解する・・・個人レポートの発表</li> <li>2、健康学研究の方法を知る・・・研究論文の講読と検討</li> <li>3、ゼミ研究の共通テーマを決める        〔過去のゼミテーマ〕       <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児のアトピー性皮膚炎</li> <li>・保育者のエイズへの意識と対応</li> <li>・保育者のストレス状態とその背景</li> <li>・学生の月経痛の状況とその対処法</li> <li>・肥満とダイエット</li> <li>・ダイオキシンと母乳</li> <li>・足の健康問題とケア・対処法</li> <li>・健康的な食育と楽しい食事援助の方法</li> </ul> </li> <li>4、研究テーマに関する事項について文献講読する</li> <li>5、文献研究で分からなかった事項について、質問紙調査や実験等を実施する</li> <li>6、健康問題の解決と教材づくり及び模擬指導の体験</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>研究レポートや集団討議への活動意欲と努力</p>	

【授業科目】	ゼミナールII	【担当者】	師 岡 章
【開講期】	2 年 前 期・後 期		
【授業目標】	<p>1. 子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える。</p> <p>2. 確かな保育実践を展開する上で必要な専門的力量について考察する。</p> <p>3. 問うこと、調べること、わかること、の楽しさを味わう。</p>		
【テキスト】			
【参考書】	授業時に適宜、紹介する。		
授 業 計 画			
<p>〔子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える〕</p> <p>保育において遊びを重視することは自明のことである。しかし、実際にはそれがスローガンに終わり、真に遊びを中心とした保育実践が展開されているとは言い難い状況がある。未来の保育者にはこうした現状を改善していく視点と力量を身につけていくことが求められている。</p> <p>そこでゼミナールIIでは、以下に上げる内容を通して、子どもの遊びを重視した保育実践の在り方について考察したい。</p> <p>① 保育実践をめぐる現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもの育ちと課題を探る</li> <li>・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の改訂内容を考える</li> <li>・多様化する保育実践の問題点を探る</li> </ul> <p>②子どもの遊びを重視した保育実践の在り方を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナールIでの学びを基に、各自が関心を持つ研究テーマを出し合う。</li> <li>・討論を通して、テーマを絞り、自主的に調べた内容をまとめていく。</li> </ul>			
【評価方法】	ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み		

[授業科目名]    ゼミナールⅡ	[担当者] 八木 絳一郎
[開講期]        2年 前期・後期	
[授業目標] 子どもの発想と表現を豊かに育むための効果的援助方法を「造形人形劇活動」を通して身に付ける	
[テキスト・参考書] 未定	
<b>授 業 計 画</b>	
<p><b>保育のための「造形人形劇研究」</b></p> <p>具体的な方法手段として、「造形人形劇活動」を「できるかな」的な工作人形劇活動として展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)身近な素材を加工していくプロセスそのものを劇にする＝たとえば、「小人のぼうけん」のような紙一枚で行う人形劇を通して、なぜかを考察していく。</li> <li>2)音楽・リズム・動きを総合的に扱う。</li> <li>3)絵本や昔話を創造的想像をめぐらしてアレンジする。 その際には、原作に関する分析考察を行いながら、上演意図について絞り込んでいく。 たとえば、「ももたろう」の背景について、なぜ3匹の動物が登場するのか？なぜ他の強そうな動物を連れて行かなかったか？サルや雉たちがきび団子で命をかけて「ももたろう」に加勢するのはなぜか？持ち帰った宝物はどうしたか？ももたろうは、その後どうしただろうか？などを考察しながら、この原作が意図しているメッセージは何か？などを分析し、自分たちはどう考えるか。どういうふうにか考えたいか。出かけていく季節は？もし夏だったら、もし秋だったら、冬だったら、モモは一つしか流れて来なかったのか？もしかしたら沢山流れてきたかもしれないなど創造的想像をめぐらす。そうしたなかから、子どもたちに何を見せ、何を考えさせ、何を伝えたいのかを検討しあい、表現として創作していく。</li> <li>4)上演活動に関する記録 後できちんと分析考察するために記録及びデータをとっていく。(映像・アンケートなど)</li> <li>5)上演の意味・意義に関する考察 上演した人形劇を通して、見る子どもたちや、保育にどう役立つのかなどについて保育現場と連携して考察して、保育に役立つように検討していく。</li> <li>6)企画準備から運営・上演・まとめまでの一連の活動を通して、「創造的想像」を実現させる組織的活動の運営調整方法を学ぶ。保育現場における多様かつ複雑な保育環境状況のなかで、個性を生かしあう場としてアート活動のコーディネートとの必要性と具体的な対策技術を習得できるようにしていく。</li> </ol>	
[評価方法] 平常点	



<b>【授業科目】</b> ゼミナールⅡ	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b> 2年 前期・後期	
<b>【授業目標】</b>  自然界には模範ない解答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心をもち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。今年度のテーマは“森や林の博物誌”	
<b>【テキスト】</b> 「日本の美林」 岩波新書 「自然観察入門」 中公新書 ほか	
<b>【参考書】</b> 木の本 森と遊ぶ 木の実・きのこの図鑑 森の展覧会 ほか	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">         自然に対する知識や、私たちの生が深く自然に根ざしている感じを子どもたちに伝えるためには、まず大人が自然を見直してみる必要があるだろう。もう一度、野や山を歩いて、自然の美しさ、すばらしさ、楽しさを再発見し、日本の自然、日本の風土に新鮮な眼をひらく必要があるだろう。          (日浦 勇『自然観察入門』)       </p> <p>         2003年4月4日(野外実習) 創られた森を歩く 明治神宮の森 真鶴半島魚付き保安林          個人課題の検討          8 武蔵野の雑木林(春1) ウォッチング          15 日本の森や林          29(野外実習) 高尾の森          5月6日 武蔵野の雑木林(春2) ウォッチング          6月3日 資料の整理①(写真やスケッチなど)          10 武蔵野の雑木林(初夏) ウォッチング          17 樹木の年輪を見る 年輪標本作成          22(野外実習) 原生の森を歩く①(青木が原樹海)          24 個人課題の中間発表①          7月1日 個人課題の中間発表②          8 個人課題の中間発表③          15 武蔵野の雑木林(夏) ウォッチング          22 資料の整理②          8月~9月(夏ゼミ合宿) 原生の森を歩く②(場所未定)          9月上旬 武蔵野の雑木林(夏) ウォッチング          23日 後期授業開始       </p>	
<b>【評価方法】</b> 平常点+レポートなど	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について、文献の精読、レポートし報告、討論、研究方法の習得により理解を深め、グループ研究を行う</li> <li>2 動きの追求を行ない、表現力豊かに動け、子どもと共に動くことを楽しめる保育者になることを目指す</li> <li>3 集団学習や共同作業を通して企画力、創造力、実行力を養う</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」 舞踊学第2号 舞踊学会  若松美恵子 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、体操、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問から研究テーマを見出し、研究を進めると共に、学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 先行研究の精読</li> <li>② 研究テーマ、方法の決定および研究の推進</li> <li>③ 学生自身の選んだテーマで身体表現活動</li> <li>④ 手あそび、フォークダンス、リトミック、体操、身体表現の模擬指導</li> </ol> <p>後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 身体表現（ダンス）を文化祭で発表する</li> <li>② 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する</li> </ol> <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>3歳児、4歳児、5歳児の身体表現の指導のあり方  幼児の身体表現、リズムカルな動き、フォークダンス、体操の指導法について</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する</p>	

【授業科目】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩 ・ 近藤正樹
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「見学・観察実習」をふまえて、2年次は、3週間にわたる実習で、幼稚園教育に参加する。今回は、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携</p>	
<p>【参考書】</p> <p>「幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう」 萌文書林 阿部明子・岡本富郎 ほか 著</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次の実習は、「参加・指導実習」という段階の実習である。この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>【2年次】 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1週目 ・ 保育計画の流れと関係させて指導を理解する。 ・ 子どもの遊び場を主に観察する。</p> <p>2週目 ・ 指導に部分参加（指導計画案の作成） ・ 子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する。</p> <p>3週目 ・ 子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>今回はとくに、「指導計画」を立案することが求められるので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。 2年次のオリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 参加・指導実習とは（全般的説明）</li> <li>② 遊びへの関わり方</li> <li>③ 実技（絵本・童話・手遊び）</li> <li>④ 指導計画の立て方</li> <li>⑤ 教材研究（指導実習に向けてのアイデア）</li> </ol>	
<p>【評価方法】 ① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅱ） 【担当者】 鈴木佐喜子、秋山治子、船津秋子

【開講期】 2年前期・後期

【授業目標】

保育所実習Ⅰで掲げた授業目標を踏まえ、これまで学んできた保育科での教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を養う。

そのために1年次に自ら掲げた実習の「目的・意義・テーマ」、「実習を終えた後のまとめ」等を再度確認し、実習Ⅱの「目的・意義・テーマ」を立てる。また、保育所における子どもの生活と活動、指導計画、指導法、指導案の立て方を学ぶ。また、可能な範囲で部分実習、指導実習に参加し、実践的経験を積む。

【テキスト】

『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。

【授業の進め方】

保育所実習Ⅰを深め保育士資格を得て専門的保育士として機能できるよう一層の知識・技術の習得とともに倫理観の確立を図る。

(実習前)

I. 「保育所実習Ⅱ」の進め方と実習日誌の書き方（講義）

- (1) いま、求められる保育所の役割
- (2) 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容
- (3) 実習への心構えと諸注意、特に個人のプライバシー保護と守秘義務、子どもの最善の利益、人権の尊重についての理解
- (4) 実習日誌の書き方

実習日誌を書く目的、意味、日誌を書く上での諸注意 記録のポイント

II. 子どもの発達と活動について学ぶ（講義）

- (1) 子どもの発達と観察
- (2) 子どもになじみ、その遊び、生活について学ぶ
- (3) 子どもへの関わりについて学ぶ

III. 保育所における子どものあそびと指導計画、指導案、指導法

- (1) 3歳未満児の生活・遊び・指導計画
- (2) 3歳以上児の生活・遊び・指導計画

IV. 保育における子どもの生活と保育（講義）

- (1) 保育所における子どもの姿
- (2) 保育所における保育の特徴と日課
- (3) 保育所の職務内容と保育所の役割
- (4) 実習生に望むこと

(実習後)

V. 実習日誌の提出・点検・指導

【評価方法】

平常点（実習オリエンテーションの出席状況、出席態度を含む）で評価する

【授業科目】 実習指導（施設実習Ⅰ・Ⅱ）	【担当者】 中山正雄・堀江まゆみ・船津秋子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>児童福祉施設（保育所を除く）での実習は、保育士資格取得のための必修科目である。心身に困難や障害を持つ子ども達の生活に触れ、そこで働く保育士の姿や保育内容、技術などをつぶさに見、体験することで保育士としての職務を理解させる。実習での体験や疑問を持ち帰り、子ども達に関わることの意義を深める。実習を積極的にまた学びの多いものにするために、実習指導を行なう。</p>	
【テキスト】 大島恭二他（編）新保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房 2002年	
【参考書】 実習先の業種に応じた参考文献を5月に指定する	
授 業 計 画	
<p>1. 総合オリエンテーション</p> <p>(1) 児童福祉施設全般についての理解を深める</p> <p>(2) 実習の目的・獲得目標・実習への姿勢を確認する</p> <p>(3) 各配属先の施設に関する基本的な目的と内容を理解する</p> <p>2. 制度オリエンテーション</p> <p>障害系施設と養護系施設に大別し、法律、制度の現状について理解する 児童福祉法、児童福祉施設最低基準など</p> <p>3. 援助内容オリエンテーション</p> <p>障害系施設と養護系施設に大別し、施設における生活の流れ、職員の関わり方、子どもの理解について学ぶ</p> <p>4. 現場講師によるオリエンテーション</p> <p>知的障害、身体障害、重症心身障害、養護施設に大別し、現場職員を招いて施設での実際について学ぶ</p> <p>5. 現場実習と訪問指導</p> <p>実習期間に実習先職員による指導と、教員の訪問による指導を行い、実習をより効果的に進める</p> <p>6. 反省会</p> <p>実習後に各ゼミナールごとに反省会を行い、実習で得たこと反省することを深める</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1～6の全ての出席、課題の提出、日誌の記載、実習の態度等を総合して判断する</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子、秋山治子、船津秋子
【開講期】 2年次 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育所実習Ⅰを土台に以下の事項を目標に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の保育に実際に参加し、実践してみるなかで、保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、向上を図る。</li> <li>2. 保育所の役割、保育における生活、子ども、保育士の関わりや職務内容についてより深く学ぶ。</li> <li>3. 家庭と地域の生活実態について目を向け、保育所に求められている役割と実習施設での取組について学ぶ。</li> <li>4. 保育士としての役割、職業倫理等をより深く学ぶ。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>学内での実習関連教科目および「実習指導」を受講後、今年度は、9月8日（月）から19日（金）の10日間で保育所実習Ⅱが行われる。実習施設の事情によって違いはあるものの、可能な範囲で保育実践に参加し、指導計画に沿って実践するなかで保育所の生活や保育の実際、乳幼児に対する理解を深め、実践に必要な知識・技能を高めるとともに保育所の機能、保育士の職務について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 可能な限り保育全般に参加させてもらい、実践的経験を積む</li> <li>(2) 子どもの理解を深め、個人差を考慮した対応方法を習得する。</li> <li>(3) 指導計画を立案し、実践するなかで実践的力量的向上を図る。</li> <li>(4) 地域社会や家庭での子育て実態について学ぶ。</li> <li>(5) 子どもの最善の利益がどのように考慮されているかを理解する。</li> <li>(6) 保育士の専門性や倫理観を学ぶ。</li> <li>(7) 安全および疾病予防への配慮について学ぶ</li> <li>(8) 保育所の保育士に求められる資質・能力技術に照らし、自己の課題を深める。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習オリエンテーション(実習指導)への出席および受講状況、実習日誌の記録実習中の出欠席・学内反省会の状況などを総合して評価する</p>	

【授業科目】 施設実習 I	【担当者】 中山正雄 堀江まゆみ 船津秋子
【開講期】 2年 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 児童福祉施設の内容・機能・保育士としての職務のあり方などを実践の場で観察・体験を通して理解させる。 2. 授業で学んだ知識・技能・理論を実践の場で総合的に体験することにより、応用力・行動力を養う。 3. 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を実体験させる。 4. 親元を離れ児童福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益の具体化について学ばせる。	
<b>【テキスト】</b> 大島恭二他（編）新・保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房	
<b>【参考書】</b> 授業の中で紹介する	
授 業 計 画	
1. 実習施設について理解させる。 2. 一日の生活の流れを理解し、参加することにより日々の生活の意味を理解させる。 3. 子どもの観察や直接の関わり、職員の対応や助言などを通して子どものニーズを理解させる。 4. 施設の運営・援助計画などの実際を理解させる。 5. 生活や援助の一部分を担当し、養護技術・援助方法を習得させる。 6. 職員間の役割分担やチームワークについて理解させると共に職員としての資質について学ばせる。 7. 子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解させる。 8. 記録や職員からの助言、観察などを通して家庭・地域社会との関係調整の役割を理解させる。 9. 施設で生活する子どもの理解を深め、親と子の関係を学ばせる。 10. 24時間の生活で丸ごと子どもを養護していくための安全や衛生等の配慮について理解させる。  実習は10月末から11月はじめを予定、実習先の関係で時期をずれて行うこともある。参考文献は学内オリで提示する。各実習施設に応じて適切な文献を読み感想文の提出が必要である。	
<b>【評価方法】</b>  学内オリへの出席、日誌の記載、実習態度、実習先評価、反省会などを総合	

【授業科目】 施設実習Ⅱ	【担当者】 中山正雄 堀江まゆみ 船津秋子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設の内容・機能・保育士としての職務のあり方などを実践の場で観察・実際の参加体験を通して理解させる。</li> <li>5. 授業で学んだ知識・技能・理論を実践の場で総合的に体験することにより、資質・応用力・行動力を養う。</li> <li>6. 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を理解させる。</li> <li>7. 親元を離れ児童福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益を具体化する援助の方法と能力について学ばせる。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">大島恭二他（編）新・保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">授業の中で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設について理解し養護業務に参加することにより養護の方法・技術を習得させる。</li> <li>2. 一人一人の子どもに応じた援助のあり方を理解し、幅広い子どもへの理解と援助技術を学ばせる。</li> <li>3. 子どもの観察や直接の関わり、職員の対応や助言などを通して子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。</li> <li>4. 施設の運営・援助計画などの実際を理解し援助計画の立案及び実践を通して学ばせる。</li> <li>5. 職員間の役割分担やチームワークについて理解させると共に職員としての資質について学ばせる。</li> <li>6. 子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解させ、その実現についての施設の努力内容を理解させる。</li> <li>7. 記録や職員からの助言、観察などを通して家庭・地域社会との関係調整の役割を理解し、部分的な参加を通してその方法を習得させる。</li> <li>8. 施設で生活する子どもの理解を深め、親と子の関係を学ぶと共に、家庭再建への援助について学ばせる。</li> <li>9. 24時間の生活で丸ごと子どもを養護していくための安全や衛生等の配慮について理解し、保育士に求められる資質・能力・技術及び倫理を具体的に学ばせる。</li> <li>10. 施設から地域の福祉に貢献する保育士としての姿勢と課題を学び明らかにさせる。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">学内オリへの出席、日誌の記載、実習態度、実習先評価、反省会などを総合</p>	





学籍番号・

氏名・

---

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

教務課 042(346)5619